

平成 29 年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会

# — 目 次 —

土佐厚生会	1
障害者支援施設 こくふ	9
短期入所事業所 こくふ	19
相談支援センター アルペジオ	20
就労継続支援B型事業所 ウィール社	22
就労継続支援B型 ワークセンターファースト	32
障害者支援施設 あき	40
短期入所事業所 あき	52
特別養護老人ホーム 八流荘	53
短期入所特別養護老人ホーム 八流荘	61
デイサービスセンター やながれ	62
ホームヘルプステーション やながれ	65
在宅介護支援センター やながれ	67
小規模多機能型居宅介護事業所 南風	68
障害者支援施設 とさ	72
短期入所事業所 とさ	84
就労継続支援B型事業所 カトレア	85
障害者共同生活援助事業所 古里の家	97
障害者福祉ホーム コーポラスこくふ	99
公益を目的とする事業	102

# 土佐厚生会

## I 基本方針

土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者様が地域社会の一員として社会、経済、文化活動等に参加をし、有する能力に応じた日常生活を営むための適切な支援を行った。

各事業所内においては、安全で安心できる良質なサービスを継続的かつ安定的に提供できるよう、業務改善提案表彰制度に則った活気のある組織運営を進めた。

## II 事業の総括

- 1 役職員は、本会の基本理念とする「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を旨とし、必要な知識と技術の習得など、実践を重ねながら切磋琢磨し、常に改善を進めていく組織文化の構築を目指した。
- 2 役職員は、法人の基本方針に則り、社会福祉事業の主たる担い手として利用者様に対し、継続的かつ適切な福祉サービスの提供に努めるため、ご家族・行政機関その他福祉関係者との連携(報告・連絡・相談・確認)を密にし、きめ細やかな対応を図るなど利用者サービスの向上に努めた。
- 3 役職員は、提供する福祉サービスの質の向上を図るため、全施設、事業所において自己評価を行い、その結果を公表し社会福祉事業活動の透明化に努めた。
- 4 役職員は、個人の尊厳や社会的倫理を遵守し、社会福祉事業者に求められている自立性、公益性の確保に努めた。
- 5 本会の運営する施設、事業所は、地域の福祉ニーズに応えるため、地域住民、行政機関その他福祉関係者との連携を密にし、積極的に情報収集を行うなど地域貢献を図るべく、地域福祉の向上に尽力した。

## III 事業の概要

### 1 本会の主たる活動

(1) 理事会等の活動は以下のとおりである。

活動名	実施日	実施場所	主たる活動内容
理 事 会	平成 29 年 5 月 27 日	法 人 本 部	平成 28 年度事業報告・決算、監事の監査結果報告、評議員会の開催、諸規程の一部変更などの審議
	6 月 10 日	法 人 本 部	理事長・会長・業務執行理事の選任などの審議
	8 月 22 日	フアーモニー	評議員会の開催などの審議
	9 月 16 日	法 人 本 部	平成 29 年度事業進捗状況、平成 29 年度補正予算、評議員会の開催、事業所建設に伴う土地取得、施設整備事業入札指名業者、冷暖房設備の修繕、諸規程の新設及び変更などの審議
	12 月 2 日	法 人 本 部	平成 29 年度事業進捗状況、デジタル製版機導入、諸規程の一部変更などの審議
	12 月 14 日	法 人 本 部	施設整備事業入札指名業者などの審議
	平成 30 年 1 月 9 日	法 人 本 部	評議員選任・解任委員の選任、評議員候補者の推薦、評議員会の開催などの審議

理 事 会	平成 30 年 3 月 10 日	法 人 本 部	平成 30 年度事業計画・予算、平成 29 年度補正予算、平成 29 年度つなぎ資金の借入、評議員会の開催、定款の一部変更、施設長の任免、諸規程の一部変更、事業所の廃止などの審議
評 議 員 会	平成 29 年 6 月 10 日	法 人 本 部	平成 28 年度事業報告・決算、理事・監事の選任、社会福祉充実計画などの審議
	8 月 30 日	書面同意による 決 議 事 項	社会福祉充実計画
	9 月 30 日	法 人 本 部	平成 29 年度補正予算、土佐厚生会役員等報酬、事業所建設に伴う土地取得などの審議
	平成 30 年 1 月 17 日	法 人 本 部	平成 29 年度事業進捗状況などの審議
	3 月 24 日	法 人 本 部	平成 30 年度事業計画・予算、平成 29 年度補正予算、平成 29 年度つなぎ資金借入、定款の一部変更、理事の選任、事業所の廃止などの審議

活動名	実施日	実施場所	主たる活動内容
監事による 監査	平成 29 年 5 月 18 日 ～5 月 20 日	—	法人の事業、会計、財務についての書類監査、業務監査
	5 月 22 日	法 人 本 部	施設、事業所の経営及び会計事務、決算書の確認監査

(2) 各種会の活動は、以下のとおりである。

活動名	開催年月日	実施場所	主たる活動内容
業務執行理事会	毎月 1 回	法 人 本 部	理事長、業務執行理事等による重要案件の調査・審議を行った。
褒賞・懲戒委員会	平成 30 年 3 月 13 日	法 人 本 部	就業規則第 46 条に基づき本会及び関係機関へ表彰を行う役職員の選考

## 2 地区施設運営委員会

土佐厚生会の第三者機関である地区施設運営委員会は、あき、こくふ、とさの 3ゾーンにおいてそれぞれに設置されている。施設の利用者様やそのご家族及び地域住民の方々の法人や事業所に対する苦情受付及びその解決に積極的に取り組んだ。

## 3 人財の確保とその育成

(1) 新規学卒者の確保のため、以下の活動を行った。

学生へのアプローチ	内容
学校への求人活動	① 中四国、関西、東海エリア、関東地域の専門学校及び大学等へ求人票及び求人パンフレットの送付 ② 県内の高等学校、福祉系専門学校、大学へ学校訪問 ③ 中国・四国地区の大学等に訪問（10 月及び 3 月） ④ 県内の高等学校専用の企業情報誌 WANT に法人 PR 情報を掲載した。 ⑤ 高知県企業と関西圏の大学職員との情報交換会に参加し、学生の動向や就職活動などの情報交換と法人 PR を行った。（11 月）

	⑥ 高知県社会福祉法人経営青年会が主催する県内福祉系大学等教員との意見交換会（2月） 学生の動向等の情報収集と意見交換を行った。
就職フェア等	① 高知県教育委員会主催の高等学校求人事業所説明会（6月） 就職担当教員等と面談、就職予定者の情報収集と求人説明を行った。 ② 高知県教育委員会主催高校生のための企業合同説明会（7月） 法人PRのプレゼンを行った。 ③ 高知県福祉人材センター主催のふくし就職フェア（8月） 法人PRのプレゼンを行った。 ④ 高知労働局主催の新規大卒等就職フェア（8月） ⑤ 高知商工会議所主催の合同企業説明会（9月） ⑥ 高知労働局主催の高等学校新卒者就職面談会（11月） ⑦ 高知県福祉人材センター主催のふくし就職フェア（3月） 法人PRのプレゼンを行った。
広報活動	① スタッフブログを月1回以上更新し、福祉の職場を身近に感じてもらえるよう施設の出来事や行事を発信した。
求人情報の公開	① ハローワーク（若者応援宣言企業として認定） ② 高知県福祉人材センター ③ 新規大学卒業予定者専用のインターネット求人サイト(求人受付Navi) ④ リクナビダイレクトへの求人情報掲載 ⑤ 本会ホームページ

## （2）新規学卒採用者の内訳

① 平成29年度採用活動の結果、平成30年4月1日付け採用スタッフは以下のとおり

職 種	経 歴	人員
生活支援員（介護）	高等学校	2人
介 護 員	専門学校	1人

## （3）平成29年度の法人内部研修

利用者様の立場に立った良質かつ適切な福祉サービスの提供及び職員の能力発揮と成長機会の提供のために研修を実施した。集合研修は、コミュニケーション能力の向上と理念の共有を目的とした。階層別研修は、チームの強化に必要なリーダーシップや後輩を育成するための効果的な指導など、職位によって求められる人財育成力の向上を目的とした。また、対人関係において重要な自己の怒りをコントロールする手法、アンガーマネジメントの研修を専門の外部講師を招いて実施した。さらに、各職種におけるより専門性の高い知識と業務に直結する知識・技能の習得を目指して専門職会を実施した。これらの研修の実施によって、人間力の向上と働きがいのもてるより良い職場風土の醸成など、組織力の強化を図った。

### ①階層別研修

研修名	対象者	実施日数	研修の内容
新規採用職員研修	平成29年度 新規採用職員	6日間 (4月)	本会職員として必要な基本的知識の習得、理念の理解、就業規則と職場のルール、新人職員としての心構え醸成、関係法令や制度の理解、人事考課制度の理解、仕事の基本と接遇、安全配慮義務とコミュニケーション、施設見学

新規採用職員研修	平成 29 年度 新規採用職員	4 日間 (4 月)	基本的な介護知識を習得する
		8 日間 (4 月)	実践を通して基本的な介護技術を習得する
フォローアップ研修	平成 29 年度 新規採用職員 (新社会人のみ)	1 日間 (7 月)	仕事の振り返りや先輩職員との対話を通じて、職場での悩みや不安、問題点を共有し解決のヒントを得る また、コミュニケーション力を身につけ、働く意欲の向上を目的として外部セミナーに参加した
中級職員研修	2 等級 2 年目以降 1 等級	1 日間 (9 月)	後輩育成が組織にもたらす影響の理解、効果的な指導方法
上級職員研修	3 等級以上 2 等級以下で 施設長推薦者	1 日間 (1 月)	後輩育成が組織にもたらす影響の理解、効果的な指導方法
中間管理職研修	5～6 等級 係長、主任、師長	2 組/各 4 日間	人事考課制度の理解促進、部下の育成、対話スキル、モチベーション向上、チーム強化のために必要なリーダーシップの醸成
管理職研修	7～8 等級 施設長、事業所長 施設長補	2 組/各 4 日間	人事考課制度の理解促進、部下の育成、対話スキル、モチベーション向上、チーム強化のために必要なリーダーシップの醸成

## ②集合研修

研修名	対象者	実施日数	研修の内容
東京視察研修	勤続 3 年以上	2 組/各 3 日間	大手企業の生産システムと安全管理、リスクマネジメント、企業理念、サービスの本質を学ぶ
コミュニケーション トレーニング	主に受講 2 度目以降の正規、臨時	7 組/各 1 日間	他者意識とコミュニケーション能力の向上
アンガーマネジメント研修	受講希望者	1 日間	怒りに振り回されない安定した心の育成、世代間における価値観の違いの理解

## ③専門職研修

研修名	実施日数	研修内容
就労支援部会 栄養士会 PT 会 相談員会 在宅部門の会 入所サビ管会 介護職員会	各研修会内で 決定のうえ実施	専門分野における課題の相談や検討、業務効率化を図る
研修担当者会 採用検討委員会 人事考課検討委員会 IT 推進委員会	毎月 1 回 (全 12 回)	法人内研修計画及び企画、進捗状況の把握 求人活動の検討、活動結果の振り返り (平成 29 年 6 月より実施) 人事考課制度の研修企画、新制度に向けた準備、等級別職能要件書案の検討 情報化による業務効率化、コスト削減の情報交換及び検討

#### 4 介護職員初任者研修事業

福祉業界における人財育成と人財確保に向けた具体的な取り組みを進めるべく、平成 28 年度に引き続き介護職員初任者研修事業を実施した。本事業は介護サービスに従事する者、又は従事しようとする者を対象に、「介護の基礎知識・技術」と「介護の考え方のプロセス」等を身に付け、介護職の基本的な介護業務の遂行が可能となることを目的としている。内容はガイドラインに沿って本会の研修委員が検討し、講師は法人内の役職員を中心に、安芸市社会福祉協議会の協力を経て実施した。平成 29 年度は以下のとおり 7 名が受講し、平成 30 年 1 月 28 日に修了証を授与した。

受講者	人数の内訳
法人内介護スタッフ	5 名
外部受講者	2 名

#### 5 時間外労働

時間外労働は、平成 28 年度と比較すると法人全体で 4,258 時間減少し、およそ 6 割の施設で時間外を減らすことができた。

##### ① 平成 29 年度「時間外労働」の施設別合計

施設名	施設別合計 (時間)	職員 1 人平均 (時間)	施設名	施設別合計 (時間)	職員 1 人平均 (時間)
こくふ	2,015	44	あき	2,853	77
アルペジオ	54	54	デイやながれ	677	135
ウィール社	492	98	ホームヘルプ	148	74
ファースト	31	6	支援やながれ	54	27
コーポラスこくふ	31	31	南風	1,031	103
ファーモニー	8	8	とさ	1,000	21
法人本部	370	41	カトレア	258	43
八流荘	3,430	66	古里の家	2	2
時間外労働の合計	12,454 (職員 1 人平均 54)				

#### 6 特別休暇

結婚、忌引き、配偶者の出産以外に、リフレッシュ休暇として勤続 15 年、その後 10 年毎に 2 日の休暇を付与している。平成 29 年度のリフレッシュ休暇は、対象職員全員が取得している。また、資格取得支援休暇は、社会福祉士、介護福祉士等の資格試験日に休暇の取得が出来る制度で 9 名が取得した。

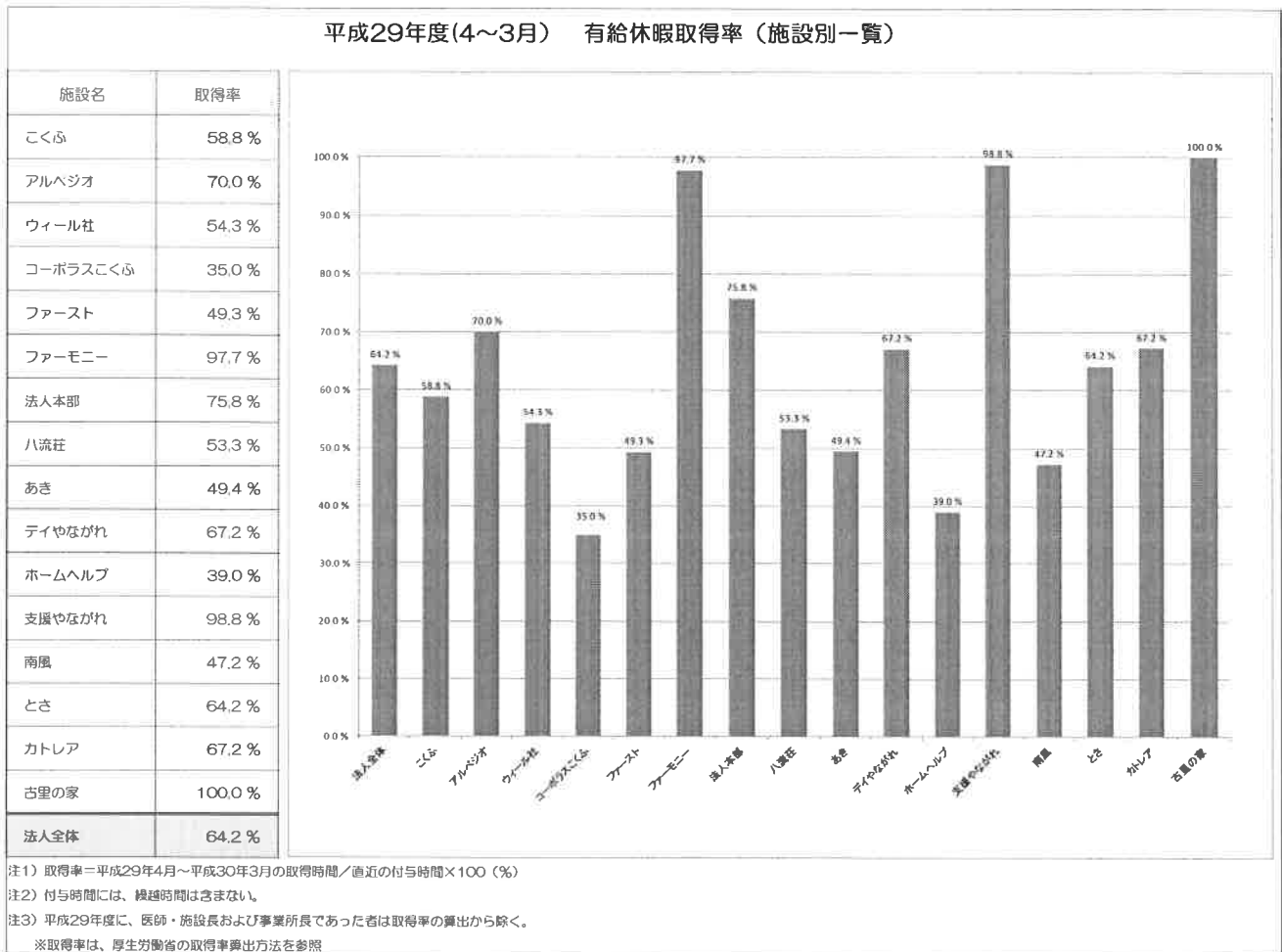
##### ① 平成 29 年度特別休暇取得者数

リフレッシュ休暇	資格取得支援休暇
8 人	9 人

## 7 有給休暇の取得率

法人全体の有給休暇の取得率は、前年度から3.9ポイント下がり64.1%となった。厚生労働省が発表した平成29年就労条件総合調査の概況によれば、企業全体の平均有給休暇取得率は49.4%、医療、福祉の事業所においては52.5%となっている。これを基に数値を比較すれば法人全体の取得率は全国的な平均を上回っている。しかし、法人イメージの向上や人財の確保・定着につなげるためにも有給休暇を取得しやすい環境づくりに取り組んでいく。

### ① 平成29年度(4～3月) 有給休暇取得率(施設別一覧)



## 8 退職者数

平成28年度と比較すると退職者数が増加している。そのうち、正職が平成28年度13名が平成29年度17名、嘱託(常勤)平成28年度11名が平成29年度14名となった。

### ① 平成29年度施設別退職者数

	こくふ	アルペジオ	ウィール社	ファースト	コーポラスこくふ	法人本部	あき	八流荘	デイやながれ	ホームヘルプ	支援やながれ	南風	とさ	カトレア	古里の家	合計
正職	5	0	1	0	0	0	0	6	1	0	0	0	4	0	0	17
嘱託	3	0	1	1	0	0	1	1	2	0	0	3	0	2	0	14
パート	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	2	0	0	0	7
合計	9	0	2	1	0	0	1	10	3	1	0	5	4	2	0	38



9 事故件数（通院不要で軽微なものを含む）

平成 29 年度の利用者様の事故件数は 54 件で、平成 28 年度の 41 件より 13 件増加した。

① 平成 29 年度利用者様、スタッフにおける施設別の事故件数

		こくふ	ウイール社	ファースト	ローポラスニくふ	あき	八流荘	ディヤながれ	ヘルプヤながれ	支援ヤながれ	南風	とさ	カトレア	古里の家	法人本部	合計
利用者	ヒヤリハット	15	0	0	0	13	40	4	0	0	11	67	0	0	0	150
	インシデント	42	3	0	0	24	160	18	3	0	25	61	1	0	0	337
	事故	9	1	0	0	5	23	2	0	0	0	12	2	0	0	54
スタッフ	車 輛 事 故	1	0	0	0	0	2	2	0	0	4	0	0	0	1	10
	労 働 災 害 (申請した件数)	2 (2)	0	0	0	1 (1)	3 (3)	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	7 (7)
	通 勤 事 故	1	1	0	0	1	3	1	0	0	0	2	0	0	2	11

※日時不明事故含む

10 定款第 44 条第 1 項に定める情報公開について

本会が設置経営している施設及び事業所の状況、その他、法人の透明性を図るため、次のとおり情報の公開を行った。

事 項	場 所
法人経営状況の公開、閲覧	こくふ、やながれ、とさの各福祉ゾーンで定款に定める情報開示を行った。 日本財団公益事業 web サイト canpan fields ホームページ
現況報告、財務諸表	法人ホームページ、全国社会福祉法人経営者協議会ホームページ
財務諸表	福祉新聞、機関紙

11 土佐厚生会高知駅前オフィスの設置と小規模作業所ファーモニーの運営

小規模作業所ファーモニーの 2 階空き室の有効利用と、法人及びファーモニーの地域に対する広報活動の充実を図るため、土佐厚生会高知駅前オフィスを開所した。平成 29 年度は日本福祉施設士会中国・四国ブロック福祉施設士セミナーの高知県大会が開催され、高知県福祉施設士会の事務局を同オフィスに置いた。全国からの参加希望者の受け入れ、その他開催準備等においては、オフィス開所に伴う大幅な効率化が図られたことで、柔軟かつ適切な対応が可能となり、大会は盛会裏に終えることができた。

小規模作業所ファーモニーの運営においては、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの Facebook を活用するなど、店舗サービスの情報発信力を向上させることで来店客数の向上に結び付けた。しかしながらこれに伴うスタッフの増員は収支状況を勘案すると大変難しいため、現在のところは法人内事業所からの受注によるお弁当の販売を中心とした店舗経営が望ましい。

12 やながれ福祉施設センター 増改築事業

やながれ福祉施設センターは、安芸市福祉避難所（平成 23 年 3 月 18 日協定）としての役割は勿論のこと地域の拠点施設としての機能を十分に果たすべく、施設の増改築に伴う建設用地の確保を必要としている。平成 26 年 8 月にやながれ福祉施設センター増改築事業プロジェクトチーム（企画部会）及びワーキングチーム（作業部会）の設置がなされ、地元住民の方々や各関係者との協議を今日まで重ねてきた。平成 28 年度に赤野地域関係者への用地確保のための説明会と具体的協議を実施し、施設建設に要する十分な用地の確保は難しいことが判明した。

このため、障害者支援施設あきの建て替えについては、現在の赤野地区を離れることを余儀なくされ、現在安芸市の協力を得ながら、安芸市内を限定した土地の確保に向けて関係者との協議を続けている。

しかしながら、安芸市においても南海トラフ地震に備えた市庁舎の建設や小中学校の移転統合、高知東部自動車道の延伸など大型投資事業が目白押しで、限られた地域内での土地の確保は難航するなど、年度内での確保は残念ながら達成できなかった。当法人としても当初の事業計画から既に3年半以上を要していることから、平成30年の夏を目途に安芸市外の土地確保の検討も視野に入れる必要性が浮上している。今後のやながれ福祉施設センターの中期計画は、設計士とも相談のうえ平成30年の夏頃までに示したい。

# 障害者支援施設 こくふ

## I 事業の総括

- 1 土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、「小さな気づき、大きな信頼」をスローガンとして、利用者様の気持ちに寄り添った支援を心がけ、利用者様、ご家族との信頼関係を構築できるよう努めました。
- 2 実稼働率の目標は、95%以上としておりましたが、年間の平均稼働率は93.8%に留まり、目標達成までには至りませんでした。
- 3 「施設を天災・人災から守る」を主旨としたこくふゾーン防災・防犯委員会を再度立ち上げ、マニュアルの見直しやフローチャートの作成等に取り組みました。
- 4 ノーリフトケアを推進するに当たって、ノーリフトケア委員会を立ち上げ、委員を中心に意義の周知と福祉用具の使用方法について、研修会を実施しました。
- 5 利用者様の些細な変化の気付きにつながるように、職員会でリスクマネジメント研修を年2回実施しました。
- 6 施設の外出行事は行先の希望を募り、5月から11月まで実施しました。

## II 事業の概要

- 1 月別稼働率状況、利用契約状況、スタッフ配置状況、施設外研修への参加状況

### (1) 施設の利用月別稼働率 (平成30年3月31日現在 単位%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
94.4	93.5	93.9	95.4	95.6	96.0	95.6	92.2	93.3	91.2	92.3	91.8	93.8

### (2) 利用契約の状況 (平成30年3月31日現在)

障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
生活介護	33人	28人	9人	7人	0人	0人	77人
施設入所支援	33人	28人	9人	7人	0人	0人	77人

### (3) スタッフの配置状況 (※数字は常勤換算、平成30年4月1日現在)

施設長	施設長補	事務員	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	管理栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	用務員	合計
1	1	1	2	0.4	3.9	1	1	1	36.25	2	0.25	50.8

### (4) 施設外研修への参加状況

事項	実施年月日	場所	人員
福祉施設士セミナー高知大会講師等打合せ	H29.4.17~18	東京都	1人
中四国身障施設協議会施設長総会	H29.5.11~12	岡山市	1人
高知県身障者児協会総会	H29.5.19	高知市	1人
防火管理者講習	H29.5.25~26	南国市	1人

事 項	実施年月日	場 所	人 員
土佐厚生会東京視察研修	H29. 5. 29～31 H29. 6. 5～7	東京都	8 人
高知県食と栄養の会 平成 29 年度総会	H29. 6. 13	高知市	1 人
全国身体障害者施設協会研究大会高知大会	H29. 7. 6～7	高知市	10 人
高知県リハビリテーション研究大会	H29. 7. 9	高知市	1 人
中四国福祉施設士セミナー・高知大会	H29. 8. 17～18	高知市	2 人
食と栄養の会第 2 回研修会	H29. 9. 13	高知市	1 人
中堅職員ステップアップ研修	H29. 9. 26	高知市	2 人
平成 29 年度施設長実学講座	H29. 9. 27～28	東京都	1 人
国際福祉機器展	H29. 9. 29	東京都	1 人
高知県指導的職員研修	H29. 10. 2～3	高知市	2 人
中四国身障施設協議会職員大会	H29. 10. 5～6	高松市	4 人
高知県給食関係者研修会	H29. 10. 5	香南市	1 人
第 10 回中国四国ブロック福祉改善活動発表大会	H29. 11. 7	高松市	2 人
中四国身障施設協議会支援職員研修会	H29. 11. 15～17	鳥取県	2 人
中四国身障施設協議会事務管理研修会	H29. 11. 29～30	岡山市	2 人
食と栄養の会第 3 回研修会	H29. 12. 5	高知市	1 人
高知県サビ管研修	H29. 10. 27 H29. 12. 5～6	高知市	3 人
全身協第 7 回職員スキルアップ研修会	H29. 12. 11～12	東京都	2 人
高知県身体障害者児施設協議会生活部会研修会	H30. 2. 21	四万十市	2 人
食と栄養の会第 4 回研修	H30. 3. 14	高知市	1 人

## 2 リスクマネジメント対策の実施状況

### (1) 総合的な防災訓練と避難訓練の実施状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	回数計
避難誘導訓練		1										1	2
消火訓練		1										1	2
通報訓練		1						1				1	3
地震訓練										1			1
図上訓練		1					1					1	3
夜間訓練								1					1

(2) 利用者様のリスク回避に努めるよう、職員会で年 2 回リスクマネジメント研修を行いました。

(3) 施設に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適正に対応する為に「こくふ地区施設運営委員会」を設置し、目安箱による苦情受付の他、毎月 1 回外部の第三者委員によります利用者様からの意見聴衆の機会を設けました。また次のように苦情等の申し出窓口を設けて、日常的な苦情を受け付け、その解決に当たりました。なお、相談受付は年間 12 回、定例会は年間 3 回実施いたしました。

苦情解決責任者	施設長
苦情等の申し出窓口	サービス管理責任者

(4) 平成29年度に寄せられた苦情、意見の概要

	施設内の問題	その他の問題	計
こくふの苦情等の申出窓口	3	0	3
こくふ地区施設運営委員会	5	0	5
高知県こまりごと相談所	0	0	0

3 文化的、社会的活動の実施状況

(1) サークル活動状況

① サークル参加者

(平成30年3月31日現在 単位：人)

加入者			未加入者			合計		
男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
32	22	54	14	9	23	46	31	77

② サークル開催状況

(平成30年3月31日現在 単位：人)

	男	女	計	指導者の区分	指導補助者	開催状況
俳句	1	5	6	スタッフ	無	月1回
生花	2	9	11	ボランティア	有	月1回
リズム音楽	7	5	12	スタッフ	無	月2回
麻雀	4	0	4	スタッフ	無	月2回
手芸	0	8	8	スタッフ	無	月2回
カラオケ	7	8	15	スタッフ	無	月2回
レクリエーション	9	9	18	スタッフ	無	月2回
園芸	9	1	10	スタッフ	無	月2回
筆でアート	6	10	16	スタッフ	無	月2回
散歩・外出	13	7	20	スタッフ	無	月2回
リラクゼーション	2	7	9	スタッフ	無	月2回
映画鑑賞	10	4	14	スタッフ	無	月1回
ミニ喫茶	希望者	希望者		スタッフ	無	月1回
料理教室	希望者	希望者		スタッフ	無	月1回
計 種目(延べ)	59以上	80以上	139以上			

(2) 年間行事等

(平成30年3月31日現在)

行事名	実施日	実施場所	実施内容・参加者
外注の日	2か月に1回実施	モデル住宅 及び藤の間	都人寿司店からの取り寄せ 1回8人程度
アニマルセラピー	年間3回実施	施設内	ボランティアの協力を得て犬や猫と直接触れ合って頂く・20人程度
流しソーメン	平成29年8月30日	北川駐車場	流しソーメンをして利用者様とのコミュニケーションを図る
かき氷	平成29年8月23日	食堂ホール	かき氷をして利用者様に楽しんで頂く
秋の法要	平成29年9月14日	施設内銀杏の間	国分寺住職による法要 15名程度
ミニ運動会	平成29年10月25日	食堂ホール	利用者様・ご家族・職員共に心身のリフレッシュを図る

行事名	実施日	実施場所	実施内容・参加者
クリスマス忘年会	平成 29 年 12 月 20 日	食堂ホール	地域関係者招待しコミュニケーションを図る
節分豆まき	平成 30 年 2 月 3 日	施設内中庭	年男年女中心に豆まきをし、厄払いをする
春の法要	平成 30 年 3 月 15 日	施設内銀杏の間	国分寺住職による法要 10 名程度

※日常生活プログラムは別表 1 のとおりである。

(3) 地域住民との交流

交流活動	実施日	実施場所	ボランティア・団体など
清掃ボランティア	平成 29 年 4 月 29 日	施設内	天理教比江分教会様
こくふ福祉の村まつり	平成 29 年 7 月 22 日	施設内	地域の方、南国市地区社協様他
熊野神社大祭	台風のため未実施	施設内	熊野神社氏子の皆様
クリスマスのキャロリング	平成 29 年 12 月 22 日	食堂ホール	清和女子中学高等学校様
プランター贈呈	平成 29 年 12 月 25 日	施設内	北陵中学校生徒会様
施設見学	随時	施設全般	入所希望者、介護関係求職者等
国府地区 自主防災訓練に参加	平成 29 年 10 月 15 日	国府小学校	地域住民・国府地区消防団様

(4) 介護実習・体験実習の受け入れ状況

	実施日	受入 人数	実習・研修内容
平成福祉専門学校	平成 30 年 1 月 21 日～2 月 10 日	2	介護実習
労働安定センター	平成 29 年 10 月 25 日～10 月 27 日	3	介護実習

別表1 日常生活プログラム

区分	時間	日	月	火	水	木	金	土
施設入所支援	6:00							
	7:30	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床
	9:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
生活介護	10:15	自由時間	自由時間 自由時間 散髪 (月1回)	自由時間 自由時間	自由時間 懇談会 (月1回) 朝の集い (月1回)	自由時間 自由時間	自由時間 自由時間 ケア会議	自由時間
	11:45							
	13:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
		自由時間	自由時間 日中活動 麻雀 (第1・3週) 手芸 (第2・4週)	自由時間 日中活動 筆でアート (第1・3週) リラクゼーション (第2・4週) パン販売 (月2回)	自由時間 季節行事 日中活動 カラオケ (第2・4週) 散歩外出 (第1・3週) 美容室 (月2回) 外注の日 (2ヶ月に1回)	自由時間 銀行来寮 日中活動 ミニ喫茶 (第2週) リズム (第1・4週) 料理教室 (第3週) パン販売 (月2回)	自由時間 日中活動 レク (第1・2・4週) 生花 (第3週)	自由時間 日中活動 園芸 (第1・3週) 映画鑑賞 (第2週) 俳句 (第4週)
	16:20	ふれあい タイム	ふれあい タイム	ふれあい タイム	ふれあい タイム	ふれあい タイム	ふれあい タイム	ふれあい タイム
	17:00	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
	17:30	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
		自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
	22:00	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯	居室消灯 廊下消灯
	23:00	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯	ホール消灯

※この生活プログラムは、標準的なものであり、諸事情により内容が変更する場合がございます。  
 ※プログラム内の日中活動は概ね 14:00～15:00 で実施します。

4 利用者様の概要

(1) 利用者様の障害別・性別・年齢別状況 (平成30年3月31日現在 単位：人)

区分	疾病・ 障害分類	脳性麻痺	損 傷			脊髄マヒ	脊髄小脳変性症	脳血管障害後遺症	頭部外傷後遺症	進行性筋萎縮症	その他	合計	左 の う ち		
			頸椎損傷	胸腰椎損傷	脊髄損傷								精神障害併発者	視覚障害保持者	聴覚障害保持者
性別	男	4	0	0	2	1	0	25	6	1	7	46	4	2	0
	女	13	0	0	0	1	1	11	0	0	5	31	3	0	0
	計	17	0	0	2	2	1	36	6	1	12	77	7	2	0
手帳等種別	1 級	10	0	0	2	2	0	28	4	1	5	52	4	2	0
	2 級	7	0	0	0	0	1	6	1	0	4	19	2	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	2	1	0	2	6	1	0	0
	計	17	0	0	2	2	1	36	6	1	12	77	7	2	0
年齢別	20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30～39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～49	5	0	0	0	1	1	0	0	0	2	9	0	0	0
	50～59	4	0	0	2	0	0	8	3	1	0	18	4	1	0
	60～64	4	0	0	0	0	0	7	0	0	6	17	2	1	0
	65～69	2	0	0	0	0	0	8	2	0	3	15	0	0	0
	70歳以上	2	0	0	0	1	0	13	1	0	1	18	1	0	0
計	17	0	0	2	2	1	36	6	1	12	77	7	2	0	

(2) 主たる疾病・障害の原因 (施設入所支援) (平成30年3月31日現在)

障害の 原因	事 故					疾 病				合計	
	交通事故	労働災害	その他の事故	戦傷病 戦 災	小計	先天性	後天性	その他	小計		
性別											
男	2人	1人	3人	0人	6人	6人	34人	0人	40人	46人	
女	0人	0人	0人	0人	0人	14人	17人	0人	31人	31人	
計	2人	1人	3人	0人	6人	20人	51人	0人	71人	77人	

(3) 利用者様の身元引受人状況 (平成30年3月31日現在)

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合計
13人	11人	13人	31人	7人	2人	77人

(4) 利用者様の年齢状況 (平成30年3月31日現在)

	最年少者	最年長者	平均年齢
男	41歳	81歳	63歳
女	44歳	81歳	60歳
全体	41歳	81歳	62歳



## (5) 日常生活動作等の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

介助区分	一部介助	全介助	備 考
食事介助	14 人	20 人	一部介助：スプーン等を使用し、一部介助すれば食事ができる。 全介助：全て介助を要する。
排泄介助	21 人	37 人	一部介助：介助があれば簡易便器及びトイレでできる。夜間はおむつを使用する。 全介助：全介助でトイレ使用、又は常時おむつを使用している。
着脱衣介助	31 人	36 人	一部介助：手を貸せば着脱できる。 全介助：すべて介助を要する。
入浴介助	40 人	31 人	一部介助：身体を洗うときや、浴槽の出入りに介助を要する。 全介助：すべて介助を要する。特殊浴槽を利用している。
移動介助	25 人	24 人	一部介助：車椅子等への移乗に介助を要するが、自力駆動で施設内を移動できる。 全介助：すべて介助を要する。
寝返り介助	27 人	28 人	一部介助：少し手を貸せば寝返りできる。 全介助：1 人では寝返りできないのですべて介助を要する。
移乗介助	34 人	23 人	一部介助：介助者 1 人で介助すれば移乗できる。 全介助：介助者 2 人で介助しなければ移乗できない。
おむつ使用者	36 (10) 人		( ) 内は、夜間のみ、おむつ使用者数
褥瘡者	2 人		発症場所 施設内 2 人 施設外 0 人

## (6) 月別在籍状況及び理由別入退所状況(施設入所支援)

(平成 30 年 3 月 31 日現在 単位：人)

	月初めの在籍者数	新規入所者の入所前の状況						退 所 理 由								
		家庭	医療機関	社会福祉施設(同種)	社会福祉施設(他種)	その他	計	社会復帰		家庭復帰	医療機関入院	社会福祉施設(同種)	社会福祉施設(他種)	死亡	その他	計
								就職	自営							
29 年 4 月	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
5 月	76	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 月	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
7 月	77	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	78	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
11 月	78	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
12 月	78	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
30 年 1 月	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 月	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	933	1	2	1	2	0	6	0	0	0	5	0	0	0	0	5

## 5 健康管理

### (1) 看護師による処置の内容（平成30年3月31日現在）

内 容	人 数
経管栄養（鼻腔）	4人
胃 瘻 栄 養	2人
バルンカテーテル留置	10人
吸入・吸引	9人(適宜)
摘便・ガス抜き	11人(適宜)
慢性創傷・皮膚科処置	25人(適宜)

### (2) 医療機関受診の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リハビリ	10	9	11	13	9	14	10	8	14	8	8	10	124
泌尿器	5	4	0	6	4	4	4	4	6	4	3	5	49
内科	11	8	12	9	7	15	9	14	19	13	9	10	136
歯科	6	4	7	1	6	4	11	13	6	8	2	7	72
整形	7	14	12	11	8	4	6	6	6	8	2	6	90
耳鼻科	7	7	5	5	5	5	6	3	5	3	3	3	57
脳外	1	2	1	0	1	2	2	0	3	0	0	0	12
眼科	2	7	1	5	3	3	3	4	5	6	5	6	50
精神	4	5	5	4	9	7	3	6	3	7	6	7	66
皮膚	7	3	5	2	2	3	3	6	1	6	7	5	50
外科	1	1	2	2	1	1	5	2	3	2	0	1	21
その他	0	1	2	0	0	0	2	0	1	1	2	1	10
婦人科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
神経内科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ER	0	6	0	7	5	1	2	5	3	4	5	1	39
緩和ケア	1	0	2	1	3	1	2	0	0	0	0	0	10
放射線科	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4
計	62	71	67	67	64	64	68	72	75	65	55	62	792

### (3) 入院の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	0	4	0	0	3	0	2	1	1	2	0	0	13
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
泌尿器	0	0	1	3	1	0	2	4	1	1	1	1	15
外科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
その他	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	4
計	0	4	1	5	5	1	5	5	4	5	2	1	38

### (4) リハビリテーションの実施状況

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
526	588	609	505	497	357	347	330	293	377	342	388	5159

個別訓練及び自主訓練の延べ人数は、上記のとおりで、1日平均 21.0名でした。

## 6 食事の提供状況

### (1) 嗜好の把握と献立反映状況 (平成30年3月31日現在)

嗜好の把握方法	年間回数	献立への反映の状況
嗜好調査	1回	行事食、代替食又は複数献立で対応した。
残滓調査	1095延回	
食事委員会	12回(月1回)	

※嗜好については、個別支援にて対応しました。

### (2) 全国各地の特色ある料理を「ご当地メニュー」として、次のように提供しました。

4月	高知ぐる煮、富山氷見うどん
5月	金沢ハントンライス、釧路ザンギ、高知薫焼きたたき、淹れたてコーヒー
6月	愛媛焼き豚丼、岩手盛岡風冷麺
7月	沖縄ゴーヤチャンプル、静岡桜エビかきあげ
10月	大分とり天、浜松餃子
12月	東大阪さば煮付け、名古屋とんかつ
1月	札幌味噌ラーメン、博多水炊き
2月	徳島ラーメン、富士宮焼きそば
3月	横須賀カレー、青森おでん

### (3) 外気に触れながら普段とは違う雰囲気ですべてを摂っていただく為に、中庭での昼食（春と秋）を実施しました。

春	4月	19日(3名)、20日(2名)、24日(3名)、27日(3名)
	5月	1日(3名)、2日(3名)、8日(3名)、11日(3名)、18日(3名)、23日(2名)
秋	9月	26日(3名)、28日(3名)
	10月	3日(3名)、10日(3名)、12日(3名)、23日(3名)、24日(3名)、25日(3名)、26日(3名)、31日(2名)

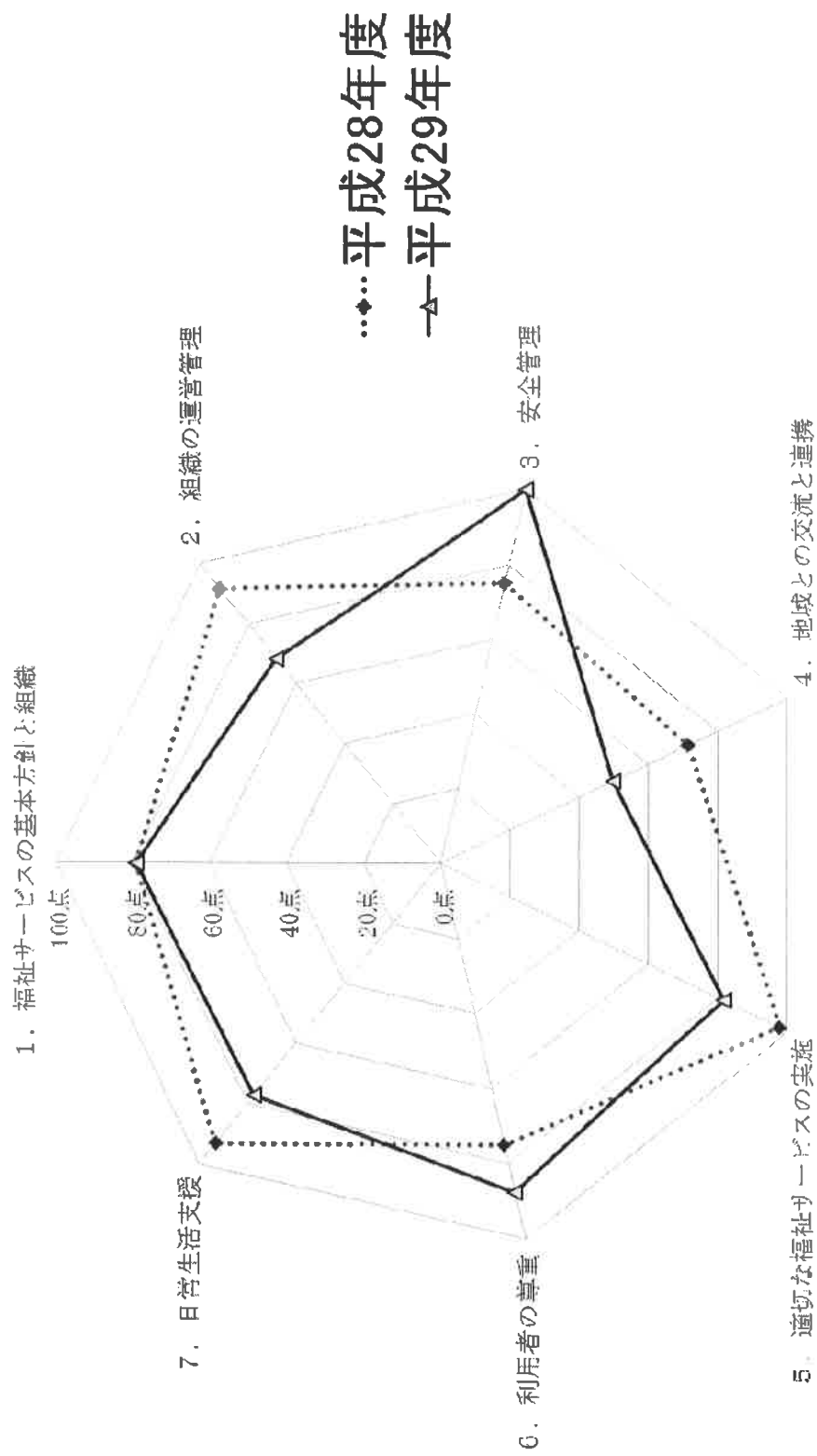
### (4) 「ロバのパン」「光の村」様の協力をいただき、パンの移動販売車に立ち寄ってもらい、利用者様自身が品を選び、味わい楽しむ機会を実施しました。

4月	4日(9名)、18日(15名)、21日(11名)
5月	9日(13名)、19日(12名)、23日(14名)
6月	16日(8名)、27日(18名)、30日(13名)
7月	11日(12名)、25日(15名)、28日(14名)
8月	4日(12名)、18日(18名)、22日(14名)
9月	5日(14名)、15日(14名)、19日(15名)
10月	3日(17名)、27日(14名)、31日(19名)
11月	10日(14名)、14日(16名)、24日(14名)、28日(18名)
12月	8日(16名)、12日(20名)、22日(14名)
1月	9日(19名)、19日(14名)、23日(17名)
2月	2日(15名)、6日(16名)、16日(19名)、20日(20名)
3月	2日(16名)、6日(19名)、20日(17名)

### (5) 施設園庭の桜が満開で、事務所協力で利用者様がコーヒーを飲みながら桜を鑑賞しました。

4月5日(水)	30名程度の参加がありました。	*経管栄養の方も桜を鑑賞されました。
3月28日(水)	40名程度の参加がありました。	

## 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設こくふ)



# 短期入所事業所 こくふ

## I 事業の総括

利用者様の介護に伴う、ご家族の身体的、精神的な負担を一時的に軽減するとともに、利用者様が可能な限り居宅において自立生活を営むことができるよう、障害者支援施設こくふに準じたサービスを提供させていただき、心身機能の維持向上に努めました。

## II 事業の概要

### 1 スタッフの配置人員

施設長	事務員	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	管理栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	用務員	合計
1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(3)	1(1)	1(1)	13(13)

(注) 単位は人、( ) は人員のうち兼務の人員

### 2 短期入所利用者様に対する日常生活の介護は、障害者支援施設こくふの利用者様の支援に準じて行い、安全で安心して生活を営むことができる事業所設備の維持管理と環境の保持に努めました。

- (1) 自立生活を促進するために必要な支援と相談を行いました。
- (2) 基本的な日常生活の支援を行いました。
- (3) 医療ケアと疾病の予防、健康管理を行いました。
- (4) 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。

### 3 利用者様の状況

事業所における利用者様の状況は、次のとおり。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

市町村名	障害程度区分	利用延日数
高知市	区分 6	37 日
高知市	区分 5	30 日
高知市	区分 4	315 日
安芸市	区分 5	6 日
南国市	区分 6	4 日
南国市	区分 4	5 日
香美市	区分 5	9 日
本山町	区分 5	7 日
計		413 日

# 相談支援センター アルペジオ

## I 事業の総括

- 1 特定相談支援事業の円滑な運営を図ると共に、利用者様の意思及び人格を尊重した指定計画相談支援の提供に努めました。
- 2 南国市の相談支援事業所との連携を密にする為に意見交換会に参加し、地域活動支援センター等とも連携をとるよう努めました。
- 3 サービス利用等利用計画やモニタリングは計画的に確実に作成し、関係機関に提出致しました。

## II 事業活動報告

### 1 サービス等利用計画作成状況 (平成30年3月31日現在 単位：件)

月 施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
こくふ	6	7	3	16	14	1	0	2	2	1	5	0	57
あき	2	1	0	0	6	3	1	0	0	0	0	0	13
とさ	0	0	1	1	0	11	0	0	0	1	0	1	15
ウィール社	1	1	1	1	4	1	1	0	0	1	1	1	13
カトレア	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	1	2	9
在宅 他GH	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	9	9	5	18	24	20	4	2	3	3	7	4	108

### 2 モニタリングの状況 (平成30年3月31日現在 単位：件)

月 施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
こくふ	3	2	1	1	0	1	1	3	0	7	5	5	29
あき	2	7	0	0	1	0	1	0	0	0	2	4	17
とさ	0	0	0	1	2	1	0	2	0	0	1	0	7
ウィール社	2	0	2	0	1	0	2	1	3	3	2	0	16
カトレア	0	1	0	1	0	7	1	0	3	0	1	0	13
在宅 他GH	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
合計	11	10	3	3	4	9	5	6	6	10	11	10	87

### 3 施設外研修への参加状況 (平成30年3月31日現在)

事項	実施年月日	場所	人員
障害者地域生活支援従事者研修会	H29.7.10	高知市	1名

事 項	実施年月日	場所	人員
障害者地域生活支援従事者研修会	H29. 7. 11 ～7. 14	東京都	1名
全国相談支援ネットワーク研修会	H29. 12. 17 ～18	東京都	1名
平成 29 年度発達障害者就労支援セミナー	H29. 9. 29	高知市	1名
地域生活定着支援センター高知刑務所見学会	H29. 12. 19	高知市	1名
障害者の地域生活支援に関する研修会	H30. 1. 22	香美市	1名
地域生活定着支援研修会 (障害持つ矯正施設退所者の地域生活支援)	H30. 3. 6	高知市	1名

# 就労継続支援 B 型事業所 ウィール社

## I 事業の総括

- 1 土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、人権尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者様の立場に立った福祉サービスの提供に努めた。
- 2 利用者様のニーズに沿った個別支援計画に基づき、必要な支援と仕事の提供を行い、経済的、社会的参加を促進した。
- 3 提供する福祉サービスの内容は、サービス利用説明書に基づいて行い、利用者様の自立生活と地域社会の一員としての自覚を促した。
- 4 地域社会と在宅者との結びつきを重視し、市町村・保健・医療及びその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する障害者支援施設こくふや福祉ホームコーポラスこくふとともに総合的な活動を行った。

## II 事業の概要

- 1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上を図った。
- (1) 職種・職員定数など配置規準を遵守し、優秀な人財確保と職員資質向上のための研修を行った。

### ① 職員の配置状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

職種名	所長	管理責任者 サービス	生活支援員	職業指導員	嘱託医師	(送迎運転手) その他	合計
職員配置数	1 (0.9)	2 (1.6)	1 (0.5)	4 (3.5)	1 (0.03)	2 (0.7)	11 (7.2)

( ) 内は  
常勤換算

### ② 施設外研修・学習会の参加状況

研修内容	実施年月日	場所	人数
障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」平成 29 年度第 1 回中央東地区連絡会	H29 5/24	香美市	1
平成 29 年度高知県障害者雇用セミナー「在宅雇用(就業)を考える」	5/25	高知市	1
平成 29 年度高知県福祉施設士会総会及び研修会	6/2	高知市	1
平成 29 年度全国社会就労センター総合研究大会	7/27~28	神戸市	1
第 39 回全国社会福祉施設士セミナー	8/3~4	東京都	1
平成 29 年度第 33 回中国・四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	8/17~18	高知市	2
安全運転管理者講習	8/16	南国市	1
平成 29 年福祉サービス苦情解決セミナー	9/4	高知市	1
平成 29 年度発達障害に関するセミナー	9/25	高知市	3



研修内容	実施年月日	場所	人数
平成 29 年度高知県相談支援従事者現任研修	H29 10/12～14	高知市	1
平成 29 年度高知県身体障害(児)者施設協会作業部会・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	H30 1/12～13	四万十市	3
馴染みの場所で自分の暮らしを営むために	1/22	香美市	1
障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」平成 29 年度第 2 回中央東地区連絡会	1/25	香美市	2
水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会	1/29	安芸市	1
障害福祉関係者のための高次機能障害者支援研修会	2/7	高知市	1
社会福祉施設総合保険制度説明会	2/14	高知市	1
障害を理由とする差別の解消に向けた地域フォーラム	2/16	高知市	1
平成 29 年度高知県身体障害(児)者施設協会施設長セミナー・高知県社会就労センター協議会合同管理者研修会	3/20	高知市	1

(2) 業務改善提案表彰制度を活用し、施設内・外の作業(業務)内容についての手法や手順、作業環境及び安全管理に対して常に問題意識を持ちながら、改善を図り、利用者支援の向上と業務の省力化を図った。

- ① 平成 29 年度の改善提案件数は 16 件で、年間の賞としては、銀賞・すごいで賞を受賞した。
- ② 諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

#### ア 施設運営関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の授産及び作業の予定</li> <li>・利用者様の出欠状況、健康状態の把握、注意事項の確認</li> <li>・職員の行動予定、業務連絡事項、ご家族調整の予定、課題など</li> </ul>
職員会	月 1 回程度	13	有	全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援会議(利用者全員対象、入所時、入所 3 ヶ月、6 ヶ月毎)</li> <li>・施設運営全般に関する連絡、報告、調整会議</li> <li>・出張報告・業務改善</li> <li>・利用者工賃の評価、決定その他</li> </ul>
衛生委員会	月 1 回	12	有	所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労衛生働安全法第 19 条に基づく、職員の安全と衛生保険に関する協議</li> </ul>
調整会	月 1 回	7	有	所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ゾーンの近況報告</li> <li>・各ゾーンの行事予定</li> </ul>

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
虐待防止委員会	2月1回程度	8	有	所長 サービス管理責任者	・こくふ福祉の村における利用者様に対する虐待防止のため、虐待防止に関するマニュアル作成、研修検討、啓発活動の検討などを行なう
就労部会	年4回程度	4	有	所長、サービス管理責任者、職業指導員	・就労事業所合同での課題、状況等意見交換

#### イ 利用者サービス関係

会議の名称	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
利用者懇談会	月1回程度	12	有	全職員	・利用者様からの意見・要望・質問等に対して職員が回答する相互意見交換 ・職員から利用者様への連絡事項、月次予定等の報告
食事委員会	年2回	2	有	栄養士 サービス管理責任者	・食事に関する協議。利用者様からの意見要望を聴き、毎日の献立や行事食に反映させる
こくふ地区施設運営委員会	相談受付 月1回	12	有	—	・毎月1回、担当委員による相談受付
	定例会 年3回	3	有	所長 サービス管理責任者	・定例会は第三者委員4名が出席し、相談内容等を協議

## 2 利用者様が安全で安心して利用することができる環境整備の充実とその維持管理に努めた。

### (1) 施設・設備の充実とその維持管理に努めた。

- ① 施設内の整理整頓及び清掃による環境美化に努めた。
- ② 四季の花を植え、快適で潤いのある生活環境を作るよう努めた。
- ③ 室内の温度、湿度空調設備などの管理を適切に行い快適な日常生活が送れるよう努めた。
- ④ 冷暖房による室温管理に注意を払うとともに、感染症予防のための清掃・消毒及び手洗い、うがい励行の促進に努めた。ノロウイルス対策としては、11月から3月までの毎週1回、次亜塩素酸ナトリウムを使用したモップかけ、雑巾がけを行った。
- ⑤ 設備の保守点検は、自主点検や外部委託により実施した。
- ⑥ 施設、設備の利用に当たっては、「施設利用に当たっての留意事項」を提示し、協力を要請した。
- ⑦ 害虫駆除（鼠・ゴキブリ）を定期的に行った。

### (2) 施設の災害や利用者様の事故防止など、安全対策の徹底を図った。

- ① 非常災害時に備えて地域の方々の支援を仰ぐため、国府地区自主防災訓練に参加し、地域住民との連携を深めるように努めた。
- ② 総合的な防災訓練、避難訓練を実施した。その内容は次のとおりであった。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/24										3/14	2
消火訓練		5/24										3/14	2
通報訓練		5/24						11/22				3/14	3
図上訓練								11/7				3/29	2
防災地震訓練								11/7					1
防災水害訓練								11/14					1

- ③ 施設の内外に発生する事故などの予防に努めた。
- ④ 施設設備の管理や防災上で重要な場所、又は火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。
- ⑤ 施設設備の点検を行い、必要な所は改善した。
- ⑥ 利用者様の入所時には、「火災及び災害時の心得」を提示して理解と協力を求めた。
- ⑦ 日赤救急法講習に参加し、AEDの手順を学んだ。
- ⑧ 喫煙場所は屋根のある屋外とし、受動喫煙や分煙対応に努めた。

### 3 就労支援活動と自立生活へ向けての生活支援に努めた。

#### (1) 個別支援計画に基づく自立生活の支援と作業活動の支援を行った。

- ① 利用者個人個人に応じた個別支援計画の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて、定期的にその見直しを行った。
- ② 職員は、利用者様及びその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らしてはならないこととした。
- ③ 利用者様の入・退所に伴い、医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。
- ④ 利用者様とご家族の関係など、利用者様が抱える悩み・不安の解決やその調整に努めた。
- ⑤ 利用者様の日常生活や社会生活上の相談助言など、ケースに応じた必要な支援を行った。
- ⑥ 利用者様の健康状態に応じて、主治医のいる受診病院等に同行し、情報提供と共に健康維持、管理上の所見を得て支援した。
- ⑦ 利用者満足を図るための外出行事のアンケート結果を踏まえて、今年度の外出はバーベキュー&焼芋・買物とした。利用者個々の希望にそってグループ分けした外出活動は満足度を高めた。
- ⑧ 就労を希望する利用者様に対して、関係機関と連携をとりながら職業評価を受け、求人登録・就労セミナー受講また職場実習の組み入れなど段階的に一般就労に向けた支援を行った。

#### (2) 医療、疾病の予防、健康管理とその保持に努めた。

##### ① 医療サービスの状況

- ア 時期に応じて自己管理の徹底を促した。
- イ 定期健康診断を行い、未受診者のないよう配慮した。
- ウ 加齢に伴う疾患（生活習慣病など）の予防とその対策に留意した。
- エ 保健衛生や健康に関する相談を受け付けた。
- オ 通院や入院は利用者様やその扶養義務者の責任において対応の依頼をした。
- カ インフルエンザと施設内感染症発生時や、季節の変わり目などにおこりがちな集団疾患が発生したときには、施設だけでは対応困難が予想され扶養義務者等の支援と協力を依頼した。

- ② 利用者様が専門医師等の診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院、又は次の協力病院において受診、治療を依頼した。

協力病院名	診療科目	所在地
J A高知病院	内科・外科・他	南国市明見字中野 526-1

- ③ 内部疾患だけでなく、未服薬者も加齢とともに血圧上昇がある。また、健康診断結果などから見ても、成人病予備軍となっている。

ア 時期に応じ自分の健康は自分で守るという意識付けを行った。

イ 健康に関する個人的な情報や疑問に対し、医師や看護師に気軽に相談できるよう努めた。

ウ 月に一度、定期的に体重と血圧測定を実施し、健康状態と変化把握に努め、対応をした。

- ④ 施設は就労支援活動を主とする場である。医療対策はご家族の対応や協力を得て行なった。

(3) 適切な食事の提供と健康の保持に努めた。

- ① 食事は外部委託しており、委託先業者の調理により提供した。

- ② 季節感ある食事や行事食、外食の工夫をして、食事の愉しみができるようにした。

- ③ 食品、調理場、その他器具などの衛生管理の徹底を図った。

- ④ 給食費、栄養量、保健、衛生及び食事摂取状況

ア 嗜好の把握と献立反映状況

把握方法	嗜好調査	年 1回
	残滓調査	年 249回
	嗜好カルテ	有

イ 食事委員会の実施状況

年 2 回、利用者様、サービス管理責任者、管理栄養士、委託先業者職員が参加をし実施している。

ウ 食事環境に対する配慮として、季節に応じた献立や行事の飾り付けをし、食事が楽しく食べられるように工夫している。

エ 献立内容にあった食器の配慮を行い、弁当箱への盛り付けや食材にあった食器・丸皿・小鉢等を使用し食事に変化をつけている。

オ 栄養指導の状況

食事委員会や嗜好調査などにより、できる限り希望に沿った対応をしている。

(4) 苦情解決の窓口は次のとおりであった。

- ① 当施設等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために、「こくふ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情等の受付の他毎月 1 回利用者様の相談日を設けた。意見箱への投稿 0 件、個別相談は 0 件であった。

- ② 施設には①のほかに次のような苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情の受け、解決に当たることとした。

苦情解決責任者	所長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

(5) 利用者様の自治会（わかば会）の活動尊重

ウィール社は、地域で生活する利用者様の方の生産活動の場である。社会人としての義務と責任を果たし、職員と対等の立場で意見交換をしながら、お互いに成長していくことを目標にして活動を尊重し支援している。行事の買物や銀行での通帳出し入れ等の支援は行っているが、主体は自治会であることを常に意識した活動を促進している。

(6) 車椅子修理の手続き

高齢化と身体機能の低下、また障がいにより歩行機能が低下している方が多くなっている。支給された車椅子が安全に安心して乗れているかチェックを行い、必要に応じて車椅子の修理手続きの支援を行った。

(7) 地域社会の一員としての自覚を促すため、地域のイベントへ参加した。また、外出を通じて親睦を深め、利用者様の気分転換を図った。年間行事は、次のとおり行った。

時 期	行 事	備 考
平成 29 年 4 月 7 日	春の外出	野市町にあるレジャー施設「アクトランド」へ行き、博物館の見学や散策など、互いの親睦を深めながら利用者様の気分転換を図った。
7 月 22 日	こくふ福祉の 村まつり	利用者様、ご家族、職員、地域住民、ボランティア等が参加をし、地域交流の一環としての相互理解を深めた。
9 月 14 日	秋の法要	敷地内にある祠の供養を行うと共に、利用者様・職員の安全と健康を祈願した
10 月 27 日	秋の外出	高松市の新屋島水族館へ行き、魚の鑑賞やイルカショーを楽しんで、利用者様の気分転換を図った。
11 月 16 日	秋の外出 (買物グループ)	高知市のイオンモール高知まで外出し、買物や映画鑑賞を楽しみ、利用者様の気分転換を図った。
11 月 17 日	秋の外出 (BBQグループ)	大豊町の姉妹施設ファーストにて、合同でバーベキュー&焼芋パーティーを行った。輪投げなどもして利用者間の交流をし、気分転換を図った。
12 月 25 日	クリスマス忘 年会	地域の方を招待し、ゆっくりと食事をとり、カラオケ、ボッチャ、ルーレット等のレクリエーションを楽しんだ。一年間の労をねぎらい互いの親睦を深めた。
平成 30 年 1 月 21 日	南国ボランテ ィア DAY	地域交流活動の一環として、希望者が参加をした。ウィール社は焼き芋を販売した。
3 月 15 日	春の法要	敷地内にある祠の供養を行うと共に、利用者様・職員の安全と健康を祈願した

(8) 施設見学希望者には、その都度対応し説明を行った。また、地域の小学生に対し、福祉学習体験の場として障害についての講義と作業実習を行った。

4 就労支援活動

(1) 授産事業売上状況

作業内容	28年度	29年度	対前年差額
印刷	15,698,584	14,127,595	-1,570,989
精米	5,173,255	5,257,872	84,617
煎茶粉末加工	327,570	313,891	-13,679
ゼリー包装	315,910	304,590	-11,320
衛生用品袋詰	473,025	578,812	105,787
砂糖袋詰	58,616	59,109	493
ティッシュ袋詰	158,776	157,218	-1,558
いりこ分解作業	421,501	454,015	32,514
入浴剤袋詰	56,219	31,620	-24,599
その他	54,395	109,852	55,457
合計	22,737,851	21,394,574	-1,343,277
平均工賃	21,769	23,298	1,529

## (2) 印刷部門

### ① 作業内容

受注した印刷物は、編集科での入力・デザイン・編集・校正作業を経て、印刷科で印刷仕上げ作業を行う。利用者様はその過程で、入力・検品・機械操作など障害特性や能力に応じて作業を行う。

### ② 売上状況

売上は前年比 90%、受注件数は減少していないが受注量の小口化傾向にあり減収となった。

### ③ 設備の導入

11月にデジタル製版機を導入し、印刷品質の向上・材料費コストダウン・製版作業の省力化など効果があり、今後はランニングコストの減少・工賃向上への反映が期待できる。

## (3) 精米作業

### ① 作業内容

精米作業は、精米機の組立、玄米を精米機に投入、精米した米の検品、袋詰（5k、10k、20k）、ぬかの袋詰、保管庫へ搬入、精米器の分解清掃の手順で行われる。その過程で、精米器の組立作業から利用者様が係って行う。

### ② 売上状況

売上げは前年比 102%で、微増であった。

## (4) 軽作業

### ① 作業内容

ウィール社利用者様 25名中 16名の利用者様が軽作業に携わっていて、全体の 2/3 に当たる。利用者様の障害は脳血管障害や、頭部外傷等による右片麻痺、左片麻痺、四肢障害、脳性麻痺による両下肢障害、知的障害、精神障害等、それぞれの障害特性を持っている。この障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施していて、障がいカバー、補助する手立てとして作業用自助具（滑り止めシート、片手シール貼り用自助具等）の活用や工夫をし作業効率や流れが円滑になるよう努めている。正確に確実にを行う能力と協調性が養われる作業のスピードは各人の障害特性に応じて異なる。

② 作業内容別の状況

ア お茶の粉末加工

2ヶ月に1回程度作業を行い、自動包装機（トパック）で8g入りの袋へ粉末のお茶として包装する作業を行う。

イ ゼリーの帯かけ（浜幸）

4月～8月期間商品のゼリーの帯かけ作業の注文で、シールを帯紙に貼りその紙をゼリーに帯掛け包装する作業を行う。

ウ 衛生用品の袋詰め（ミニパック）

使捨て清拭タオル・お産パット・おむつの検品・ゴミ取・袋入れ・シーラー作業を行う。

エ 砂糖の袋詰め（高生連）

30Kg入りの種子島産の砂糖を1kg入りの袋へ小分けする作業を行う。

オ ティッシュの袋詰め（和光製紙）

ティッシュを指定の数量で包装し、セロテープ止めをする作業を行う。

カ いらこの分解作業（やまくに）

干物（カタクチイワシ）を身・頭・粉・はらわたと手作業で分解し、それぞれ分類別に詰める作業を行う。

キ 入浴剤の袋詰め（松田医薬品）

不定期の作業依頼で、入浴剤の包装作業を行う。

③ 売上状況

売上は前年比108%であり、日々の作業が途切れることの無いよう工夫している。

III 利用者様の概要

1 平成29年度利用者様の在籍状況及び理由別入退所状況

（毎月初日現在）

区分 月	在籍者数 毎月初日現在	入所前の状況					退 所 理 由									
		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	その他	計	社会復帰		家庭復帰	医療機関入院	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	死亡	その他	計
								就職	自営							
29年4月	24											1				1
5月	23								1							1
6月	22							1								1
7月	21		1				1									
8月	22															
9月	22															
10月	22															
11月	22	1					1									
12月	23															
30年1月	23															
2月	23				1		1									
3月	25	1					1									
計	272	2	1		1		4	1		1			1			3

## 2 利用者様の状況

### (1) 利用者性別・年齢別構成状況 (平成30年3月31日現在)

区 分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	1	1	2
30～39歳	1	1	2
40～49歳	5	1	6
50～59歳	6	2	8
60～69歳	5	2	7
70歳以上	0	0	0
計	18	7	25
平均年齢	51.8歳	48.3歳	50.8歳

### (2) 手帳の交付状況 (受給者証障害種別) (平成30年3月31日現在)

【身体】 身体障害者手帳		【知的】 療育手帳		【精神】 精神障害者 保健福祉手帳		計
1級	8	A1	0	1級	1	25
2級	2	A2	1	2級	3	
3級	1	B1	1	3級	1	
4級	1	B2	1			
5級	1	手帳なし	3	手帳なし	1	
計	13	計	6	計	6	

### (3) 市町村状況 (平成30年3月31日現在)

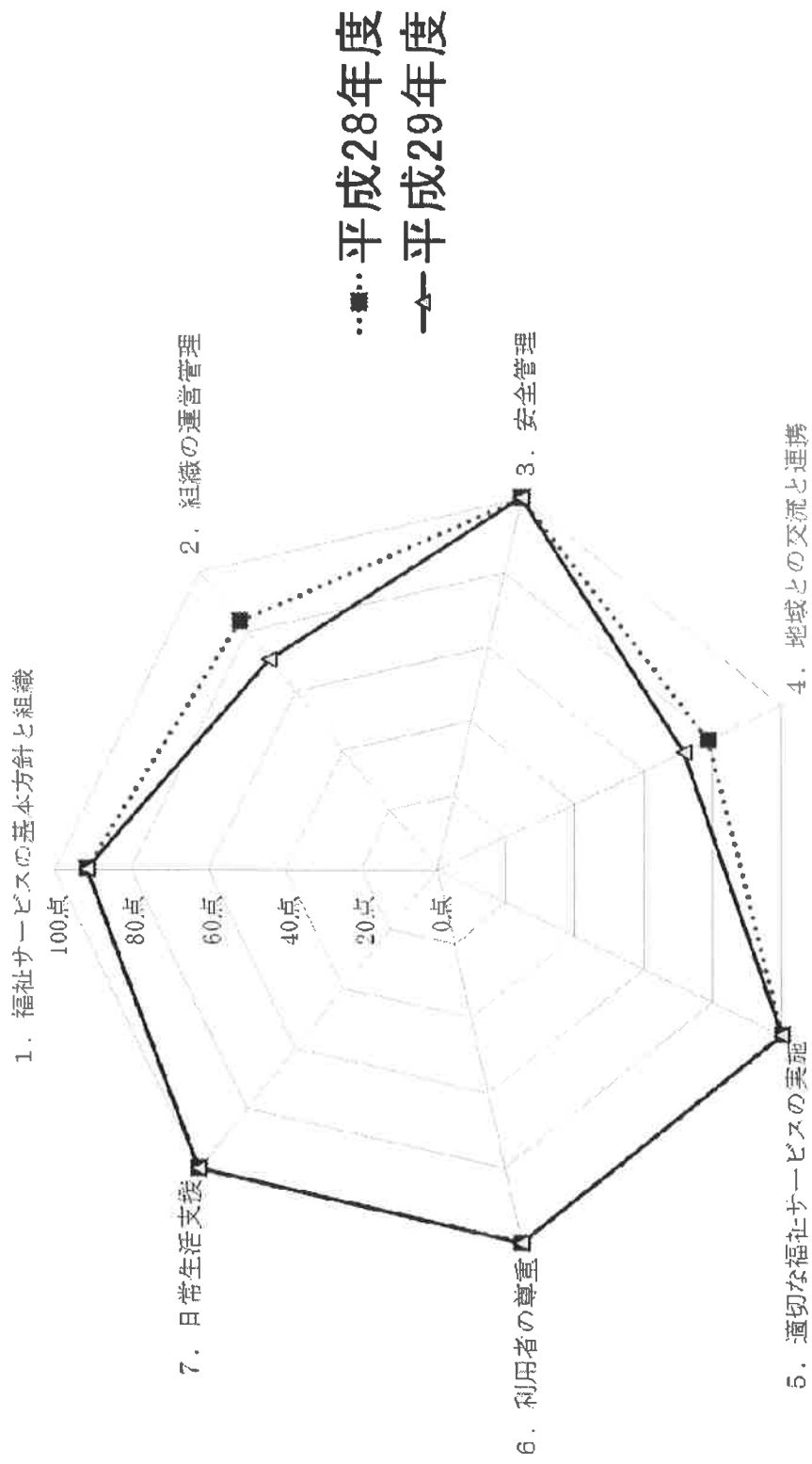
	南国市	高知市	香美市	香南市	いの町	大豊町	本山町	計
男性	10	4	1	1	1	0	1	18
女性	2	2	1	1	0	1	0	7
計	12	6	2	2	1	1	1	25

### (4) 月別利用状況

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
開所日数(日)	21	22	22	22	19	21	22	21	20	22	19	22	253	255
利用者契約者数(人)	24	23	23	22	22	22	22	23	23	23	24	25	23.0	24.0
利用者延人数(人)	445	449	443	447	396	436	451	452	428	469	418	508	5,342	5,398
1日平均(人)	21.2	20.4	20.1	20.3	20.8	20.8	20.5	21.5	21.4	21.3	22.0	23.1	21.1	21.2
稼働率(契約者)(%)	88.3	88.7	91.5	92.4	94.7	94.4	93.2	93.6	93.0	92.7	91.7	92.4	92.2	87.9
稼働率(定員)(%)	106.0	102.0	100.7	101.6	104.2	103.8	102.5	107.6	107.0	106.6	110.0	115.5	105.6	105.8



## 評価細目の自己評価結果 (ウィール社)



# 就労継続支援 B 型ワークセンター ファースト

## I 事業の統括

土佐厚生会の会是である、「愛情」・「奉仕」・「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努め、障がい者が働きながら地域において自立した生活ができるよう、主体的意欲と、作業能力を尊重した支援計画を作成している。利用される方々が安全で安心できる日常生活を営むことができるよう、各スタッフが連携を取りながら下記の目標の達成に努力をした。

### 1 活動援助

利用者様個々の障害特性に配慮し、又利用者様本人の働く意欲と作業能力を尊重し、所得の向上を目指した作業の確保や生産に努めるとともに、一般就労を希望する方には技術習得と実習の支援も行った。

### 2 生産活動、健康管理

利用者様個々の心身の健康状態を常に把握するとともに、日常生活を送るうえでの必要な金銭管理や対人関係の指導、援助を行いながら、自立した地域生活が送れるよう支援を行った。

### 3 個人情報保護法と虐待防止の遵守

個人の尊厳を旨とし、業務上知り得た利用者様の個人情報は「土佐厚生会個人情報保護の基本方針」に従い厳重に管理し、利用者様に対する虐待を防止するための必要事項を定めた「土佐厚生会虐待防止委員会運営要綱」を確実に遵守するとともに、虐待の防止に当たっては、「虐待防止マニュアル」に沿って、迅速かつ適切な処置を講ずるよう努めた。

### 4 環境の整備

安全で安心できる生産活動を行うために施設内外の改修、美化及び整理整頓に努めるとともに、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に努めた。

## II 事業の概要

### 1 適切な福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上

(1) 利用契約の状況は次のとおりであった。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

区分	障害					合計
	身障	知的	精神	身障・知的		
契約者数	2人	5人	3人	1人		11人

(2) 職種、職員定数な配置基準を遵守し、優秀な人財の確保と職員の資質向上のための研修にも積極的に参加した。

① 職員の配置状況は、次のとおりである。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

職種名	所長	サービス 管理責任者	生活支援員	職業指導員	パート運転 手	合計
	職員配置数	1 (兼)	1	1 (兼)	2	

② 提供する福祉サービスの質の向上を図るため、施設外の研修や会議に参加し、スタッフの資質向上に努めた。

研修内容	実施年月日	場所	人数
障害者就労・生活支援センター「ゆうあい」平成28年度中央東地区連絡会	平成29年5月24日 平成30年1月25日	香美市	1
中国四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	平成29年8月17日 18日	高知市	1
平成29年度福祉サービス苦情解決セミナー	平成29年9月4日	高知市	1
嶺北就労支援部会	平成29年5月30日	本山町	1
嶺北3事業所間就労支援部会	平成29年5月～ 平成30年3月 (月1回)	大豊町 本山町 土佐町	1
平成29年度高知県身体障害者(児)施設協会作業部会・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	平成30年1月12日 13日	高知市	1
水害・土砂災害への備えに関する管理者向け説明会	平成30年1月29日	安芸市	1
れいほく自立支援協議会	平成30年2月1日	本山町	1
障害福祉サービス事業所向け行政説明会	平成30年3月2日	高知市	1
障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく集団指導施設長セミナー合同管理者研修会	平成30年3月16日	高知市	1
	平成30年3月20日	高知市	1

③ 諸会議等の開催状況は次のとおりであった。

ア 施設運営関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
朝のミーティング	出勤日朝	毎日	有	全職員	当日の活動内容、出欠の確認、連絡事項伝達
職員会	月1回	12	有	全職員	施設運営全般に関する連絡、調整個別支援計画
安全衛生委員会	月1回	11	有	所長	安全と保健衛生に関する協議業務改善提案審査
虐待防止委員会	2ヵ月1回	9	有	所長	こくふゾーンにおける利用者様に対する虐待防止マニュアル作成、啓発活動の検討

イ 利用者サービス関係

会議名	実施回数	回数	記録	参加職員	位置付け、機能、主な議題等
利用者懇談会	月1回	12	有	利用者様 全職員	利用者様職員との相互意見交換会
施設運営委員相談日	2ヵ月1回 (奇数月)	6	有	—	年6回、担当委員(大豊町知的障害者相談委員)による相談受付

2 利用者様が安全で安心して作業や利用することができる環境整備の充実とその維持管理

(1) 環境の整備

施設内外の美化及び整理整頓に努めると共に、作業場の換気及び感染症対策等、安全衛生管理に留意し、特に新型インフルエンザやノロウイルス等の流行期には感染症対策マニュアルに沿って適切な予防と対策を講じた。11月～3月まで、毎週月曜日始業前に施設内の消毒を実施した。

(2) 冬期における送迎車の安全運転管理

中山間の冬場の厳しい自然環境（積雪や早朝の道路凍結等）に対応するために、12月初旬から3月初旬までの約4ヵ月間、施設管理車両はスタットレスタイヤを装着させ、スリップ事故などの防止に取り組んだ。

(3) 施設の災害や利用者様の事故防止など、安全対策の徹底を図った。

- ① 非常災害時に備えて訓練を実施した。例年は、旧老人ホーム大豊園との合同訓練であったが、大豊園廃止に伴い今年度はファースト単独の訓練となった。

なお、防災、地震避難訓練等の実施内容は下記のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練											2/21		1
消火訓練											2/21		1
図上訓練											2/21		1
夜間訓練													
防災地震訓練											2/21		1
防災水害訓練													

- ② 施設整備の管理や防災上で重要な場所、又は火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにした。
- ③ 業務上の各種マニュアルを整備して、利用者様の安全、保健衛生の徹底に努めた。
- ④ 害虫駆除（ゴキブリ）を行なった。

3 就労支援活動自立生活へ向けての生活支援

(1) 個別支援計画書に基づく自立生活の支援と便宜の供与に努めた。

- ① 利用者様個々の特性に応じた個別支援計画書の作成を行い、適切な支援に努めるとともに必要に応じて見直しを行なった。
- ② 作成した個別支援計画は、利用者様及びその扶養義務者に十分な説明を行い、同意の確認をした。
- ③ 開所時は3,000円であった工賃を段階的に、引き上げることができた。29年度の平均工賃は9,920円であった。
- ④ 職員には、利用者様及びその扶養義務者の人権尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人情報他には漏らしてはならないことを徹底している。

(2) 苦情解決の窓口は次のとおりである。

- ① 当施設に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「施設運営委員会」を設置し、ご意見箱を設け、苦情などの受付のほか奇数月（年6回）には相談日を設けた。苦情件数は0件であった。
- ② 苦情解決責任者と申出窓口は次のとおりとした。

苦情解決責任者	所長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

(3) 利用者様の生活支援

- ① 入退所に伴い医療、保健、行政その他関連サービス機関への連絡、調整に伴う支援を行った。
- ② 日常生活や社会生活上の相談助言等、ケースに応じた支援を行った。
- ③ 利用者様の地域交流や趣味活動のため下記の行事を行った。

時 期	行 事	備 考
平成 29 年 4 月 7 日	春のクラブ 活動	創造広場アクトランドにて、ウィール社の利用者様・職員とお弁当を食べながら園内を散策等して交流をした。
7 月 22 日	こくふ 村まつり	地域交流と相互理解を深めるために利用者様、ご家族、職員、地域住民、ボランティアが参加した村まつりで交流した。
9 月 22 日	秋の外出	四国コカ・コーラボトリング小松工場で製造過程等見学した。また、地域の直販所では嶺北にはない食品等買い物を楽しんだ。
11 月 8 日	あったかハ ートふれあ い大会	れいほく地区福祉イベントに参加して、災害・防災についての講演を聞き応急処置について学んだ。また、カレーライスや銀不老アイス等の販売を行って地域の人々や嶺北地域の障害者施設と交流をした。
11 月 17 日	ウィール社 と交流会	ファーストでウィール社の利用者様・職員とバーベキューや焼き芋、ゲームをして交流をした。
12 月 22 日	クリスマス 忘年会	一年の労をねぎらい利用者様と職員、地域の保健師、相談支援員の出席により会食、ゲームで親睦を深めた。司会進行は利用者様が行った。

(4) 利用者様主体の自治会「シエル」活動尊重

地域で生活する利用者様の方が社会人としての義務と責任を果たし、成長していくことを目標にして、主体的活動を尊重し支援している。作業時間内であっても、必要であれば自治会のために時間を設け、行事の買物や郵便局への自治会費入出金などの支援を行った。

4 支援実施の状況

(1) 基本的な日常就労活動の指導、支援に努めた。

- ① 就労活動の指導方針は、個別支援計画に基づき実施した。
- ② 個人個人の適性を的確に把握し支援を行った。

(2) 医療、疾病の予防、健康管理とその維持に努めた。

① 医療サービス状況

- ア 時期に応じて自己管理の徹底を促した。
- イ 定期検診を行ない、未受診者のないよう配慮した。
- ウ 加齢に伴う疾患（生活習慣病等）の予防とその対策に留意した。
- エ 保健衛生や健康に関する相談を受けた。
- オ 通院や入院は利用者様やその扶養義務者の責任においてお願いした。

- ② 利用者様が専門医師などの診断、治療を必要とする場合は、本人の希望する病院又は 協力病院において受診、治療をお願いしている。また、必要時には病院を訪問し、利用者様の同意のもと直接情報を得ている。

協力病院名	診療科目	所在地
嶺北中央病院	内科・外科・その他	本山町本山 620

③ 内部疾患の方や、未服薬者も加齢とともに血圧上昇があり、健康診断結果などから見ても成人病予備軍となっている。

ア 毎月体重測定、血圧測定を行い、自己管理の意識付けを行うとともに、健康維持に努めた。

(3) 昼食と健康管理

① 昼食はお弁当を持参か実費購入（店舗で購入のための送迎又は弁当の発注）にて対応した。

② 国府寮診療所において健康診断の実施を行った。

5 利用者様の概要

① 利用者性別・年齢別構成状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

区 分	男	女	計	身障	精神	知的	身障/知的
20 歳未満							
20～29 歳	1		1			1	
30～39 歳	1	2	3		1	2	
40～49 歳		2	2			1	1
50～59 歳	2		2	2			
60～69 歳	1	1	2		2		
70 歳以上	1		1			1	
計	6	5	11	2	3	5	1
平均年齢	59 歳	44 歳	46.3 歳	54.5 歳	54.3 歳	38.3 歳	44 歳

② 手帳の交付状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

身体障害者手帳		
等級	性別	年齢
1 級	男	56
2 級	男	53

身体障害者手帳・療育手帳			
等級	程度	性別	年齢
3 級	B 2	女	44

精神障害者健康福祉手帳		
障害	性別	年齢
精神	男	60
精神	女	64
精神	女	39

療育手帳		
程度	性別	年齢
B 1	男	21
B 1	男	30
B 2	女	33
B 2	女	40

手帳なし		
障害	性別	年齢
知的	男	70

③ 町村別状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

町 村	大豊町	本山町	土佐町	大川村	計
男 性	4	0	2	0	6
女 性	2	2	0	1	5
計	6	2	2	1	11

④ 平成 29 年度利用者様の在籍状況及び理由別入退所状況

区分 月	毎月 1日現在 在籍者数	入所前の状況					退所理由									
		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	その他	計	社会復帰		家庭	医療機関	社会福祉施設 (同種)	社会福祉施設 (他種)	死亡	その他	計
								就職	自営							
29年4月	7															
5月	7															
6月	7															
7月	8		1				1									
8月	9		1	1			2			2						2
9月	9															
10月	9															
11月	9										1					1
12月	7	1	1				2									
30年1月	9	2					2									
2月	11															
3月	11															
計	103	3	3	1			7			2	1					3

6 授産活動

(1) 作業内容

障害特性に応じた作業手順や担当作業に配慮した作業を実施した。障がいをカバー、補助するための作業用自助具（シール貼り、入浴剤封入等）を工夫し、作業効率や流れが円滑になるよう作業活動を行った。一つの作業を数名で行い、作業の役割や担当を決めて流れ作業により質の確保と効率化を図った。作業内容としては衛生用品、シール貼り、掛け紙折り、入浴剤封入のり付け、農作業、大豊町の特産銀不老豆の等級選別、ほこりチェックと袋詰めや碁石茶 20 g、100 g 袋詰め、50 g 袋詰め箱詰め、ティーバッグ箱詰め、包装用資材カット、贈答用箱折り等を行った。

(2) 作業内容別の状況

① ミニパック

使捨て清拭タオル・お産パット・オムツ検品と、ゴミ取り・袋入れ・シーラー作業を行う。

② 菊水酒造

お酒の箱へのシール貼り・掛け紙折り・ひも切りと結び、ひも通しを行う。

③ 印刷

姉妹施設ウィール社の印刷（名刺、年賀状、封筒等）の受注窓口と納品を行う。

④ 銀の市

大豊町の特産である銀不老豆の選別、袋詰めを行う。

⑤ 大豊町碁石茶協同組合

碁石茶の 20 g、100 g 袋詰め、50 g 箱詰め、ティーバッグ箱詰め等の作業を行う。

⑥ 松田医薬品

数種類の入浴剤封入のり付け。入浴剤入れの紙折り、ひも付け封入シール貼りをを行う。

- ⑦ 農作業  
サツマイモの栽培を行ったが、販売とはならなかった。
- ⑧ 未広  
包装用プチプチカット、贈答用箱折り作業を行う。
- ⑨ その他  
地域イベントでカレーライス、銀不老製品のアイス菓子の販売を行った。

(3) 売上状況

詳細については下記のとおりである。

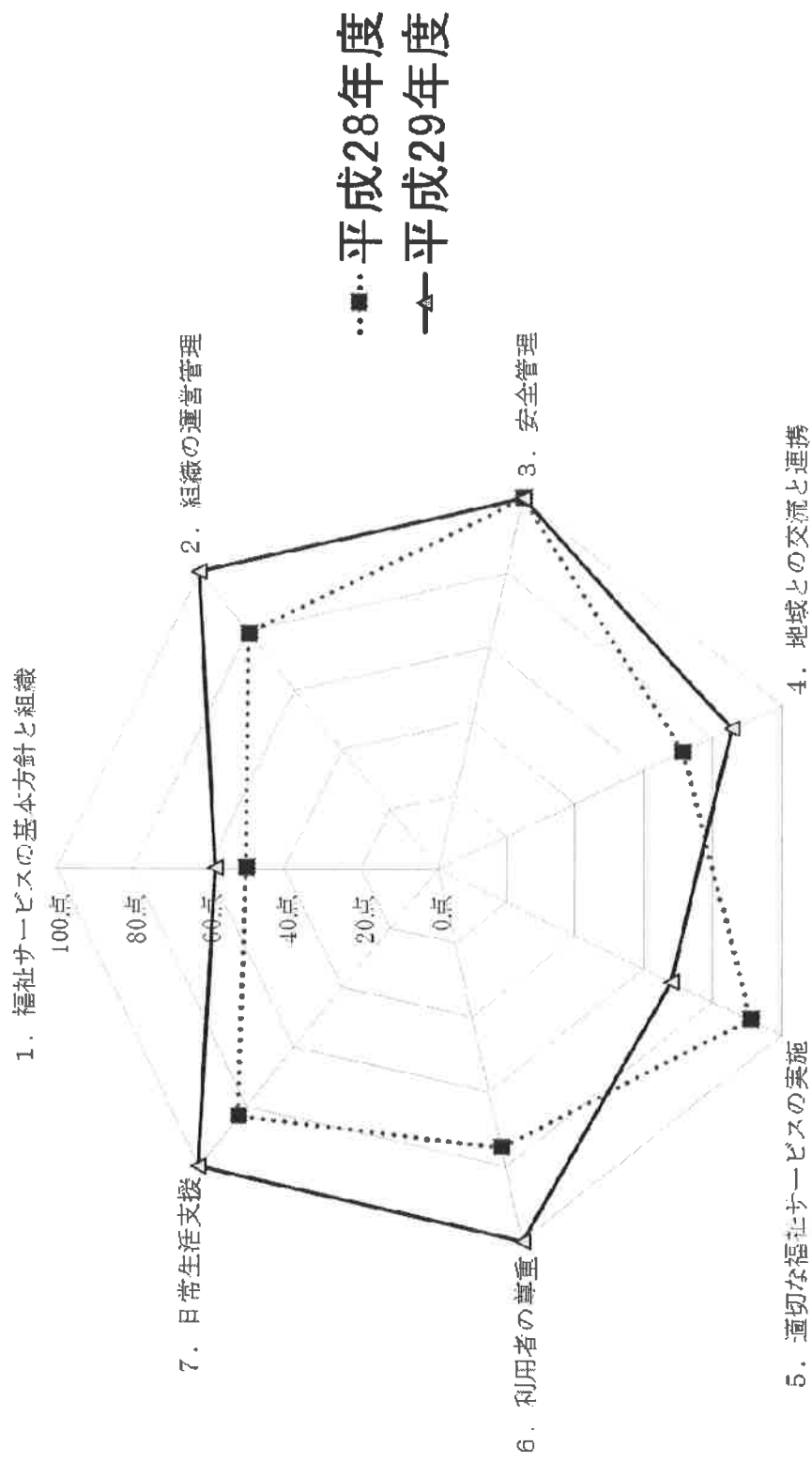
	28年度	29年度	変動額
ミニパック	207,861	287,130	79,269
菊水酒造	303,967	287,951	△16,016
ばうむ	2,400	0	△2,400
印刷	754,456	713,727	△40,729
銀の市	278,902	134,693	△144,209
大豊町碁石茶協同組合	228,549	148,333	△82,558
松田医薬品	247,487	226,833	△20,654
未広	0	14,785	14,785
農作業	46,860	0	△46,860
その他	324,075	148,750	△175,325
合計	2,394,557	1,962,202	△432,355

### Ⅲ 今後への課題

- 1 平成30年3月末日、定員10名に対し利用契約者11名となっている。29年度の稼働率は63.3%であり、3障害の中でも精神の方は通院や健康不良などにより続けての通所が難しく退所となることが多い。又、知的の方も自宅の都合で休まれることなどから、今後の課題として、安定した通所日数を実現するための支援が欠かせない。
- 2 中山間地域という地理的な厳しい条件はあるが、利用者様の工賃を小遣い程度から生活費の一部となると感じとってもらえる収入とし、前年度を上回る工賃収入としたい。そして、通所されることに対する楽しい作業場づくり、仲間づくり、役割づくりと少しでも多く社会参加の機会づくりに努めたい。
- 3 嶺北地域は、障がい者が就労をとおして社会参加ができる社会資源が少ない。年齢が65才以上であっても、作業能力や作業意欲がありファーストに通所しながらも自立した生活ができる方は、今後も受け入れを行っていききたい。
- 4 大豊園の廃業により、施設環境に変化が生じる恐れがあるが、なるべく利用者様の作業等に支障がないように努めたい。
- 5 嶺北地域3事業所のれいほくの里どんぐり（土佐町）、りんどう（本山町）と協力して合同で地域の学校プール掃除や老人ホームの庭掃除剪定作業、地域のごみ拾いを行い交流した。今後についても、この事業をさらに推進するとともに、工賃アップを目指して、現在3事業所での新規作業として北川村ゆずのトリミング作業等を検討中である。



## 評価細目の自己評価結果 (ファースト)



# 障害者支援施設 あき

## I 事業の総括

会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、「なぜ？は気づきの生みの母」のスローガンのもと、業務改善、支援の質の向上に努めた。

- 1 経営の安定を図るため、新規利用者獲得に努め在籍 45 名を目指したが、年間で退所者 3 名、入所者 3 名と、在籍数に変わりはなく、定員 50 名のところ 42 名にとどまった。
- 2 稼働率は年間を通して平均 79%であり、目標としていた 90%を大きく下回った。重度支援者の退所により重度加算の取得ができなくなり、収入減となった。
- 3 業務改善提案件数は 163 件あり、目標の 130 件を達成し、支援の質の向上につながった。
- 4 業務の見直し、改善を積極的に推進し、時間外労働時間は昨年度比で 45%削減できた。
- 5 地域の行事、活動、会に参加し、協力体制の構築や交流を図った。

## II 事業の概要

- 1 良質の福祉サービスを提供する為、施設運営体制の充実と職員資質の向上に努めた。

### (1) 利用契約の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

区分	6	5	4	3	2	1	合計
生活介護	22 人	9 人	6 人	6 人	0 人	0 人	43 人
施設入所支援	21 人	9 人	6 人	6 人	0 人	0 人	42 人

### (2) 利用月別稼働率 (単位：%) (平成 30 年 3 月 31 日現在)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
77.9	78.1	80.2	77.2	77.1	79.1	78.4	78.4	76.3	79.5	80.8	78.3	78.4

### (3) スタッフの配置状況 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

職種名	施設長	事務員	サービス管理責任者	理学療法士	医師	看護師	栄養士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	夜間警備員	その他	合計
職員配置数	1	2	1	1	1	3	1	1	25(10)	1(1)	4(4)	41(15)

(注) 臨時スタッフは ( ) 書で再掲

### (4) 施設外研修への参加状況

研修名	実施年月日	場所	人員
第 1 回中・四国身体障害者施設協議会施設長総会及び研修会	5.11~12	岡山県	1
高知県身体障害者(児)施設協会総会	5.19	高知市	1

研 修 名	実施年月日	場 所	人員
第 41 回全国身体障害者施設協議会研究大会	7. 6～7	高知市	10
処遇改善加算及び認証評価制度に係る説明会並びにノーリフティングケア管理者向けセミナー	7. 24	安芸市	1
第 33 回中国・四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	8. 17～18	高知市	2
甲種防火管理資格取得講習	8. 24～25	田野町	1
福祉サービス苦情解決セミナー	9. 4	高知市	2
感染症対策指導担当者研修会	9. 12	安芸市	2
高知県介護福祉士会リスクマネジメント研修①「虐待防止と職業倫理」	9. 16	高知市	1
施設長実学講座「採用・育成・定着のマネジメント」	9. 27～28	東京都	1
第 42 回中・四国身体障害者施設職員研修大会（香川大会）	10. 5～6	香川県	7
転倒・骨折事故防止対策セミナー	10. 25	高知市	2
中・四国身体障害者施設協議会 支援職員研修会	11. 15～17	鳥取県	2
中・四国身体障害者施設協議会 事務管理研修会	11. 29～30	岡山県	4
「誤薬事故」防止対策セミナー	12. 1	高知市	2
全国身体障害者施設協議会 第7回職員スキルアップ研修会	12. 11～12	神奈川県	3
要配慮者利用施設管理者向け説明会	1. 29	安芸市	1
障害福祉サービス事業所等向け行政説明会	1. 30	高知市	2
社会福祉施設総合保険制度説明会	2. 14	高知市	3
あき総合病院公開研修	2. 16	安芸市	2
高知県障害者（児）施設協会生活部会研修会	2. 21	四万十市	1
障害福祉サービス事業所向け行政説明会	3. 16	高知市	2
高知県社会就労センター協議会合同管理者研修	3. 20	高知市	4

## 2 リスクマネジメント対策の実施状況

### (1) 総合的な防災訓練と避難訓練の実施状況

区分	月													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
避難誘導訓練			○				○							2
消火訓練	○		○				○							3
通報訓練			○				○							2
地震訓練				○		○			○		○			4
土砂災害訓練				○										1
凶上訓練				○		○								2
夜間想定訓練							○		○		○			3
福祉避難所開設訓練							○							1
その他の訓練														0

(2) 施設内の事故防止を未然に防止するため、「ひやり・ハット報告」や「インシデント報告」「事故報告書」を活用し、要因分析と対策を実施して事故の予防と再発防止に努めた。

(3) 施設設備の管理や防災上の重要な場所又は火気を扱う場所では、火元取締責任者を置き、その責任体制を明らかにした。

(4) 業務上の各種マニュアルにより、利用者様の生命の安全、保健衛生の徹底に努めた。

(5) 施設に関する苦情やご相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「やながれ地区施設運営委員会」を設置して、目安箱による苦情を受け付けると共に施設運営相談日に、運営委員が目安箱を開け中身を確認した。相談室で、施設運営委員が直接利用者様から話を聞く機会を設けた。また、相談室に行けない方については、施設運営委員が居室に出向いて話を聞いた。

(6) 次のように苦情等の申出窓口も設けて、常時苦情を受け付け、その解決に当たった。

苦情解決責任者	施設長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

(7) 平成 29 年度に寄せられた苦情等の概要は次のとおりであった。

区 分	件数	左の内訳	
		施設内の問題	その他の問題
苦情等の申出窓口	0	0	0
やながれ地区施設運営委員会	5	5	0
福祉サービス困りごと解決委員会	0	0	0

### 3 日常生活や自立に向けての支援の実施状況

※日常生活プログラムは別表 1 のとおりである。

#### (1) 入浴回数、実施曜日、時間帯及び入浴人員等の状況

(1 週間の実施状況)

入浴の方法 入浴の回数など	一 般 浴	特 別 浴		入浴のできない者への対応
		ライナー浴	機械入浴	
1人1週あたりの回数	2回	2回	2回	清拭 更衣 ドライ シャンプー
入浴実施曜日	月・木	火・金	月・火・木・金	
代替日（前年度実績）	なし	なし	なし	

入浴の方法 入浴の回数など		一 般 浴	特 別 浴		入浴のできな い者への対応
			ライナー浴	機械入浴	
時間帯	男	(月)10:00～11:30	(火) 13:50～ 14:30	(火) 11:20～11:45 14:00～16:30 (金) 10:00～11:45 14:00～15:10	清 拭 更 衣 ドライ シャンプー
		(木) 9:30～11:00	金)13:50～14:30	(月・木) 14:00～16:00	
	女	(月) 9:30～10:00	(火) 13:00～ 13:50	(火) 10:00～11:20 (金) 15:10～16:30	
		(木) 11:00～11:30	(金) 13:00～ 13:50	(月・木) 14:00～16:00	
対 象 者 数		12 人	6 人	25 人	
1回あたり入浴人員		12 人	5 人	21 人	
1回あたり介助人員		2 人	2 人	月・木 2 人 火・金 5 人	

(2) 受診及び入院の状況

① 月別受診件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	10	10	6	7	19	5	12	9	7	10	3	9	107
耳鼻科	1	1	1	0	1	1	1	0	1	0	3	5	15
眼 科	2	1	1	3	1	1	1	2	2	2	1	1	18
精神科	6	7	8	8	7	7	11	5	7	8	10	10	94
外 科	1	2	1	2	2	1	5	2	3	2	2	6	29
整形外科	0	3	2	1	1	1	1	4	1	2	0	1	17
泌尿器科	2	4	2	1	3	1	3	3	1	2	2	2	26
脳外科	1	3	4	3	1	4	1	1	3	1	3	1	26
皮膚科	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	5
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
歯 科	1	0	0	0	0	0	0	2	3	2	0	0	8
計	24	31	27	25	35	22	36	28	28	30	25	35	346

② 月別入院件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内科	3	3	3	2	2	0	3	4	2	2	1	4	29
外科	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
計	3	3	3	4	2	0	4	4	3	2	1	5	34

(3) リハビリテーションの実施状況

職 種	人 員	勤 務 日、時 間
理学療法士	1人	月～金 (8:30～17:30) 土曜日は適宜

個別訓練及び自主訓練の延べ人数は次のとおりである。

上段に月別の延べ人数、下段に月別の延べ人数をその月の出勤日数で割った平均値を記載。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
262	296	301	283	172	256	252	293	275	295	258	294	3237
13.1	13.5	14.3	13.5	7.8	12.8	13.3	14.0	13.1	14.0	14.3	14.0	157.7

① 利用者様の内、42名のリハビリテーション実施計画書を作成し、それに基づいて訓練を行った。

② 車椅子・装具などの調整・清掃ならびに、新規作製や再交付に当たっての申請作業を行った。

(4) 給食業務は、業務委託業者と綿密な連携を図り実施した。利用者様の状況にあった適切な食事の提供状況は以下のとおり

① 利用者様特別食提供状況は、次のとおりである。

	糖尿病食 (人)	在籍数に占 める割合	胃潰瘍食 (人)	在籍数に占 める割合	心臓食 (人)	在籍数に占 める割合	療養食加算 報酬(円)
4月	3	7.1	1	2.4	1	2.4	25,990
5月	3	7.1	1	2.4	1	2.4	26,680
6月	3	7.3	1	2.4	1	2.4	27,140
7月	2	4.9	1	2.4	1	2.4	26,450
8月	2	7.0	1	2.5	1	2.5	28,520
9月	3	7.3	1	2.4	1	2.4	25,530
10月	3	7.3	1	2.4	1	2.4	26,910
11月	3	7.3	1	2.4	1	2.4	25,990
12月	3	7.3	1	2.4	1	2.4	25,300
1月	3	7.1	1	2.4	1	2.4	26,910
2月	2	7.0	1	2.3	1	2.3	23,690
3月	3	7.0	1	2.3	1	2.3	32,660

② 行事食はバイキング、年忘れ会、新年祝賀会を実施した。

③ 嗜好把握と献立反映状況

嗜好の把握	回数	献立への反映状況
嗜好調査	年 1 回	代替食・選択食
残滓調査	年 1090 回	
給食懇談会	月 1 回 (8 月は感染症の為、実施できず)	

4 文化的、社会的活動の実施状況

(1) 年間行事等

行事名	実施年月日	実施場所	参加者
招待外出 (高知市納涼花火大会)	8 月 9 日	高知市	利用者様・スタッフ
招待外出 (劇団四季ミュージカル)	9 月 30 日	高知市	
施設対応希望別外出	4 月 13 日	芸西桜ヶ丘公園 (花見)	利用者様・スタッフ
	6 月 8・15・19 日		
	7 月 3・24・26・31 日	フジグラン野市	
	8 月 3 日	安芸市内	
	9 月 14・25・28 日	野市市内	
	10 月 12・19・26 日 11 月 18 日	香南市 (くろしお祭り)	
レクリエーション大会	6 月 21 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
レクリエーション大会後の食事会	6 月 21 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
第 32 回 八流納涼祭	7 月 15 日	多目的ホールほか	利用者様・スタッフ・ボランティア・地域住民
よさこい踊り子隊来園	8 月 5 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ・ボランティア
かき氷屋	9 月 27 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
彼岸法要	9 月 22 日	八流荘 2 階	利用者様・スタッフ・住職
焼き芋	11 月 22 日	多目的ホール・中庭	利用者様・スタッフ
クリスマス年忘れ会	12 月 20 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
新年祝賀会	H30 年 1 月 1 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
初詣	1 月 1 日	大元神社	利用者様・スタッフ
節分豆まき	2 月 3 日	多目的ホール	利用者様・スタッフ
彼岸法要	3 月 20 日	八流荘 2 階	利用者様・スタッフ・住職

※感染症対策として年度途中から施設外出は控えた。

(2) 利便サービス

サービス名	内容
買い物	利用者様の希望物品の買物代行 (土曜日・日曜日)
預金引出し	銀行が来園し、預金の預け入れや引出しを行う (火曜日、金曜日)
衣料品販売	随時
図書	2 ヶ月 1 回、安芸市民図書館から、紙芝居を借りる

## (3) 日中活動状況

日中活動参加者

(平成30年3月31日現在)

利用者現員			参加者実人員			未加入者実人員		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
30人	12人	42人	30人	12人	42人	0人	0人	0人

## (4) 運営・開催状況

(平成30年3月31日現在)

日中活動	加入(在籍)人員			担当者	開催状況
	男	女	計		
生花	0人	2人	2人	スタッフ・ボランティア	月2回
お茶	3人	2人	5人	スタッフ・ボランティア	月2回
ふれあい	3人	4人	7人	スタッフ	月1回
紙芝居	自由参加			スタッフ	2ヶ月1回
リズム	自由参加			スタッフ・ボランティア	月2回
カラオケ	自由参加			スタッフ	月1回
ビデオ	自由参加			スタッフ	火・金
スポーツレク	自由参加			スタッフ・ボランティア	月1回
生き生き	自由参加			スタッフ	月4回
シネマデー	自由参加			スタッフ	月1回
おやつ作り	自由参加			スタッフ	月1~2回
絵画	自由参加			スタッフ・ボランティア	月2回
珠のれん・珠通し	自由参加			スタッフ	月1回
ガーデニング	自由参加			スタッフ	月1回
ドリンクバー	自由参加			スタッフ	月1回
外出の日	自由参加			スタッフ	(4月~9月実施) 月1~2回



別表1 生活プログラム

時間	月	火	水	木	金	土	日
6時	起床・整容						
7:15～8:15	朝食						
9時	余暇時間						
10時							
11時							
11:45～12:45	昼食						
14時	余暇時間						
15時							
16時							
17時							
17:30～ 18:20	夕食						
20時	余暇時間						
21時							
22時	居室・廊下消灯						
23時	ホール消灯						

生活介護：月曜日～金曜日 9時～17時

※日中活動として、リズム、絵画、生花、お茶、スポーツレク、生き生き、ふれあい、おやつ作り、  
外注、ビデオ、シネマデー、カラオケ、紙芝居、  
リハビリ、入浴(週2回)、施設行事等行っています。

施設入所支援：月曜日～金曜日 17時～翌9時 土曜日～日曜日 9時～翌9時

(注)この生活プログラムは、標準的なものであり、多少の変更の場合もあります。

別表 2

## ① 利用者様の傷害別人員・性別・年齢別

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

障害分類 区分	脳性マヒ	損 傷			脊髄マヒ	脳血管障害後遺	頭部外傷後遺症	リュウマチ	進行性筋萎縮症	その他	合計	左 の 内			
		頸椎損傷	胸腰椎損傷	脊髄損傷								精神障害者	視覚障害者	聴覚障害者	
性別	男	5	0	0	1	0	8	4	0	1	11	30	12	1	1
	女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	9	12	1	0	0
	計	7	0	0	1	0	9	4	0	1	20	42	13	1	1
手帳等級別	1 級	6	0	0	1	0	8	3	0	1	17	36	2	1	1
	2 級	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	1	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	10	0	0
	計	7	0	0	1	0	9	4	0	1	20	42	13	1	1
年 齢 区 分	20 歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20 ～ 29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	30 ～ 39	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0
	40 ～ 49	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	6	3	1	0
	50 ～ 59	3	0	0	0	0	2	0	0	0	5	11	6	0	0
	60 ～ 64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	2	0	0
	65 ～ 69	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5	10	1	0	1
	70 歳以上	2	0	0	1	0	1	0	0	0	2	6	0	0	0
計	7	0	0	1	0	9	0	0	1	20	42	13	1	1	
傷害の類別比率 (%)	17	0	0	2	0	21	0	0	2	48	100	—	—	—	

(注) 平均年齢 男性 56.7 歳 ・ 女性 65.4 歳

## ② 利用者様の主たる障害の原因の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

障害の原因 性別	事 故					疾 病				合 計
	交通 事故	労働 災害	その他 の事故	戦傷病 戦 災	小 計	先天性	後天性	その他	小 計	
男	1	2	2	0	5	11	14	0	25	30
女	0	0	0	0	0	4	8	0	12	12
計	1	2	2	0	5	15	22	0	37	42

## ③ 利用者様の身元引受人の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

親	配偶者	子 供	兄弟姉妹	親 族	その他	合 計
13 人	3 人	4 人	13 人	5 人	5 人	42 人

## ④ 利用者様の年齢の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

	最年少	最年長	平均
男	25 歳	73 歳	57 歳 (56.7 歳)
女	50 歳	85 歳	65 歳 (65.4 歳)
全体	25 歳	85 歳	58 歳 (57.8 歳)

## ⑤ 利用者様の日常生活動作等の状況

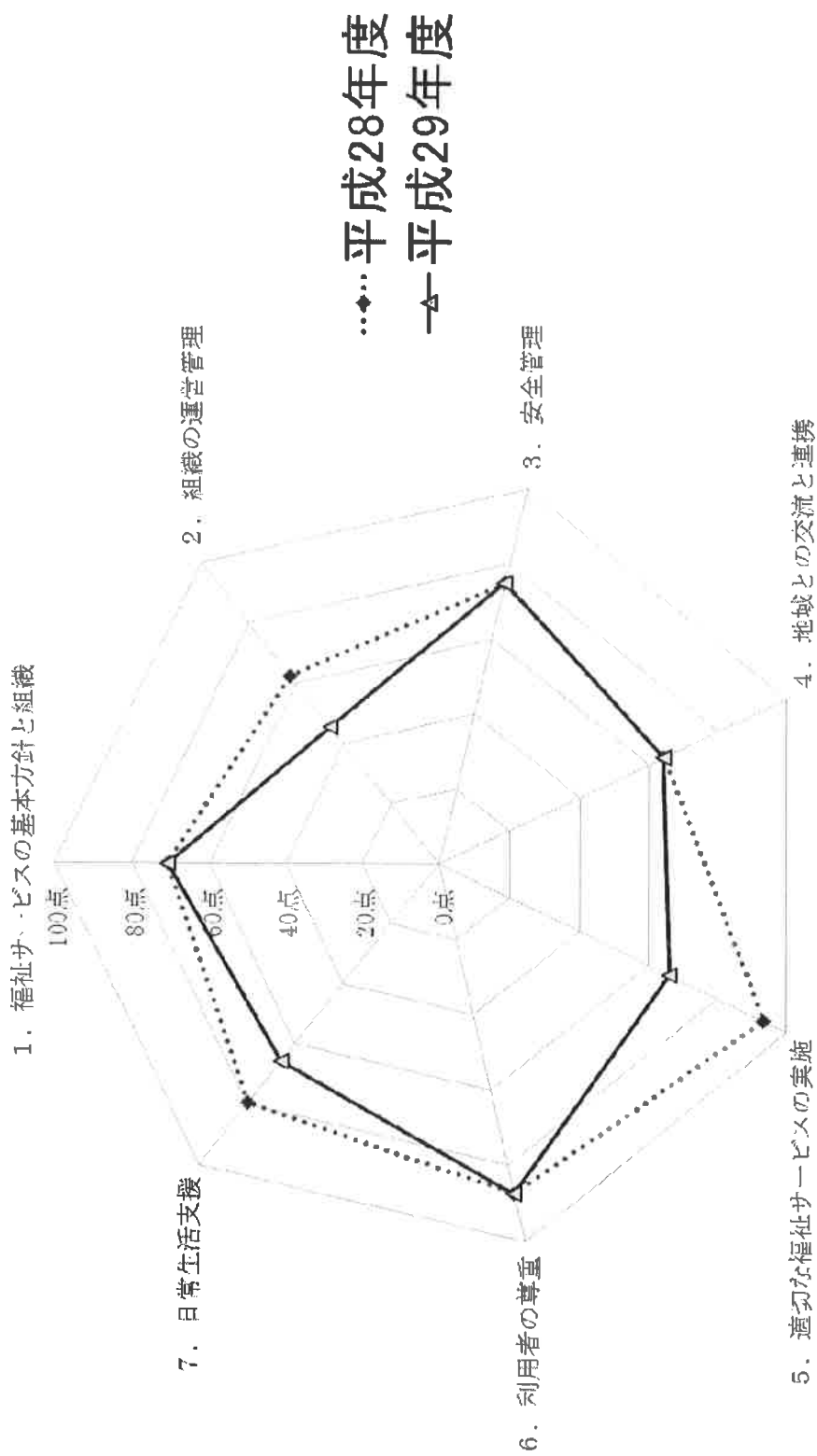
(平成 30 年 3 月 31 日現在)

介助区分	一部介助	全部介助	備 考
食事介助	6 人	11 人	一部介助：スプーン等を使用し、一部介助すれば食事ができる。 全介助：全て介助を要する。(胃瘻利用者様含む)
排泄介助	9 人	23 人	一部介助：介助があれば簡易便器及びトイレでできる。夜間はおむつを使用する。 全介助：全介助でトイレ使用、又は常時おむつを使用している。
着脱衣介助	4 人	25 人	一部介助：手を貸せば着脱できる。 全介助：すべて介助を要する。
入浴介助	13 人	29 人	一部介助：身体を洗うときや、浴槽の出入りに介助を要する。 全介助：自分でできないのですべて介助を要する。特殊浴槽を使用している。
移乗介助	9 人	20 人	一部介助：介助者 1 人で介助すれば移乗できる。 全介助：介助者 2 名で介助しなければ移乗できない。
移動介助	21 人	17 人	一部介助：自力駆動で施設内を移動できる。 全介助：すべて介助を要する。
寝返り介助	5 人	22 人	一部介助：少し手を貸せば寝返りできる。 全介助：1 人では寝返りできないのですべて介助を要する。
車椅子使用者数	38 人		—
知的障害者数	14 人		※身体障害と重複
精神障害者数	13 人		※身体障害と重複
おむつ使用者数 (夜間のみ使用)	22 人 (2 人)		( ) 内は、夜間のみ使用者数
褥瘡者数	0 人		—

⑥ 利用者様の在籍状況及び理由別入退所状況

区分 月	毎月初日の 在籍者数	入所前の状況						退 所 理 由									
		家 庭	医 療 機 関	社 会 福 祉 施 設 (同種)	社 会 福 祉 施 設 (他種)	そ の 他	計	社 会 復 帰		家 庭 復 帰	医 療 機 関 入 院	社 会 福 祉 施 設 (同種)	社 会 福 祉 施 設 (他種)	死 亡	そ の 他	計	
								就 職	自 営								
平成29年 4月	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
7月	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
9月	40	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成30年 1月	41	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	43	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
3月	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	497	1	1	0	1	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3

## 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設あき)



## 短期入所事業所 あき

### I 事業の総括

当事業所は、障害者支援施設あきに併設されたもので、事業は障害者支援施設あきに準じて実施した。

### II 事業の概要

1 職員の配置状況は、次のとおりであった。(平成30年3月31日現在)

職種名	所長	サービス管理責任者	医師	看護師	理学療法士	生活支援員(相談)	生活支援員(介護)	栄養士	事務員等	用務員等	合計
職員配置数	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	10(10)

( )内は兼務職員

2 短期入所利用者様に対する日常生活の支援は、障害者支援施設あき利用者様への支援に準じて実施した。具体的内容は次のとおりであった。

(1) 安全で安心して生活できるように、事業所設備の維持管理と環境の保持に努めた。

- ① 基本的な日常生活の支援を行った。
- ② 自立生活を促進するために必要な支援と相談を行った。
- ③ 出来る限り在宅生活に準じた支援に努めた。
- ④ 適切な医療ケアと食事の提供を行い健康保持に努めた。

3 利用者様の状況は、次のとおりであった。

(1) 市町村別、年齢、性別等の状況

市町村名	年齢	性別	障害の程度区分	利用延日数
			区分	
安芸市	54	男	区分5	210日
安芸市	55	男	区分6	34日
安芸市	64	女	区分6	119日
安芸市	39	女	区分6	23日
安芸市	38	女	区分6	13日
安芸市	64	男	区分4	11日
高知市	46	女	区分5	19日
高知市	53	男	区分5	34日
室戸市	61	男	区分3	14日
室戸市	59	男	区分3	8日
東洋町	59	女	区分6	13日
計	11名			498日

# 特別養護老人ホーム 八流荘

## I 事業の総括

昨年度は施設の老朽化に伴う設備の不具合が多発しました。中でも、夏場に発生した冷暖房設備の故障は修繕の見込みがなく、新規機械の製造・入替えに数か月かかることが予想され、利用者様や職員への体調面の影響が心配されました。幸い、仮設の冷暖房設備を数台設置することで、不都合のない館内環境が整備できました。2月には取り替え工事も終わり、完全に復旧しました。

一方、入所者の高齢化、重度化が進んでおり、体調面が不安定な方が増加してきました。持病の進行による医療施設への転居、急変による長期入院や死去等が続き、昨年度の前半は利用率も低迷していましたが、後半には主要職員のコスト意識が向上し、異常の早期発見・早期治療による入院者の縮小や入院期間の短縮、入・退所マネジメントの強化による空きベッド減少等、利用率改善に繋がりました。

## II 事業の概要

1 良質の福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実と職員資質の向上を図りました。

(1) 利用契約の状況は次のとおり。 (平成30年3月31日現在)

介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
2人	1人	18人	31人	27人	79人

(2) 施設の利用月別稼働率は次のとおり。 (単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
91.9	87.7	88.2	91.0	92.7	95.0	89.5	91.9	96.7	97.8	96.6	94.6	92.8

(3) 職種・職員定数など配置基準の遵守とともに人財の確保に努めました。

① スタッフの配置人員は次のとおり。(短期入所を含む)

(単位：人) (平成30年3月31日現在)

職種名 職員区分	施設長	施設長補(兼)	事務員	生活相談員	介護支援専門員	介護看護職員		管理栄養士	理学療法士(兼)	機能訓練指導員	医師	その他	合計
						介護員	看護師						
正職員	1	1		1	2	25	4	1	1			1	37人
臨時職員			1			9	1			1		3	15人
						7					3	3	13人
年度末職員数	1	1	1	1	2	41	5	1	1	1	3	7	65人

(調理業務は平成23年6月1日から業務委託したため、調理員数の掲載はありません。)

(4) 提供するサービスの質の向上を図るため、定期的なケア会議の開催により多職種での情報共有を図りました。また、ご家族への情報提供やご要望に応じていくことで、信頼関係の構築に努めました。

(5) 専門職としての技術や知識を高めるため内部・外部研修会に参加し、その資質の向上に努めました。

① 施設内研修

研 修	研 修 内 容	講 師	参 加 職 種
救命講習	普通救命講習、一般救命講習	安芸消防署職員	全職種
感染予防研修会	ノロウイルス食中毒と感染症	DVD視聴	全職種
防災訓練	法人の防災、消防計画の理解 防災機器の取扱方法	小玉施設長 濱田ポンプ商会	介護職員、看護職員、理学療法士、事務職
感染症について	食中毒とその予防	管理栄養士	全職種
口腔ケア等スキルアップ研修	講義、演習、現場指導、振り返りとまとめ	安芸福祉保健所	全職種
プライバシー保護と倫理について	個人情報保護	介護係長	全職種
感染症対策について	インフルエンザ、ノロウイルス対策	看護職員	全職種
リスクマネジメントについて	福祉施設のリスク管理	施設長	全職種
認知症について	ユマニチュードの基本・効果	介護主任	全職種
看取り介護について	看取り介護の手引書の確認	介護職員	全職員
採用時研修	感染症対策、事故対策、個人情報の保護、職務上の心構え	施設長、看護職員 事務主任	看護職員、事務職
ケアプランについて	ケアプランの流れと重要性	施設長補	全職種
苦情対策について	苦情の原因、対応の基本について	介護支援専門員兼相談員	全職種
KYT 研修	気づきの育成	施設長	全職種

② 施設外研修

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種
足病変と褥瘡セミナー	褥瘡の治療とケア、フットケアの必要性と重要性	介護支援専門員
安芸市ケアマネジメント研修会	3日間 講義	介護支援専門員
県老協合同研修会	栄養マネジメントについて 平成30年度介護報酬改定について 情報交換	相談員 介護支援専門員 管理栄養士
認知症介護実践者研修	平成29年度実践者研修	介護職員
高知家統一基本セミナー	排泄（基礎・アセスメント）	介護職員



研修名	研修内容	参加職種
高知家統一基本セミナー	生きる基本「姿勢と動き」「排泄」	理学療法士、介護職員
〃	ポジショニング基礎セミナー ノーリフト基本技術ケアセミナー	理学療法士 介護職員
社会福祉施設総合保険制度説明会	平成 30 年度社会福祉施設総合保険について	生活相談員
認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と対応の基本（講義）、演習	介護職員
介護保険施設のプラン実践	施設ケアマネジャーの役割を考える	介護支援専門員兼生活相談員
説明会、ノーリフティングケア管理者向けセミナー	介護職員処遇改善加算の取得に向けて、認証評価制度の導入について、セミナー	施設長補
老施協 四国大会	講演、研究部会（重度化対応ケア個別ケア、看取りへの取り組み）	施設長 介護職員
誤薬事故防止対策セミナー	誤薬の発生プロセスから事故原因の分析と仕分け、チェック方法、防止対策	生活相談員
感染症対策指導担当者研修会	インフルエンザ、ノロウイルス対策について、疥癬について、演習	介護職員
高知県高齢者虐待防止研修会	認知症ケアとストレスマネジメント	介護職員
ケアステップアップ地域研修	対人援助に活かすためのコーチング	介護支援専門員兼生活相談員
中・四国ブロック福祉施設士セミナー	中・四国ブロック 高知大会	施設長補
福祉避難所の改設及び運営訓練	在宅災害時要配慮者避難支援及び福祉避難所開設・運営訓練等	生活相談員
口腔ケア シンポジウム	事例報告 いつまでも自分の口で食べられるために私たちにできるケア 講演 「気仙沼・南三陸食べる取り組み研究会」の活動について	施設長補 生活相談員 介護支援専門員兼生活相談員 介護職員 看護職員 管理栄養士 事務職員
平成 30 年度介護報酬改定等説明会	介護報酬改定について、集団指導等について	生活相談員
全老施協 高知会議	実践研究・ポスターセッション	施設長 生活相談員 介護職員

(6) 諸会議等の開催状況は、次のとおりです。

① 施設運営関係

会議の名称	実施状況	記録	参加職種	会議の内容
職員会	毎月1回	有	全職種	法人報告、出張報告、ミニ研修 各係からの提示課題検討
主任者会	随時	有	施設長、施設長補、介護主任	各係から課題報告検討、調整 スーパービジョン
調整会	毎月2回	有	全職種	各部署からの議題検討等
ゾーン連絡会	毎月1回	有	やながれゾーンの主任クラス	ゾーンの報告、各部署の月間計画 ゾーン課題検討
衛生委員会	毎月1回	有	安全衛生委員	職員の労働安全・衛生
ゾーン施設長会	毎月1回	有	施設長、施設長補、所長	ゾーンの議題検討、体制調整等
防災委員会	随時	有	防災委員	防災に関する全般の検討
事務会	随時	有	事務職 適宜施設長、所長	受付・事務としての問題点検討等

② 利用者処遇関係

会議の名称	実施状況	記録	参加職種	主な議題等
介護業務会	随時	有	介護職員・その他	介護職内の課題等検討
ケースカンファレンス	随時	有	介護職員、機能訓練指導員、看護職員、管理栄養士、介護支援専門員(兼相談員)、その他	状況変化に合わせた対応変更
給食委員会	第1金曜日	有	施設長 施設長補 介護支援専門員(兼相談員) 看護師長、看護職員 介護主任、介護職員 管理栄養士 適宜事務職員 機能訓練指導員	ケアプラン変更
感染症対策委員会	第1金曜日	有		事故予防対策
褥瘡予防委員会	第1金曜日	有		献立、行事等の検討
事故防止委員会	第3金曜日	有		感染予防、感染症発生時の対応検討
虐待防止委員会	第3金曜日	有		褥瘡予防対応策検討
身体拘束廃止委員会	第3金曜日	有		事故予防対策と事故発生時の対策等
痰吸引等安全対策委員会	1回/2ヶ月	有		施設長、施設長補、配置医、看護職員、介護主任、介護支援専門員(兼相談員)

2 災害時に発生に備えて事前対策を確立するとともに、利用者様・職員の人命と安全の確保を最優先に考え、被害を最小限に止めることを目的に防災訓練を実施しました。

(1) 平成 29 年度に実施した防災訓練は次のとおりです。

月 区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
避難誘導訓練			○		○		○						3
消火訓練	○		○		○		○						4
通報訓練					○		○						2
地震訓練				○					○		○		3
土砂災害訓練				○									1
図上訓練				○									1
夜間訓練			○				○		○		○		4
その他訓練	○					○							2

3 自立支援の視点に立ち、適切なサービスの提供に努めました。

(1) 相談

- ① 入所決定過程の透明性・公平性を確保するため入所検討会を随時開催し、施設サービスの必要性が高いと認められる方から優先的に入所手続を進めました。
- ② 利用者様が安心・安全で快適に過ごすことのできるサービスの提供に努めました。また、ご家族に対しては行事への参加を呼びかけるとともに、利用者様の状況連絡や情報提供を密にし、関係性の向上に努めました。
- ③ 介護事故の発生防止のために、事故対策委員会において介護事故発生時の状況等を分析することにより有効な防止策を検討し、その内容を職員に周知することで再発防止に努めました。
- ④ 苦情対応窓口や意見箱に寄せられたご意見やご提案などは迅速に対処して、定期的開催される施設運営委員会に報告しました。

ア 平成 29 年度に寄せられた苦情・ご意見等の概要は、次のとおりです。

区 分	件数	左の内訳	
		施設内の問題	その他の問題
やながれ苦情等の申出窓口	6	6	0
やながれ地区施設運営委員会	1	1	0

(2) 介護

- ① 利用者様個々の状態把握に努め、多職種で連携・情報共有を行いながら、より良いサービスが提供できるよう創意工夫に努めました。ただ、部署内の情報伝達が十分に機能しなかったことにより、不適切ケアの発見が遅れることとなりました。その後は検討会や研修会を行い、情報共有の重要性について意識統一を図り、適切な連携ができるよう努めました。
- ② 1 回/月、一筆箋等の発想により、施設での利用者様の様子や体調等をご家族へ伝えました。また必要時には電話連絡を行い、ご家族との信頼関係の構築に努めました。
- ③ 季節に合わせた施設内行事を実施しましたが、個々の趣向を取り入れた趣味活動や

外出行事の実施ができませんでした。

- ④ 外来者による身だしなみや売店の開設などは、次のとおりです。

区 分	サービス事業の内容
散 髪	近隣の理美容店の協力を得て月 2 回実施
買 い 物	週 1 回（土曜日） 職員が買物代行
衣料品販売	希望時に業者が来園し、展示販売

### (3) 看護

- ① 利用者様がより良い環境で健やかな日々が過ごせるよう各職種との連携を図りながら、健康管理や精神面の状態把握に努めた。
- ② 利用者様の容態に変化がある場合、医師に速やかに病状報告を行い、指示を受け対応する事で病状の悪化を防いだ。
- ③ ご家族との連携も密に図り、状態や経過を伝えることにより安心して過ごして頂けるように取り組んだ。
- ④ 利用者様が専門医師などの診察を必要とする場合は、ご本人の希望する病院又は協力病院において受診、治療できるよう配慮に努めました。
- ⑤ 平成 29 年度の受診及び入院の状況は、次のとおりです。

#### (ア) 月別受診件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯 科	3	0	3	1	1	0	2	0	0	0	1	1	12
皮 膚 科	1	3	4	1	2	2	0	3	2	1	0	1	20
耳 鼻 科	1	2	2	1	2	1	3	1	2	4	1	2	22
眼 科	1	1	2	1	1	2	3	0	1	1	1	4	18
精 神 科	7	6	6	5	4	5	4	7	5	7	5	8	69
整形外科	5	4	4	4	2	5	7	4	6	3	1	7	52
脳 外 科	0	4	4	4	5	4	0	2	4	1	2	2	32
内 科	19	19	17	21	24	21	28	19	23	27	21	28	267
外 科	0	3	2	0	2	4	1	3	1	0	0	3	19
泌尿器科	2	4	1	2	3	3	6	4	6	3	3	4	41
そ の 他	2	1	3	1	2	2	5	2	3	3	2	3	29
計	41	47	48	41	48	49	59	45	53	50	37	63	581

#### (イ) 月別入院件数

科目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
皮 膚 科	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	5
内 科	4	6	5	3	4	1	9	5	3	2	5	3	50

月 科目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
脳外科	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
泌尿器科	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	6
その他	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
計	5	9	5	4	6	4	14	6	4	2	5	3	67

#### (4) 機能訓練

- ① 機能訓練指導員が自立支援に向け、個別機能訓練計画書を作成し、体調等を考慮しながら、慎重に訓練を行ないました。
- ② 福祉機器の導入や福祉用具の活用をすすめ、利用者様や職員への介護負担軽減に取り組みました。

#### (5) 給食

- ① 食事は委託業者と綿密な連携を図り、安全・安心な食事サービス提供に努めました。
- ② 献立は旬の食材を積極的に取り入れ、祝祭日や二十四節気にちなんだ季節料理、イベントメニューは食べやすく人気のある「寿司と麺のメニュー」とし、全国各地の郷土料理やアレンジしたメニューなど、バラエティーに富むよう工夫し、盛り付けや食器にも配慮、食事の愉しみができるように努めました。
- ③ 利用者様と一緒に料理を作る機会としたおやつ作りや行事等に取り組みました。

<メニュー>

和菓子&洋菓子バラエティー盛り・ミックスジュース・栗ぜんざい

夏のフルーツ盛り合わせ・綿菓子&かき氷（縁日風）・焼き芋・どら焼

クリスマスケーキデコレーション

- ④ 利用者様の日常的な体調や身体状況を常に把握し、摂食不良者にはご本人の嗜好に配慮し個別対応を行う等、個々に適した食事を提供しました。
- ⑤ 嚥下困難な利用者様には、医師、看護師及び各部署が連携して食事内容や食事介助の方法に注意して事故防止に努めました。
- ⑥ 食品、調理場その他器具などの衛生管理の徹底を図りました。

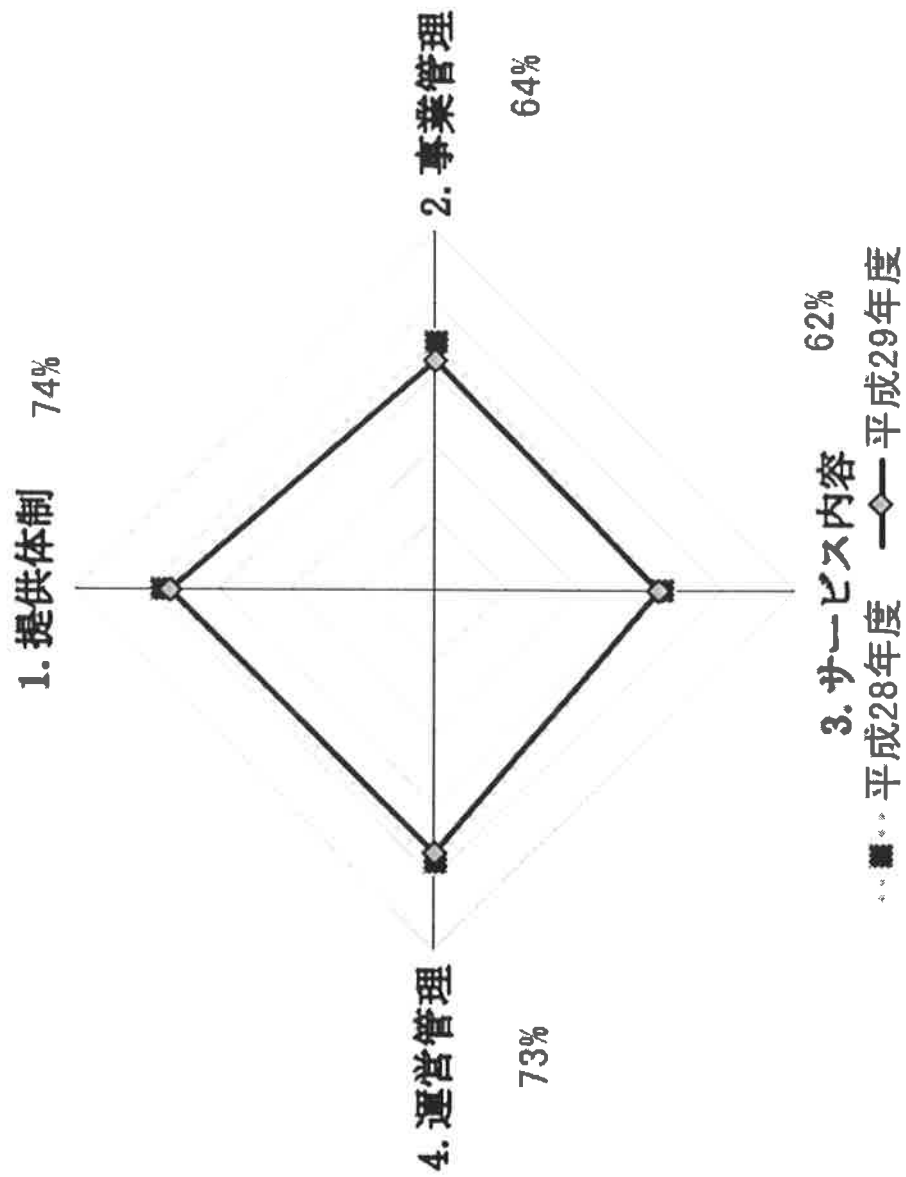
#### ⑦ 食事形態提供状況

・常食・きざみ食（一口大・荒2・荒1・中・ミキサー・ムース）、軟食（軟菜・煮込み菜）、ムース食（昼食・夕食のみ）、流動食

\*きざみ食は、荒きざみ1（1cm角薄切り）を導入し、より個々の咀嚼、嚥下に合わせた形あるものを提供できるように取り組みました。

・糖尿食、高血圧食、心臓食、腎臓食、透析食、脂質異常症食、肥満食、貧血食、低残渣食、経管栄養

# 介護サービス自己評価実施率（八流荘）



# 短期入所事業所特別養護老人ホーム 八流荘

## I 事業の総括

この事業所は、特別養護老人ホーム八流荘に併設されており、事業は同施設に準じて実施した。

## II 事業の概要

### 1 短期入所利用実績

年間延べ利用者数	年間延べ利用日数
347 人	3,133 日

### 2 利用月別稼働率

(単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
78.6	58.0	54.7	60.4	56.9	61.6	84.6	93.8	75.0	78.7	74.4	81.9	71.5

# デイサービスセンター やながれ

## I 事業の総括

- 1 会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を基本理念とし、在宅高齢者の多様なニーズを把握して、きめ細かい支援を実施することで、地域に密着した柔軟なサービスの提供を行い、その人らしく安全で安心して生活ができるように努めた。
- 2 加齢に伴う心身の機能低下を防止するように努めるとともに、随時、ご家族やケアマネージャーに情報提供を行い、疾病等の早期発見に努め、健康的な日常生活を送ることができるよう支援を行った。
- 3 高齢者の世代変化を捉え、趣味や知識、経験等を活用したレクリエーションを実施することで、利用者様の意欲増進に努めた。

## II 事業の概要

- 1 利用実績、スタッフの配置状況、事業所内外の研修参加状況及び年間行事実施状況
- 2 稼働率目標は 74%以上であったが、年間の平均稼働率は 67.3%に留まり、目標達成には至らなかった。

### (1) 利用実績

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	30	31	30	31	31	29	31	30	30	28	28	31	360
延べ利用者数	379	381	325	331	337	347	380	401	393	366	338	375	4,353
延べ送迎数	739	741	636	644	660	680	731	767	751	697	660	720	8,426
延べ入浴数	367	371	317	324	324	338	345	365	363	345	321	349	4,129
延べ食事数	379	381	325	331	337	347	380	401	393	366	338	375	4,353
稼働率 (%)	70.2	68.3	60.2	59.3	60.4	66.5	68.1	74.3	72.8	72.6	67.1	67.2	平均 67.3

### (2) スタッフの配置状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

職 種	常勤換算数
所 長	0.75 人
生活相談員	1.45 人
介 護 員	3.29 人
看護職員	0.94 人
機能訓練員	0.25 人
技 師	0.78 人
合 計	7.46 人

※数字は常勤換算



## (3) 事業所内研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加人員
権利擁護研修会 (八流荘との合同研修)	高齢者虐待について	平成 29 年 5 月 26 日	5 名
権利擁護研修(職員会)	高齢者虐待について	平成 29 年 6 月 22 日	全員
①認知症の理解 ②リスクマネジメント	①認知症の中核症状に対する対応法 ②デイで起こるクレーム & トラブル対応法	平成 29 年 7 月 26 日	全員
口腔ケア研修 (八流荘との合同研修)	口腔ケアの理解と実践	平成 29 年 7 月 28 日	3 名
感染症対策研修	ノロウイルス及びインフルエンザ対策についての DVD 視聴	平成 29 年 9 月 28 日	全員
平成 30 年度事業計画、無期転換制度について	事業計画、臨時職員の無期転換制度の理解と周知	平成 30 年 2 月 22 日	全員
危険予知訓練	KY 活動推進に必要な手法の習得	平成 30 年 3 月 22 日	全員
防災訓練	防災機器操作訓練	平成 29 年 4 月 27 日	1 名
	凶上訓練(地震・土砂災害想定)	平成 29 年 7 月 12 日	1 名
	防災備蓄物品の保管場所の確認と使用方法について	平成 29 年 9 月 13 日	2 名

## (4) 事業所外研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加人員
四国老施協研究大会	介護保険法の改正 地域との連携・交流・地域づくりの取組手法	平成 29 年 6 月 29 日 ～6 月 30 日	1 名
認知症介護基礎研修	認知症介護の知識・技術の習得	平成 29 年 7 月 12 日 平成 29 年 10 月 13 日	各 1 名
通所サービス自立支援研修会 1	通所サービスにおける自立支援の課題整理とストレングスアプローチ	平成 29 年 7 月 12 日	3 名
通所サービス自立支援研修会 2	強みの分析、強みを活かした目標とプログラム設定 グループ活動を活かした効果的な自立支援アプローチ	平成 29 年 8 月 23 日	3 名
通所サービス自立支援研修会 3	各事業所の取組み発表 成功事例と失敗事例	平成 29 年 10 月 11 日	3 名
通所サービス自立支援研修会 4	通所サービスから自宅や地域につなげるための自立支援のコツ	平成 29 年 11 月 22 日	3 名
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー	地域福祉の貢献について等施設見学	平成 29 年 8 月 17 日 ～8 月 18 日	1 名
安芸市デイサービス情報交換会	各事業所の取組みと課題の情報共有	平成 29 年 12 月 12 日	1 名
介護支援専門員連絡協議会東部ブロック研修会	高知県東部の医療の現状について	平成 29 年 12 月 15 日	1 名

研修名	研修内容	実施年月日	参加人員
安芸市高齢者虐待防止ネットワーク会議	高齢者虐待の現状と各機関の取組みと課題の情報共有	平成30年3月6日	1名
感染症対策指導担当者研修会	感染性胃腸炎の感染予防と実技	平成30年3月13日	1名

(5) 行事实施状況

実施月	行事名	実施月	行事名
H29/4/5,6	お花見	11/16	運動会
5/26	赤野保育園園児との交流会	11/29	焼き芋
6/22	おやつ作り (ホットケーキ)	12/18	年忘れ会
7/21	おやつ作り (わらび餅)	H30/1/23	新年会
7/26	赤野かもめサロンとの交流会	2/3	節分(豆まき)
8/28	縁日	3/17	おやつ作り (どら焼き)
9/5	長寿を祝う会 穴内保育園園児との交流会	その他	慰問：よさこい鳴子踊り

# ホームヘルプステーション やながれ

## I 事業の総括

- 1 地域福祉の担い手として、長期に安定したサービスを提供するために、経営基盤安定化に努めた。
  - (1) 地域住民の意向を考慮し、必要なサービスを提供するとともに、常にサービス内容の見直しを行い、適切なサービスが提供できるように運営方法の改善に努めた。
  - (2) 利用者様やご家族が住み慣れた自宅で、安全で安心して日常生活が送れるよう支援するために、具体的な訪問サービス計画に基づき実施した。
  - (3) 訪問ルートと業務配分の見直しを行い、業務の効率化に努めた。
- 2 個人の尊厳を保ち、希望される生活の実現を目指して、利用者サービスの質の向上に努めた。
  - (1) 毎週1回全員参加のカンファレンスを開催して、個別介護方法の検討やスタッフ相互の情報共有を行うことで、介護力や観察力、コミュニケーション力の向上に努めた。
  - (2) 利用者様やご家族等からの苦情や相談には誠意を持って迅速に対応し、早期解決に努めた。

## II 事業の概要

### 1 利用実績、スタッフの配置状況、事業所内外の研修参加状況

#### (1) 利用実績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	364
利用者数	37	38	37	37	35	37	38	40	38	32	38	38	445
延べ訪問回数	429	452	422	423	443	446	440	423	397	296	345	376	4,892
稼働率(%)	92.5	95.0	92.5	92.5	87.5	92.5	95.0	100	95.0	80.0	95.0	95.0	平均 92.7

#### (2) スタッフの配置状況（平成30年3月31日現在）

職 種	常勤換算数
所 長	0.25 人
訪問介護員 (サービス提供責任者)	1.0 人
訪問介護員	1.0 人
登録訪問介護員	1.03 人
合 計	3.28 人

※数字は常勤換算

## (3) 事業所内研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加人員
防災訓練	防災機器操作訓練	平成 29 年 4 月 27 日	1 名
	防災備蓄物品の保管場所の確認と使用方法について	平成 29 年 9 月 13 日	1 名
一般救命講習	救急法の習得	平成 29 年 10 月 18 日	2 名
口腔ケア研修 (八流荘との合同研修)	口腔ケアの理解と実践	平成 29 年 7 月 28 日	1 名
口腔ケア研修(職員会)	口腔ケアの理解と実践	平成 30 年 2 月 9 日	全員
感染症対策研修	ノロウイルス及びインフルエンザ対策についての DVD 視聴	平成 29 年 9 月 29 日	全員
平成 30 年度事業計画と無期転換制度について	事業計画、臨時職員の無期転換制度の理解と周知	平成 30 年 2 月 23 日	全員
危険予知訓練	KY 活動推進に必要な手法の習得	平成 30 年 3 月 30 日	全員

## (4) 事業所外研修

研修名	研修内容	実施年月日	参加人員
介護支援専門員連絡協議会東部ブロック研修会	高知県東部の医療の現状について	平成 29 年 12 月 12 日	1 名

# 在宅介護支援センター やながれ

## I 事業の総括

- 1 東部地域の介護保険の現状、特に安芸市の介護認定者数の減少に伴い、当事業所のサービス計画作成利用者数は月平均 57.7 件となりました。また、デイサービスやながれで相談員の欠員に伴う補充が間に合わないこともあり 2 月より介護支援専門員 1 名をデイサービスやながれの相談員の兼務として配属することとし、在宅部門の他事業所と協働、経営安定に努めました。
- 2 いきいき体操に参加し高齢者との交流を行うとともに、民生委員の会に参加、公民館行事等への参加により地域の現状把握を行いました。また、地区社協主催の介護教室で「介護予防」についての講師を務めるなど地域貢献に努めました。
- 3 行政や関連機関の研修会参加、東部地域の介護支援事業所との勉強会の開催などにより介護支援専門員の資質向上を図りました。  
ケアマネ定例会（毎月）  
管理者研修会（毎月）  
東部四者・安芸病院勉強会  
医療介護情報連携ネットワークシステム研修・医療介護連携調整会議  
苦情解決セミナー・高知県ケアマネ協議会研修
- 4 介護保険制度の改定を控え関係機関からの情報収集を行い必要な帳票やマネジメントの手順等を確認、見直しを行いました。

### 5 平成 29 年度 サービス作成料請求状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	63	62	60	58	54	56	57	57	54	50	47	48	666
予防	3	3	3	3	2	1	1	2	2	2	2	2	26
合計	66	65	63	61	56	57	58	59	56	52	49	50	692

### 6 苦情件数

利用者様宅の近所の住民より公用車の駐車場所についての苦情 1 件

# 小規模多機能型居宅介護事業所 南風

## I 事業の総括

土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」を基本理念とし、福祉サービスを利用される障害者や高齢者に対して、個人の尊厳、年齢及び心身の状況等に応じた多様な福祉サービスを提供することにより、これらの人々が住み慣れた地域で、社会の一員として自立した日常生活をすると共に、社会、経済、文化、その他あらゆる分野での活動等に参加できるように努めました。

- 1 地域福祉の拠点としての使命と役割を自覚し、地域から受け入れられ、地域活動や地域の方々と関わりを持つことに積極的に努めました。
- 2 家族会を2回/年行い、利用者様、ご家族の思いや希望を共有し、関係性の構築に努めました。家族会で希望のあった内容をサービスに取り入れる等、利用者様、ご家族の思いが繁栄されたサービス提供に努めました。
- 3 利用者様個人を理解する為、必要な情報シートを作成しました。介護支援専門員を中心とし、職員の資質向上の為にケアプランのモニタリング（1回/6ヵ月）に取り組む体制づくりをしました。
- 4 毎月の登録定員20名（稼働率80%）を目標とし、今年度は平均21.4名（稼働率86%）と、稼働率は目標を達成できましたが、新規利用者の介護度が軽度であったことが影響し、収支は厳しい結果となりました。H30年度は、訪問体制強化加算、看護職員配置加算（Ⅱ）を新たに算定できる職員配置を整え、効率的な事業運営に努めます。

## II 事業の概要

- 1 良質の福祉サービスを提供するため、施設運営体制の充実をと職員資質の向上を図るための職員研修を行い、その資質の向上に努めました。

### （1）職員配置状況

職 種	人数	業 務 内 容
所 長	正職 1	事業全般の総括、勤務調整、職員育成、日常生活全般の援助補佐
介護支援専門員 兼介護員	正職 1	利用申し込み受付、契約、サービス計画の作成、担当者会議とサービスの調整、日常生活全般の援助、相談
看 護 師	嘱託 1	健康管理、通院介助等医療全般に関わるサービス及び日常生活全般の援助、相談等
介 護 員	正職 2, 嘱託 10	日常生活全般の援助、相談等

### （2）職員の資質向上を図るための研修等

#### ① 事業所内勉強会

実施日	内 容	参加者
H29 4	就業規則について	全職種 10名
5	事例検討	全職種 11名
6	事例検討	全職種 10名
7	虐待防止研修	全職種 12名
8	感染症対策	全職種 10名
9	高齢者とは	全職種 10名

実施日	内 容	参加者
10	身体拘束について	全職種 12名
11	外部評価について	全職種 10名
12	外部評価について	全職種 11名
H30 1	リスクマネジメント	全職種 11名
2	SWOT 分析	全職種 11名
3	KYT 研修	全職種 12名

② 事業所外研修会

実施日	研修主催	研 修 名	参加者
H29 5/12	安芸市	安芸市ケアマネジメント研修会 課題分析（アセスメント）についての講義 6/14 居宅サービス計画作成の理解と実践 7/12 モニタリングについての講義アセスメントの理解と実践	所長 CM 兼介護 員
5/25	高知県	高知家統一ケアセミナー 姿勢と動き 1 基礎, 6/22 姿勢と動き 2 姿勢管理 7/25 姿勢と動き 3 ノーリフト腰痛予防Ⅰ 8/24 姿勢と動き 4 ノーリフト腰痛予防Ⅱ ,9/27 排泄	介護 2名 介護 2名 介護 2名 介護 2名 介護 3名
5/26	安芸市	権利擁護研修	介護 2名
6/14	高知県小規模連絡会	高知県小規模連絡会勉強会	所長 1名
6/30	高知県安芸福祉保健所	第 1 回東部地区糖尿病勉強会	看護 1名
7/11	安芸市	権利擁護研修（宅老所わずれな草と合同研修）	介護 8名
5/12	安芸市	安芸市ケアマネジメント研修会 課題分析（アセスメント）についての講義 6/14 居宅サービス計画作成の理解と実践 7/12 モニタリングについての講義	所長 1名 CM 兼介護
7/13	県社協	税務基礎研修	所長 1名
7/12	安芸市	通所サービスにおける自立支援研修会 通所サービスにおける自立支援課題整理 8/23 通所サービスにおける自立支援のコツ 10/11 ウチにもできた、通所サービスにおける自立支援 11/22 通所サービスから自宅や地域へ繋げる為の自立支援	所長 1名 CM 兼介護 看護 1名
7/29, 30	高知県	介護支援専門員更新研修	所長 1名
8/17	全社協	中国・四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	所長 1名
9/4	県社協	福祉サービス苦情解決セミナー	所長 1名
10/13	県社協	認知症介護基礎研修	介護 1名
11/22	県社協	高知県福祉大会	所長 1名
12/2	安芸市	第 2 回口腔ケアシンポジウム	介護 2名
H30 1/26	高知県小規模連絡会	高知県小規模連絡会勉強会	所長 1名 CM 兼介護 1名

実施日	研修主催	研 修 名	参加者
2/16	あき総合病院	精神障害者を理解しよう	介護1名
3/6	高知県社協	福祉の仕事 はじめの一步	介護1名

### ③ 事業運営関係

項目	実施状況	内 容	参加者
職員会議	1回/月	情報の共有、出張報告、行事の起案、反省 事業計画、外部評価、施設運営全般の関する 情報共有、検討課題等の意見交換	全職員
事故検討会	随時	事故検証その防止策、ヒヤリハット	事故対策委員
ケースカンファレンス	毎日	ケアプラン、事例検討	出勤者
業務改善会	随時	業務の課題、改善について検討	業務改善委員会
やながれゾーン連絡会	1回/月	やながれゾーンの報告、月間計画の確認ゾーンの検討課題	やながれゾーン 各職種
衛生委員会	1回/月	職員の安全、衛生に関する事	衛生委員
運営推進会議	1回/ 2か月	現況、活動報告、地域との協働について 防災対策、意見交換など	運営推進委員、 その他
何でもしゃべろう会	1回/月	利用者様と職員との意見交換、アンケート調査	利用者様 担当職員
ご家族との情報交換会	2回/年	サービス向上に向けての情報交換会 ご家族からの悩み等聞き取り	ご家族・職員

### III 活動実施状況

実施日	内 容
H29 4/14, 17	花見 (安芸市営球場)
5/2	わすれな草での演劇見学
6/13~21日	外食 (安芸市内)・あじさい見学 (香南市)
7/7	七夕まつり (地域交流)
8/6	花火大会 (南風駐車場)
8/12	商い甲子園見学・買い物
8/29	縁日 (南風ホール)
9/15	長寿を祝う会
10/26	ハロウィンパレード (園児来所)
10/29	ふれあいバザーへの出店
11/7	秋の浜弁当 (地域交流)
11/11	マリンバ演奏会
12/20	クリスマス・年忘れ会
H30 1/1	初詣 (東八幡宮)
1/9	新年祝賀会 (運営推進委員会・行政)
2/3	節分



実施日	内 容
3/13	ひな祭りパレード (園児来所)
3/3	ひな祭り (四季膳・市内のお雛様見学)
3/16	県立安芸中・高等学校吹奏楽部演奏会・書道部イベント (すまいるあき)
3/29	花見 (安芸市営球場)
その他	4、5、6、7、8、9、10、12、1、2、3月誕生会

#### IV 利用実績報告

##### 1 登録者数及び営業日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
登録者数	22	20	19	22	22	22	23	23	22	21	21	20	平均 21.4
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	合計 365

##### 2 月別サービス利用状況 (訪問：回数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	371	371	356	390	401	376	390	396	403	318	323	366	4461
宿泊	53	46	41	37	43	36	45	35	44	31	36	38	485
訪問	47	53	47	42	50	40	77	81	78	90	74	79	758
その他	34	36	34	36	36	34	36	34	34	36	32	36	418

##### 3 一日平均利用者数

通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス	その他
12.2	1.2	2.0	2

##### 4 年齢別、介護度別利用状況 (人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
70～74歳	3					3
75～79歳	2	1	3	1	1	8
80～84歳	3		1	1	1	6
85～89歳	1	2		1		4
90～94歳	1	4	1	1		7
95歳以上			2			2
合計	10	7	7	4	2	30

\*平均年齢 83.8歳 最高年齢 95歳 最低年齢 71歳

# 障害者支援施設 とさ

## I 事業の総括

関係法令を遵守し、土佐厚生会の会是を基本理念として地域の福祉拠点をスローガンに利用者様一人ひとりの想いに沿った支援を心がけました。また、利用者様、ご家族等との信頼関係を深め、安全で安心して豊かな生活を送ることが出来る体制づくり、環境づくりに努めました。

### 1 利用状況

目標稼働率は施設入所支援サービス 98%、生活介護サービス 98%。実稼働率は施設入所支援サービス 97.4%、生活介護サービス 95.4%と目標に達する事が出来ませんでした。

### 2 サービス内容

利用者様一人ひとりのニーズによって、作成した個別支援計画により支援を行いました。また、サービス内容の充実のため、加算サービスである重度障害者支援加算(Ⅱ)を算定できる体制を整えましたが、対象利用者不在等により算定できませんでした。

### 3 環境整備

利用者様によりよい支援ができるように職員駐車場のアスファルト化や食器洗自動洗浄機の買い替え等を実施、労働環境の整備と省力化に務めました。

### 4 人財育成

目標職員定着率 95%、実職員定着率 90.9%。目標を達成する事ができませんでした。職員の研修は積極的に参加、サービス管理責任者資格 2名、相談支援専門員資格 1名、強度行動障害支援者資格 2名取得しました。

### 5 地域との係わり

地区主催のお祭や清掃活動に協力や参加、近隣小学校との交流会、近郊養護学校からのサービス体験受け入れ等の交流、災害時の福祉避難所の効率的な運営の検討を行いました。

## II 事業の概要

### 1 利用状況

#### (1) 稼働率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設入所	99.1	98.9	97.5	99.7	99.5	99.6	96.9	96.5	95.5	95.0	94.9	95.1	97.4
生活介護	96.6	97.5	96.5	97.7	97.5	97.9	95.9	94.9	92.9	92.3	92.8	92.3	95.4
内訳	入所	(97.8)	(97.3)	(95.6)	(98.0)	(97.7)	(97.8)	(95.2)	(95.3)	(93.8)	(93.8)	(93.4)	(95.7)
	通所	(90.5)	(98.3)	(100.9)	(96.1)	(97.0)	(98.2)	(99.1)	(93.2)	(88.3)	(84.8)	(91.5)	(93.7)

#### (2) 利用契約

(単位：人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
施設入所支援	0	0	1	15	13	20	49
生活介護	0	0	2	17	16	35	70
内訳	入所	(0)	(0)	(1)	(15)	(13)	(49)
	通所	(0)	(0)	(1)	(2)	(3)	(21)

(3) 入所利用者様の概要

① 主な障害等

		脳性マヒ	脊髄損傷	脊髄マヒ	脳血管障害後遺症	頭部外傷後遺症	リュウマチ	進行性筋萎縮症	その他	計	左の内		
											重複障害者	視覚障害保持者	聴覚障害保持者
性別	男	6	2	0	7	6	0	1	11	33	4	1	1
	女	5	0	0	4	0	0	0	7	16	6	0	0
	計	11	2	0	11	6	0	1	18	49	10	1	1
手帳等級別	1級	6	2	0	11	5	0	1	11	36	5	1	1
	2級	3	0	0	0	0	0	0	5	8	3	0	0
	その他	2	0	0	0	1	0	0	2	5	2	0	0
	計	11	2	0	11	6	0	1	18	49	10	1	1
年齢構成	20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20歳～29歳	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0
	30歳～39歳	3	1	0	0	0	0	0	3	7	2	0	1
	40歳～49歳	2	0	0	1	1	0	0	4	8	4	1	0
	50歳～59歳	2	0	0	1	2	0	0	1	6	0	0	0
	60歳～64歳	1	0	0	0	4	0	1	3	9	1	0	0
	65歳～69歳	1	0	0	6	0	0	0	4	11	0	0	0
	70歳以上	1	1	0	2	0	0	0	2	6	1	1	0
計	11	2	0	10	7	0	1	18	49	10	1	1	

② 主たる障害の原因

	事 故				疾 病				合 計
	交通事故	労働災害	その他	小 計	先天性	後天性	その他	小 計	
男	7人	1人	1人	9人	10人	14人	0人	24人	33人
女	2人	0人	2人	4人	4人	8人	0人	12人	16人
計	9人	1人	3人	13人	14人	22人	0人	35人	49人

③ 利用者様の年齢状況

	最年少	最年長	平均
男	29才	84才	56.4才
女	28才	80才	55.3才
全体	28才	84才	56.0才

④ 利用者様の身元引受人の状況

親	配偶者	子供	兄弟姉妹	親族	その他	合計
16人	5人	8人	15人	4人	1人	49人

⑤ 月別の在籍・入退所の状況

	在籍者数 (月初)	入所前の状況(人)						退 所 理 由(人)								
		家 庭	医 療 機 関	同 種 施 設	多 種 施 設	そ の 他	計	社 会 復 帰		家 庭 復 帰	入 院	同 種 施 設	多 種 施 設	死 亡	そ の 他	計
								就 職	自 営							
4月	49	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	50	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
8月	50	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
9月	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	50	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1月	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
2月	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	48	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	595	2	0	0	3	0	5	0	0	0	4	0	0	1	0	5

2 サービス内容

(1) 日常生活の支援

	月	火	水	木	金	土	日
6:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床
7:40	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:30	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎		
9:30	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回
10:00	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	職員朝礼	朝礼	職員朝礼
10:30	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動		
11:00							
11:40	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回・入浴	巡回・入浴	巡回	巡回
13:30	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動	日中活動		
14:00							余暇活動
15:30	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回
15:45	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎
16:30	ふれあいタイム	ふれあいタイム	ふれあいタイム	ふれあいタイム	ふれあいタイム	ふれあいタイム	ふれあいタイム
17:15	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ	引き継ぎ
17:30	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助	夕食 就寝介助
20:00	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回	巡回
22:00	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯

※通所休業日月当たり8日とし午前と午後の送迎はありません。

(2) 日常生活動作等の状況

介助の項目	一部介助	全介助	備 考
食事介助	7人	11人	一部：自助等を使用し一部介助すれば食事ができる。 全部：臥床のままで食事介助を要する。
排泄介助	20人	22人	一部：介助があれば簡易便器及びトイレでできる。 夜間おむつを使用する。 全部：常時おむつを使用する。
着脱衣介助	19人	23人	一部：手を貸せば着脱できる。 全部：自分でできないのですべて介助を要する。
入浴介助	27人	24人	一部：身体を洗う時や浴槽の出入りに介助を要する。 全部：自分ではできないのですべて介助を要する。 特殊浴槽を利用する。
歩行介助	0人	41人	一部：付添が手や肩を貸せば歩ける。 全部：車椅子等への移乗に介助を要する。
寝返り介助	17人	12人	一部：少し手を貸せば寝返りできる。 全部：1人では寝返りできないので全介助を要する。
車椅子使用者	49人		—
知的（精神）障害者	19人		—
おむつ使用者	28人		うち、夜間のみ使用者は15人
褥瘡者	2人		うち、施設内で発症2人 うち、施設外で発症0人

(3) 入浴

	一般浴	機械入浴
入浴対象者	34人	17人
1人当たりの回数	2回/週	2回/週
入浴日	月・火・木・金	月・火・木・金
男性入浴時間	火 9:30-11:30・13:00-15:30 金 9:30-12:00・13:00-15:30	火 9:30-11:30・13:00-15:30 金 9:30-12:00・13:00-15:30
女性入浴時間	月 9:30-12:00・13:00-15:00 木 9:30-12:00・13:00-15:00	月 9:30-12:00・13:00-15:00 木 9:30-12:00・13:00-15:00
入浴人員	男性 23人/回	男性 10人/回
	女性 11人/回	女性 7人/回
介助の人員	4人/回	4人/回

※当日、入浴できなかった利用者様については、清拭又は次回入浴で対応しました。

(4) 健康管理

① 看護師による処置の内容

	人数	備 考
経管栄養	0人	—
バルンカテーテル留置	5人	—
吸引/吸入	—	随時
慢性創傷及び皮膚科処置	—	随時

② 健康診断の状況

	区分	利用者様	職員	計
胸部検査	対象者数	18人	61人	79人
	受診者数	17人	60人	78人
	直接撮影者	0人	42人	42人
精密検査	精密検査対象者	0人	0人	0人
	精密検査受診者数	0人	0人	0人
	断層撮影者数	0人	0人	0人

③ インフルエンザ予防接種の状況

	男性	女性	計
利用者	42人	21人	63人
職員	22人	36人	58人

④ 協力病院の状況

名称	診療科目	所在地
土佐市民病院	内科／外科／その他	土佐市高岡町甲 1867
細木病院	内科／外科／その他	高知市大膳町 37

⑤ 医療機関受診の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	10	12	4	5	15	7	11	14	13	11	7	11	120
外科	0	2	1	0	2	3	1	2	1	1	0	0	13
脳神経外科	5	1	6	1	4	2	4	2	4	3	2	3	37
整形外科	4	5	6	5	7	5	4	4	4	7	3	5	59
泌尿器科	6	9	5	10	8	8	8	6	10	5	7	8	90
眼科	0	1	2	2	1	1	2	0	1	0	2	1	13
耳鼻科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
皮膚科	5	5	5	5	5	7	5	6	5	5	5	8	66
精神科	6	7	5	5	7	7	3	8	6	9	4	8	75
歯科	2	1	2	3	0	1	1	2	2	6	5	4	29
婦人科	3	6	4	4	1	1	1	2	2	4	1	1	30
リハビリ科	1	1	6	9	10	8	9	10	9	7	8	7	85
その他	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
計	43	50	47	49	61	50	49	57	57	58	45	56	622

⑥ 入院の状況

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1	3	3	2	0	0	2	3	4	3	0	1	22
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	5
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	3	3	2	0	1	3	4	4	3	1	2	27

⑦ リハビリテーション実施延べ人数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
382	461	436	444	439	406	418	407	385	375	349	402	4,904

(5) 食事の提供 (入所者)

① 療養食

	糖尿病食		減塩食		濃厚流動食		一般食	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4月	3人	6%	23人	47%	0人	0%	23人	47%
5月	3人	6%	23人	45%	0人	0%	25人	49%
6月	3人	6%	22人	43%	0人	0%	26人	51%
7月	3人	6%	20人	41%	0人	0%	26人	53%
8月	3人	6%	20人	40%	0人	0%	27人	54%
9月	3人	6%	20人	39%	0人	0%	28人	55%
10月	3人	6%	20人	39%	0人	0%	28人	55%
11月	4人	8%	20人	39%	0人	0%	27人	53%
12月	4人	8%	18人	37%	0人	0%	27人	55%
1月	4人	8%	17人	36%	0人	0%	27人	56%
2月	4人	8%	17人	36%	0人	0%	27人	56%
3月	4人	8%	17人	36%	0人	0%	27人	56%
延べ人数	41人		237人		0人		318人	

② 嗜好の把握と献立反映

嗜好の把握方法	年間回数	献立への反映状況
嗜好調査	1回	各調査をもとに行事食、 献立、選択食に反映
残滓調査	毎食	
給食委員会	12回	

(6) 活動

① 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知能力や感受性の向上</li> <li>協調性を養う</li> <li>心身のリラックス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もぐらたたき・かるた・卓球バレー</li> <li>DVD鑑賞・トランプ・駒回し</li> <li>けん玉・新聞作り</li> <li>ゲーム(Wii・黒ひげ危機一発)</li> </ul>
作業系	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団(社会)適応能力を高める</li> <li>手指の細かい動作能力を高める</li> <li>心身の耐久性を高める</li> <li>協調性、思考性、感受性を養う</li> <li>意思・意欲の向上</li> <li>認知能力を高める</li> <li>生活のリズムを整える</li> <li>自立生活能力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チョコバナナ・アフォガート</li> <li>フルーチェ・サンドイッチ</li> <li>シャービック・焼きそば</li> <li>調理材料買物</li> <li>七夕飾り付け・クリスマス飾り</li> <li>正月飾り・ひな飾り・個人創作</li> <li>暑中見舞い・年賀状</li> </ul>

学習系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団（社会）適応能力を高める</li> <li>・手指の細かい動作能力を高める</li> <li>・認知能力を高める</li> <li>・協調性を養う</li> <li>・思考性を養う</li> <li>・感受性を向上させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳トレ・書道・ぬり絵</li> <li>・カード合わせ</li> <li>・新聞作り・折り紙・間違い探し</li> <li>・チラシ作成・なぞり書き・かるた</li> <li>・個別学習・声の広報・地域学習</li> <li>・スピリットアート展の出展作品</li> </ul>
音楽療法系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンシップやリラックス</li> <li>・仲間作りや雰囲気づくり</li> <li>・発声訓練や身体の体操</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞</li> </ul>
園芸療法系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手・指の操作性</li> <li>・身体の動き</li> <li>・観賞、食する喜び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スナップエンドウ・コケ盆栽・花植え</li> <li>・草引き・新聞作り・作物や畑の観賞</li> <li>・収穫物の調理・看板作り・勉強会</li> </ul>
外出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分転換</li> <li>・社会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物・ドライブ・花見・パチンコ</li> </ul>
生産活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加</li> <li>・協調性や自活能力を高める</li> <li>・意思や意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りパン販売</li> </ul>
機関紙編集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち合わせ、誌面づくり、校正、送付準備など</li> </ul>
美活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔保持・心身のリラックス</li> <li>・意思・意欲の向上</li> <li>・気分転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンケア・ハンドケア・ネイルケア</li> <li>・ヘアメイク・オーラルケア</li> </ul>
美食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分転換</li> <li>・意思・意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い・スイーツ等取り寄せ</li> <li>・会食</li> </ul>

## ② 年間行事

行事名	実施日	実施場所
花見弁当	04/04	とさホール
ふれあい交流会	04/22	とさホール
中庭昼食	05/03	施設中庭
とさのぎく祭り	08/06	施設内
シニアセレモニー	09/18	とさホール
彼岸の法要	09/22	楓の間
涼風祭	10/21	施設敷地内
クリスマス忘年会	12/16	とさ施設内
節分豆まき	02/03	小ホール・デイホール
彼岸の法要	03/16	楓の間

## ③ 生活利便のサービス

	内 容	対象
預金引出	木曜日に銀行員が来所、希望者の通帳処理を行いました。	入所
買物	土曜日に希望日用品を代行して購入しました。	入所
ミニ売店	水曜日にカトレアの協力にて菓子類を販売しました。	入所・通所
パンの販売	月2回程度、業者が来所してパンを販売しました。	入所・通所
衣料品の販売	業者に来所をお願いして年4回衣料品を販売しました。	入所・通所



(7) 苦情・相談

① 苦情・相談の体制

苦情解決責任者	施設長
苦情等の申出窓口	サービス管理責任者

② 苦情や意見等の状況

受付先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	2	0	2
とさ地区施設運営委員会	0	1	1

(8) 通所送迎の利用延べ人数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
327	370	359	364	365	347	339	328	332	309	284	307	4,031

3 環境整備

- (1) 利用者様が安全で安心して日常生活が送れるように、施設敷地内の環境について、問題意識を持ちながら改善することでサービスの向上に努めました。
- (2) 保守点検の実施と故障設備の修理又は買い替えを実施、利用者様が住みやすく、心安らぐ環境作りに努めました。
- (3) 施設整備の改善・改修工事

内容	費用
09月 デジタルデータ保存装置一式 (NAS)	170 千円
10月 防犯カメラシステム ※1	1,674 千円
10月 電動ベッド (@325 千円×4 台) ※2	1,300 千円
11月 駐車場アスファルト工事一式 (施設北側)	1,188 千円
12月 ラップトップPC (国保連請求用)	104 千円
01月 業務用シュレッダー	111 千円
02月 介護報酬用ソフト (ソフトサポート終了による)	660 千円
03月 食器洗浄機	2,160 千円

※1 平成 29 年度高知県障害児・者施設整備事業費補助金 1,255 千円を充当しました。

※2 平成 29 年度高知県介護福祉機器導入支援事業費補助金 600 千円を充当しました。

4 人財育成

(1) 職員配置

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長 (管理者)	1	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	2	2	0	管理栄養士	1	1	0
医師 (嘱託医)	0	0	1	事務員	2	2	0
看護職員	3	3	0	用務員	1.3	1	1
生活支援員 (介護)	35.1	31	6	夜間警備員	1	1	0
生活支援員 (相談)	2	2	0	合計	49.4	45	8

※常勤換算は、小数点第 2 を四捨五入

(2) 職員研修

① 内部研修は、法人内部研修計画に従い研修に参加しました。施設内では偶数月に各部署が持ち回りで研修を実施しました。

② 外部研修

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
福祉車両安全運転講習会	04/27	高知市	用務員
中四身障協 施設長研修会	05/11～05/12 02/08～02/09	岡山県 香川県	施設長
福祉施設士会 高知県研修会	06/02	高知市	施設長
危険物安全研修会	06/07	いの町	用務員
職業能力開発推進者講習	06/13	高知市	用務員
食と栄養の会	06/13 12/05	高知市	栄養士
口腔ケア実務者研修会	06/15	土佐市	看護師長、サビ管
相談支援従事者(初任者)研修	07/18～07/19 09/12～09/14	高知市	相談員
強度行動障害支援者養成研修(基礎)	07/20～07/21 11/09～11/10	高知市	相談員 介護員
全国身障協 全国研究大会	07/21～07/22	高知市	施設長、事務主任、 相談員、介護員
土佐市地域支え合い推進事業勉強会	08/09	土佐市	相談員
福祉施設士会 中四セミナー	08/17～08/18	高知市	施設長、事務主任
感染症講習会	08/18	いの町	施設長
福祉サービス苦情解決セミナー	09/04	高知市	施設運営委員、 相談員
中四身障協 施設職員研修大会	10/05～10/06	香川県	施設長補、 看護師長、支援主任
サービス管理責任者等研修	10/27 12/05～12/06	高知市	介護員
介護福祉士実習指導者講習会	11/09～11/10 12/08～12/09	高知市	介護員
中四身障協 支援職員研修大会	11/15～11/17	鳥取県	介護員
給食施設関係者研修会	11/16	高知市	栄養士
高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	11/16	高知市	相談員
中四身障協 事務管理研修会	11/29～11/30	岡山県	施設長、事務主任
快適職場づくり研修	12/01	高知市	支援主任、支援員
全国身障協 職員スキルアップ研修	12/11～12/12	東京都	施設長、施設長補、 サビ管
公正採用選考人権啓発推進研修会	01/30	高知市	事務主任
県身障者(児)協 生活部会	02/21	四万十市	相談員
県身障者(児)協 合同セミナー	03/20	高知市	施設長

※サービス管理責任者→サビ管、生活支援員(相談)→相談員、生活支援員(介護)→介護員に略称

(3) 防災

- ① 防災対策委員会を設置、事業継続計画(BCP)の改訂と福祉避難所運営を検討しました。
- ② 消防法改正により、火災報知器の自動通報化と消防計画の見直しを行いました。
- ③ 防災訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導			6/28					11/22					2回
消火			6/28					11/22					2回
通報			6/28					11/22	12/13				3回
地震		5/24	6/28					11/22	12/13				4回
図上			6/28					11/22					3回
夜間避難			6/28					11/22					2回
救急法								11/10					1回
水害対応		5/24						11/22	12/13				2回
防犯対策												3/9	1回

(4) 会議及び委員会

① 施設運営関係

名称	頻度	回数	参加者	備考(主な議題等)
職員会	月1回	12回	職員	施設運営全般に関する連絡、研修、意見交換及び話し合い、研修報告など
衛生委員会	月1回	12回	施設長・衛生管理者・衛生委員	職員保健衛生に関する事柄を検討
防災対策委員会	月1回	12回	施設・各部署	災害の対策、事業継続計画の検討
施設運営委員会	月1回	12回	施設運営委員・施設長・サビ管	利用者様、ご家族等からの苦情・意見等の対応と協議、利用者様と施設運営委員との意見交換
連絡会	月～金	平日	施設長・各部署	利用者様の状態、各部署の連絡事項、行事等の確認、緊急な検討事項の協議等
主任者会	月1回	12回	施設長・各部署	施設運営検討事項の協議

② 利用者様関係

名称	頻度	回数	参加者	備考(主な議題等)
懇談会	月1回	12回	施設長・各部署	利用者様と意見交換、施設の状況、時事の説明
つどい	月1回	12回	施設長・各部署	各部署、自治会から連絡、利用者様と意見交換
自治会連絡会	月1回	12回	自治会役員・施設長・各部署	月間計画、利用者様の意見・要望等を協議
給食委員会	月1回	12回	自治会役員・施設長・各部署	自治会役員を交え、日々の献立にかかる意見・要望を協議
サービス改善委員会	月1回	12回	施設長・サービス改善委員	業務改善の評価、サービス内容の検討
事故防止委員会	月1回	12回	施設長・事故防止委員	施設内事故の調査、原因究明、事故防止対策を検討
虐待防止委員会	月1回	12回	施設長・虐待防止委員	虐待防止に向けた意識調査や学習会の実施
個別支援計画検討会	年2回	1人当たり2回以上	施設長・各部署	利用者様個々の個別支援計画についての検討

リハビリ計画 検討会	月1回	1人当り 4回以上	施設長・理学療法士・ 看護師・サビ管・支援主任	利用者様個々のリハビリの支援計画について の検討
栄養ケア計画 検討会	月1回	1人当り 4回以上	施設長・栄養士・看護師・ サビ管・支援主任	利用者様個々の栄養ケアの支援計画について の検討
身体拘束廃止 検討委員会	月1回	1人当り 4回以上	施設長・ 身体拘束廃止委員	利用者様への身体拘束の廃止・ 身体拘束継続の検討

## 5 地域との係わり

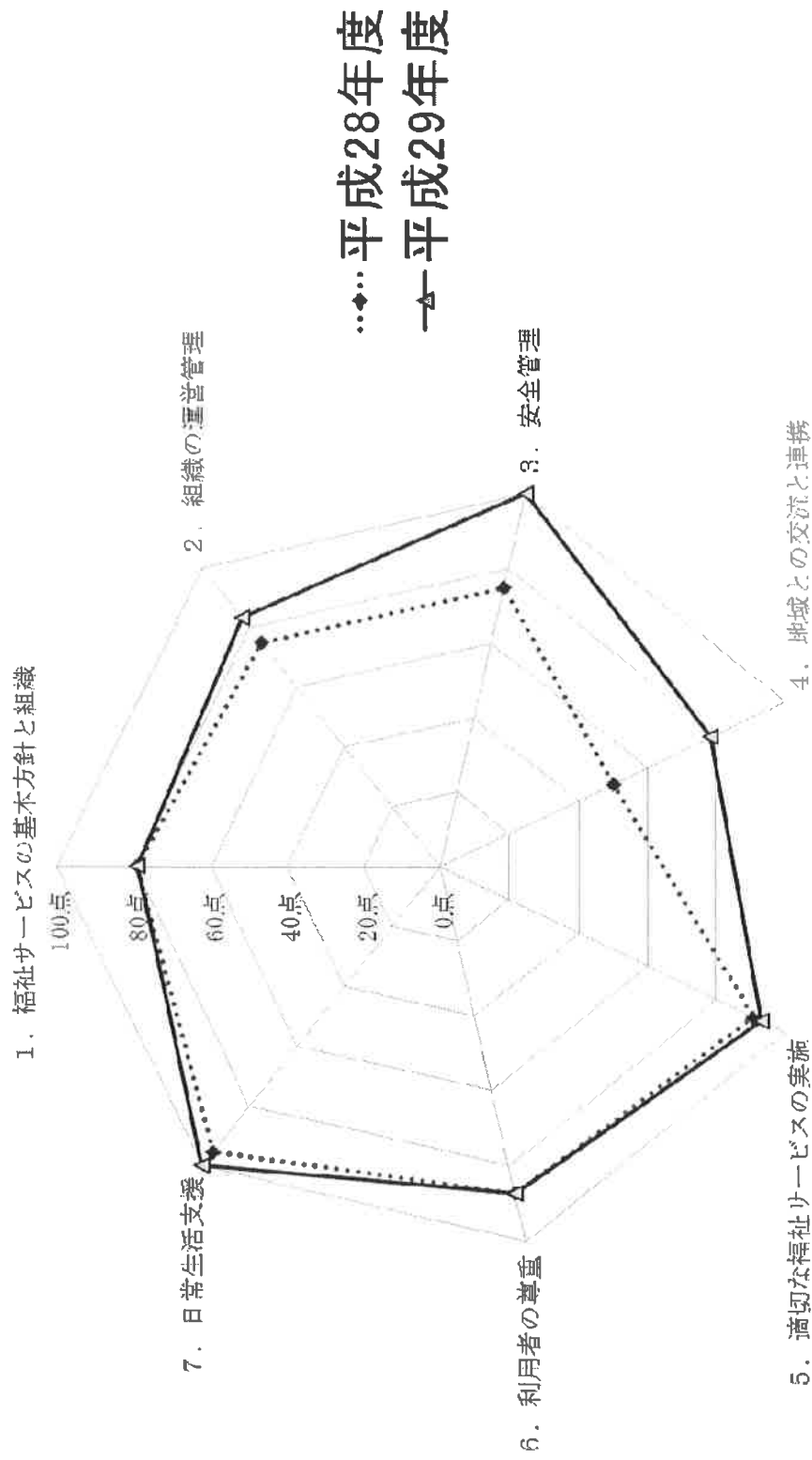
### (1) 地域福祉への貢献

- ① 生活介護サービスの通所者受け入れ及びショートステイ、障害者就労継続支援B型事業所カトレアと一体となりサービス選択のできる、とさゾーンとして充実した内容を備えた地域福祉サービスの提供を行いました。
- ② 土佐市自立支援協議会に参加、地域福祉の諸問題を各機関と共に検討しました。
- ③ 震災時に福祉避難所が有効に機能するように研修受講、必要物品の購入を行いました。
- ④ 福祉専門学校等の実習生は希望がありませんでした。

### (2) 地域交流

行事名	月日	実施場所
波介小学校 入学式出席	04/07	波介小学校
土佐市から始まる MUSIC STEP ピアノ・アコーディオン	05/18	とさホール
波介山清掃	06/11	波介山
土佐市から始まる MUSIC STEP コンサート	07/20	とさホール
波介地区 納涼祭	07/29	波介地区
土佐市から始まる MUSIC STEP ギターコンサート	09/21	とさホール
波介小学校 運動会参加	09/24	波介小学校
高知リハビリテーション学院祭・出店	10/08	高知リハビリテーション学院
涼風祭	10/21	施設敷地内
地域祭り (おなばれ)	10/15	施設沿道
波介山清掃	10/08	波介山
土佐市から始まる MUSIC STEP パーカス楽団	11/16	とさホール
波介小学校 交流会	11/30	とさ施設内
高石小学校 交流会	12/05	とさ施設内
クリスマス忘年会	12/16	とさホール
土佐市から始まる MUSIC STEP 堀内佳コンサート	01/18	とさホール
若草養護学校 卒業式出席	03/08	若草養護学校
波介・高石小卒業生 花束贈呈式	03/20	波介小学校・高石小学校
波介小学校 卒業式出席	03/22	波介小学校

## 評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設とさ)



## 障害者短期入所事業所 とさ

### I 事業の総括

当事業所は障害者支援施設とさに併設、事業は障害者支援施設とさに準じて実施しました。

### II 事業の概要

1 障害者総合支援法制度に伴う職員の配置状況は次のとおりでした。

施設長	事務員	サレシ童養番	理学療法士	医師	看護師	栄養士	生活支援員	夜間警備員	用務員	合計
1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(3)	1(1)	1(1)	12 (12)

※ 平成 30 年 3 月 31 日現在。ただし、( ) 内は兼務

2 支援内容

- (1) 安全で安心して生活を営むことができる設備の維持管理と環境の保持に努めました。
- (2) 併設の障害者支援施設に準じて日常生活の支援を行いました。
- (3) 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。

3 利用状況

(1) 稼働率

(単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
63.3	62.1	71.7	70.2	75.0	74.2	87.1	75.8	72.6	67.7	74.1	68.5	71.8

(2) 利用詳細

市町村名	年齢	性別	支援区分	利用日数	市町村名	年齢	性別	支援区分	利用日数
高知市	43	男	4	8	土佐市	40	女	3	21
高知市	32	女	5	4	土佐市	55	女	6	24
高知市	43	女	5	7	土佐市	34	男	6	47
高知市	30	男	6	32	土佐市	34	男	6	43
高知市	27	男	6	66	土佐市	34	男	6	43
高知市	21	女	6	43	土佐市	32	男	6	22
高知市	43	女	5	63	土佐市	45	女	5	60
高知市	41	男	5	162	土佐市	43	女	4	16
高知市	22	男	5	5	土佐市	45	女	2	6
高知市	17	女	2	2	土佐市	29	男	5	99
高知市	33	男	6	51	須崎市	62	女	6	6
高知市	63	女	3	6	いの町	20	男	6	61
高知市	43	男	3	22	いの町	28	女	4	2
高知市	31	女	4	24	佐川町	25	女	5	6
土佐市	40	男	5	78	津野町	45	男	6	15
土佐市	56	女	4	5	合計			31名	1,094日

# 就労継続支援 B 型事業所 カトレア

## I 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識及び技能を高める就労継続支援に向けて、会是の「愛情」、「奉仕」、「連帯」の精神を遵守し、平成 29 年度の目標『信頼の継続』の向上を目標に努力しました。

<目標内容>

- 1 利用者様の人格を尊重し、自己選択・自己決定を保障した地域社会において安全で安心して自立生活を送ることができるよう支援をしました。
- 2 利用者様のニーズを把握し、就労支援と社会生活支援を個別支援計画に基づき支援に努めました。
- 3 安定した施設運営ができるよう利用契約者 30 名（定員 20 名）を目標とし、稼働率 110%を目標としました。
- 4 利用者様の社会参加やご家族との交流を図るため、イベントや行事などの企画や参加を積極的に行いました。
- 5 良質の福祉サービスを提供するため職員の資質の向上を図りました。
- 6 利用者様の安全、安心が保障されたサービスの提供と環境の整備と維持管理に努めました。
- 7 授産活動での収益や顧客増加に努め、平均工賃が前年を上回るよう、その目標達成に努めました。

## II 事業の概要

- 1 利用者様の人権を尊重し、地域社会において自立生活を送ることができるよう支援に努めました。
  - (1) 職員の人権意識の徹底への取り組みとして
    - ① ノーマライゼーションや福祉の理念、人権擁護などについての学習会を行い、法人の理念や目標の理解と徹底を図りました。
    - ② 利用者様の障がい特性や事例検討についての学習を行いました。  
(施設内研修会、就労支援部会等)
    - ③ 日々の支援活動の中で、利用者様の人権を意識した支援についての検討や反省について、ミーティングで検証していきました。
  - (2) 利用者様一人ひとりの想いを大事にし、自己選択自己決定ができる場面設定や、意思表示の手段等に配慮のあるサービスを行うため以下の課題について学習に取り組みました。
    - ① 利用者様が自己選択、自己決定できる能力の養成への取り組みを行い、利用者様のコミュニケーション能力を個々の障がい特性に応じ高めていく支援を心掛けました。
    - ② 利用者様が自己決定、自己選択できる場所、機会を設定するよう努力しました。
    - ③ 情報の提供に努めました。
    - ④ 利用者様との信頼関係の構築に努め、利用者様に想いを話してもらえる関係を深めるよう努めました。
    - ⑤ 日課の中の、朝夕の集いや自治会活動、行事への取組等の支援の中で、利用者様が自主的、積極的に、意見や要求が出せるような環境を整え、全ての関わりの中で配慮した対応をするよう努めました。

2 基本的な日常の自立生活へ向けての個別支援計画書の策定と、それに沿った支援に努めました。

(1) 全職員が利用者様のニーズに応えられる支援計画が立てられる力量、またエンパワメントの視点で支援できる力量をつける取り組みを進めました。

- ① 利用者様の個別支援の課題設定は、個別支援計画をプログラム化し、目標達成に向けて、意欲的に取り組めるよう支援しました。
- ② 支援のサイクルとして、観察、(記録)集約、分析、目標設定、手だて(5W2H)実践、評価で行い、利用者担当が、定期的にモニタリングを行い確認しました。

(2) 基本的な日常の自立生活へ向けての支援に努めました。

- ① 利用者様には、個人個人に応じた個別支援計画書の作成を行い、また必要に応じ、その都度見直しを行いました。
- ② 作成した個別支援計画書は、利用者様及び契約支援者(扶養義務者)に十分な説明を行い、理解を得るように努めました。
- ③ 職員は、利用者様及びその扶養義務者の人権の尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らさないよう徹底しました。
- ④ 利用者様とご家族の関係又は個人個人が抱えている悩み、不安の解消や調整に努めました。
- ⑤ 利用者様に対する日常生活上の相談、助言あるいは必要な支援を行いました。
- ⑥ 苦情解決の窓口は、次のとおりでした。

ア カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対処するために、「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付のほか、毎月1回、利用者懇談会を開催しました。苦情相談の投函は5件あり、内容は夏季休暇と年末年始休みの要望と職員の支援についてとグループホーム世話人についてでした。

イ アの他に施設には、次のような苦情などの申し出窓口を設けて、常時、苦情の受付解決に当たることにしました。また、毎月1回、利用者懇談会を実施し、意見交換などを行いました。

苦情解決の責任者	カトレア施設長
苦情の申し出窓口	サービス管理責任者

3 利用者様の確保と稼働率アップに向けた取り組みに努力しました。

(1) 利用契約者30名を目標に下記の取り組みを行いカトレアのPRに努めました。

- ① 特別支援学校や養護学校高等部の実習生を積極的に受け入れました。その結果、平成30年3月に養護学校を卒業される方を新規利用者様として受け入れることが出来ました。

期間	学校名	学年	性別
5月15日～5月26日	日高養護学校	高3	男子
6月13日～6月23日	日高養護学校	高2	男子
9月4日～9月15日	高知市立高知特別支援学校	高3	男子
10月16日～10月27日	日高養護学校	高3	男子
30年1月15日～1月19日	日高養護学校	高3	男子

- ② 特別支援学校や地域活動支援センター、相談支援事業所との連携を密にしました。特別支援学校においては、平成30年2月9日に高知大学附属特別支援学校の学校参観に参加し、日高養護学校の夏祭り参加や、高知特別支援学校の杉の子祭へ参加しました。又、実習生の受け入



れや学校行事にも積極的に参加しました。

- ③ 行政との連携による情報聴取に努める利用者様の実態把握、紹介依頼、施設の状況報告、ケース会などへ積極的に参加しました。
- ④ 地域との連携に努めました。民生委員、地区老人会との交流や、行事、作業を通して親睦を図り、協力体制を築いていくよう努めました。
- ⑤ 土佐市自立支援協議会等への参加を通じて情報交換の場を作り、施設間の連携を図りました。

(2) カトレア機関紙『スマイル』を発行し、カトレアの日常をPRしました。

(3) 平成29年4月以降、1名の新規契約があり、利用契約者が28名となりました。

① 利用契約の状況 (平成30年3月31日現在)

男女別/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	男	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20
	女	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	合計	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28

② 年齢別

	身体	知的	精神	合計
18～19歳	0	2	0	2
20～29歳	0	10	1	10
30～39歳	0	6	1	7
40～49歳	0	5	0	5
50～59歳	0	1	0	1
60～69歳	0	3	0	3
合計	0	27	1	28

③ 市町村別利用状況

	土佐市	高知市	いの町	東洋町	馬路村	東京都	計
男性	6	10	2	1	1	0	20
女性	1	5	1	0	0	1	8
計	7	15	3	1	1	1	28

④ 手帳の交付状況

【身体】身体障害者手帳	【知的】療育手帳	【精神】精神保健福祉手帳	計
1級	A1	1級	28
2級	A2	2級	
3級	B1	3級	
4級	B2	—	
5級	手帳なし	手帳なし	
計	—	—	

⑤ 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/@	
平成29年度	利用契約者数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	27.1	
	開所日数	21	22	22	21	21	21	22	21	21	21	20	22	255.0
	出勤のべ人数	468	491	511	497	483	478	505	493	490	461	445	510	5832
	1日平均	22.3	22.3	23.2	23.7	23.0	22.8	23.0	23.5	23.3	22.0	22.3	23.2	22.9
	稼働率	111.4%	111.6%	116.1%	118.3%	115.0%	113.8%	114.8%	117.4%	116.7%	109.8%	111.3%	115.9%	114.4%
28年度	利用契約者数	27	28	29	29	29	29	29	29	28	28	28	27	28.3
	1日平均	20.7	20.4	22.8	22.0	23.1	20.7	22.4	22.3	21.4	20.0	21.6	22.2	21.6
	稼働率	103.3%	102.1%	113.9%	109.8%	115.5%	103.3%	112.1%	111.7%	106.9%	100.0%	108.0%	111.1%	108.2%
27年度	利用契約者数	24	25	25	25	25	25	25	25	26	25	25	27	25.1
	1日平均	23.2	24.5	22.0	22.8	21.7	24.2	22.3	22.4	24.3	25.0	23.1	24.3	23.2
	稼働率	90.5%	86.0%	92.0%	89.3%	88.0%	93.3%	95.9%	90.7%	95.0%	89.5%	87.1%	97.0%	91.2%
26年度	利用契約者数	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	23	21.4	
	1日平均	14.7	14.7	14.0	14.1	14.1	14.1	14.6	14.7	14.5	15.2	14.2	13.4	14.4
	稼働率	73.6%	73.3%	70.2%	70.7%	70.3%	72.9%	73.7%	72.4%	76.0%	70.8%	66.8%	75.0%	72.2%

4 年間行事や係・クラブ活動を通じて、利用者様の文化的、社会的活動への参加、仲間づくりなどの機会の提供を行いました。

(1) 各種イベントに積極的に参加しました。ふれあいフェスタ、高知リハビリテーション学院祭、ハビリ地域フェスティバル、障がい者スポーツ大会等に参加しました。又、高知県庁で行われる障害者雇用優良事業所等表彰式後の物品販売会や、農福連携マルシェへも参加し、社会参加の提供に努めました。

① 平成29年度年間行事

実施年月日	内容	実施場所	参加利用者数
平成29年5月28日	障害者スポーツ大会・陸上	春野運動公園	1
7月1日	日高養護学校なつまつり	日高養護学校	—
7月22日	こくふ村祭り	支援施設こくふ	—
10月15日	障害者スポーツ大会・フライングディスク	春野陸上競技場	5
10月8日	高知リハビリテーション学院学祭	高知リハ学院	—
10月15日	とさゾーン涼風祭	カトレア	21
11月2日	日帰り旅行	大塚国際美術館	21
12月10日	高知市特別支援学校杉の子祭	高知市立特別支援学校	—
平成30年1月13日	新年会・成人の祝い	土佐市・グランデール	22
3月29日	花見	木曜市・鏡野公園	23
平成29年5月～	土佐市から始まるミュージックステップ	支援施設とさ	18
計5回開催			

② 係活動

係名	人数	取り組みの内容
日直	当番制	司会、挨拶、作業予定、曜日
給食	8人	給食メニューの確認、連絡、配膳・下膳の手伝い
整理	7人	水やり、ペーパータオル・トイレトペーパー・マスク 手袋の管理、掃除の配分 掲示物のチェック

③ クラブ活動

月	実施状況	場所
4月	卓球・DVD鑑賞	カトレア
5月	カラオケ	カトレア
7月	DVD鑑賞	カトレア
8月	カラオケ	カトレア
9月	障害者スポーツ大会練習・DVD鑑賞	カトレア
10月	涼風祭	支援施設とさ
12月	カラオケ	カトレア
2月	カラオケ	カトレア
3月	DVD鑑賞	カトレア

5 職員の資質の向上のための取り組みに努力しました。福祉の理念の徹底、就労支援施設の目標についての学習を行い、利用者様に質の高いサービスが提供できる職員の養成に努力しました。

(1) 目標は下記のとおり行いました。

- ① 利用者様の障がい特性に対する理解の徹底を図りました。
- ② 施設内外、法人の研修会への参加を推進しました。専門性を高めるために、サービス管理責任者の勉強をし、職員1名が資格を修得する事が出来ました。
- ③ 福祉の理念、福祉に携わる職員としての心得、障がいと支援、質の高いサービスの提供等についての学習を行いました。
- ④ 業務改善提案表彰制度を活用し、気付きの心を持って支援に当たりました。
- ⑤ 報告、連絡、相談の徹底を行いました。

(2) 職員の配置状況

( )内は、兼務職員

職種名	施設長	管理責任者 サービス	事務員	生活支援員	職業指導員	運転手	パート技師	医師	看護師	栄養士	合計
職員配置数	1	1	(1)	1	3	2	1	1(1)	1(1)	1(1)	12(4)

(3) 会議等の開催状況

① 施設運営関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
朝のミーティング	出勤日・朝	有	送迎当番以外の職員	出欠状況、当日の予定
夕礼	出勤日・夕	有	送迎当番以外の職員	当日の作業、支援報告
職員会	月1回以上	有	全職員	施設運営全般
衛生委員会	月1回	有	所長	職員の安全と保険衛生に関する事柄を検討する
サービス改善委員会	月1回	有	所長	業務改善の評価、サービス内容の検討
虐待防止委員会	月1回	有	所長 サービス管理責任者	虐待防止に向けた意識調査や学習会の実施
ゾーン連絡会	月1回	有	所長 サービス管理責任者	翌月の予定、連絡事項
事故予防対策委員会	月1回	有	所長 職業指導員	施設内事故の調査、原因究明、事故防止対策を検討
個別支援会議	随時	有	全職員	個別支援計画についての検討
施設運営委員会	定例会年3回 月例会年9回	有	所長 サービス管理責任者	利用者様、ご家族からの苦情・意見等の対応とその協議、利用者様と施設運営委員との意見交換

② 利用者サービス関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
利用者懇談会	月1回	有	全職員	施設運営などの意見交換
給食委員会	年4回	有	栄養士、全職員	給食についての意見交換
施設運営委員相談日	月1回	有	—	第3者委員の相談受付
自治会	月1回	有	全職員	自治会運営について

(4) 学習会、研修会参加状況

研 修 会	実施年月日	実施場所	人員	参加者
高知県身体障害者（児）施設協会総会	平成29年5月19日	高知市	1名	所長
土佐市地域医療カンファレンス	平成29年5月26日	土佐市	1名	所長
食品衛生講習会	平成29年6月20日	土佐市	1名	職業指導員
高知県相談支援従事者研修	平成29年7月18日～19日	高知市	1名	生活支援員
福祉施設士セミナー	平成29年8月3日～4日	東京都	1名	所長
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー高知大会	平成29年8月17日～18日	高知市	2名	所長 サビ管

研 修 会	実施年月日	実施場所	人員	参加者
土佐市障害者自立支援協議会 施設部会	平成 29 年 5 月 16 日、 平成 29 年 7 月 25 日、 平成 29 年 10 月 24 日、 平成 30 年 2 月 19 日	土佐市	2 名	所長、サビ管
福祉サービス苦情解決セミナー	平成 29 年 9 月 4 日	高知市	1 名	生活支援員
福祉施設士会実学講座	平成 29 年 9 月 27 日～9 月 29 日	東京都	1 名	所長
発達障害者就労支援セミナー	平成 29 年 9 月 29 日	高知市	1 名	サビ管
フォークリフト運転技能 講習会	平成 29 年 10 月 5 日、 10 月 11 日～13 日	高知市	1 名	職業指導員
土佐市障害福祉事業所研修	平成 29 年 10 月 6 日	土佐市	2 名	所長、サビ管
給食施設関係者研修会	平成 29 年 11 月 16 日	いの町	1 名	職業指導員
高知県障害者雇用促進セミナー	平成 29 年 11 月 28 日	高知市	1 名	所長
品質マネジメントシステムフォロアップ® 研修	平成 29 年 7 月 5 日、 平成 30 年 2 月 8 日、 平成 30 年 3 月 15 日	高知市	1 名	職業指導員
要配慮者利用施設管理者 説明会	平成 30 年 1 月 31 日	高知市	1 名	所長
高齢者・障害者権利擁護 研修会	平成 30 年 1 月 30 日	土佐市	2 名	サビ管 生活支援員
高次脳機能障害者支援研修会	平成 30 年 2 月 7 日	高知市	1 名	所長
就労支援技能トレーニング講習会	平成 30 年 2 月 9 日	高知市	2 名	生活支援員 職業指導員
身体障害者（児）施設協会 高知県社会就労センター協議会 合同管理者研修会	平成 30 年 1 月 12 日	四万十市	3 名	所長 サビ管 生活支援員
高知大学教育学部附属特別支 援学校教育研究会・学校参観	平成 30 年 2 月 9 日	高知市	1 名	所長
社会福祉施設総合保険制度 説明会	平成 30 年 2 月 14 日	高知市	1 名	所長
サービス管理責任者養成講座	平成 29 年 10 月 27 日、 11 月 29 日～30 日	高知市	1 名	生活支援員
工賃向上セミナー	平成 30 年 3 月 26 日	高知市	1 名	職業指導員
身体障害者（児）施設協会 社会就労センター協議会 合同管理者研修会	平成 30 年 3 月 20 日	高知市	1 名	所長

法人内研修

研 修 会	実施年月日	実施場所	人員	参加者
コミュニケーショントレーニング	平成 29 年 5 月 24 日、7 月 26 日、 8 月 23 日、10 月 25 日	こくふ	4 名	サビ管 職業指導員
土佐厚生会合同視察研修	平成 29 年 5 月 29 日～5 月 31 日、 6 月 5 日～6 月 7 日	東京都	1 名	所長
アンガーマネジメント研修会	平成 29 年 12 月 6 日	こくふ	2 名	所長、サビ管
スキルアップ研修会	平成 29 年 11 月 1 日	こくふ	2 名	所長、サビ管
人事考課者研修会	平成 29 年 4 月 9 日 平成 29 年 10 月 1 日 平成 30 年 3 月 25 日	こくふ	2 名	所長、サビ管
上級職員研修会	平成 30 年 1 月 31 日	こくふ	1 名	職業指導員
就労支援部会（年 4 回）	平成 29 年 5 月 11 日	ウィール社	2 名	所長、サビ管
	平成 29 年 8 月 10 日	ウィール社	2 名	所長、サビ管
	平成 29 年 11 月 27 日	カトレア	2 名	所長、サビ管
	平成 30 年 1 月 27 日	ファーマー	6 名	常勤全職員
防災会議	平成 29 年 9 月 1 日	こくふ	2 名	所長、サビ管
とさゾーン夜間学習会	平成 29 年 9 月 6 日	とさ	6 名	常勤全職員
救急法講習(日本赤十字社)	平成 29 年 11 月 10 日	とさ	5 名	サビ管 生活支援員 職業指導員
とさゾーン虐待防止委員会 勉強会	平成 29 年 12 月 20 日	とさ	9 名	所長、サビ管 生活支援員 職業指導員 運転手
研修担当者会	平成 29 年 4 月より毎月 1 回 (計 12 回)	こくふ	1 名	所長

6 利用者様の安全、安心が保障されたサービスの提供に努めました。

(1) 利用者様の安全、安心への取り組み

- ① 毎月 1 回、利用者懇談会を実施し利用者様からの要望や意見を聴く機会を作りました。
- ② 11 月より 3 月末まで感染症対策で毎週月曜日に施設内消毒を実施しました。
- ③ リスクマネジメントに力を入れました。
  - ・ヒヤリハット、事故報告書の報告用紙の記載内容の検討と作成
  - ・定期的に、事故の要因の分析、事故予防対策について検討しました。

(2) 施設・整備の充実とその維持管理に努めました。

- ① 施設内の整理整頓及び清掃による環境美化に努めました。
- ② 作業室内に衛生区域をゾーニングする事で、衛生的な環境で作業に取り組めるようにしました。
- ③ 設備保守点検は、自主点検や外部委託などの方法等により十分配慮しました。

(3) 施設の災害や利用者様様の事故防止など、安全対策に努めました。

- ① 非常災害時に備えて、地域の方々の協力を得るため、地域住民との連携を深めるように努めました。
- ② 総合的な防災訓練、避難訓練の内容は、次のとおりでした。

<避難訓練等の実施状況>

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練			6/28					11/22					2
消火訓練								11/22					1
通報訓練									12/13				1
風水害訓練			6/28					11/22					2
図上訓練												3/1	1

- ③ 施設の内外に発生する傷害事故などの予防に努めました。
- ④ 万一事故が発生した場合、速やかに事故防止対策会議を開き、その解決に努めました。
- ⑤ 施設設備の管理や防災上で重要な場所又は、火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにしました。
- ⑥ 施設整備の点検は別に定める方法で行い、改善の結果はお知らせするよう努めました。
- ⑦ 業務上の各種マニュアルを整備して利用者様の生命の安全、保健衛生の徹底に努めました。

(4) 給食サービス

- ① カトレアの出勤日、すべての日にサービスの提供をしました。
- ② サービスの提供は昼食のみとし、その時間は12時から13時までとしました。
- ③ 2種類の選択メニューから、その日の主菜を利用者様に選んでもらいました。
- ④ 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。
- ⑤ 季節感のある食事や行事食の工夫をして、食事の楽しみができるようにしました。
- ⑥ 所要摂取カロリーは、570キロカロリーを基準としました。
- ⑦ 給食委員会を定期的に行い、利用者様の意見や要望を取り入れるようにしました。

<平成29年度各月の栄養量>

区 分	エネルギー kcal	蛋白質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミン A ug	ビタ ミ ン B1mg	ビタ ミ ン B2mg	ビタミン C mg
29年4月	562	21.2	96	2.1	361	0.26	0.25	26
5月	563	20.2	98	1.9	192	0.21	0.22	29
6月	552	21.5	103	2.7	449	0.23	0.23	23
7月	563	20.0	122	1.8	236	0.27	0.20	21
8月	561	21.2	112	1.9	264	0.17	0.19	21
9月	557	20.7	96	2.1	139	0.23	0.20	23
10月	640	23.8	112	2.8	191	0.29	0.26	29

11月	571	21.4	102	2.4	300	0.23	0.21	25
12月	573	19.6	79	2.2	291	0.26	0.22	28
30年1月	577	23.3	102	2.4	202	0.30	0.27	28
2月	561	22.4	114	2.4	209	0.23	0.24	27
3月	580	22.5	111	2.3	356	0.24	0.24	24
平均	571.7	21.5	103.9	2.3	265.8	0.20	0.20	25.3

(5) 健康管理とその保持に努めました。

① 定期健康診断実施状況（嘱託医の伊与木クリニック）

利用者	従業者	計
18	7	25

② インフルエンザ予防接種状況

利用者	従業者	計
13	8	21

(6) 利用者様より希望があり、カトレア施設脇に飲料水の自動販売機（日本財団夢の貯金箱）を設置しました。利用者様より希望があり、カトレア施設脇に飲料水の自動販売機（日本財団夢の貯金箱）を設置しました。

## 7 作業運営

(1) 利用者様の工賃アップへの取り組み

① 販売実績の向上により、作業内容や出勤率などを加味し、工賃時給額及び賞与のアップを図りました。

平成29年度平均工賃	¥18,572	前年対比 107.2%UP
平成28年度平均工賃	¥17,323	

② 各事業部に事業運営委員会を設置。（職員の運営委員会、利用者様の運営委員会）責任者を決め、各事業部の事業内容や、収益高、問題課題について定期的に報告発表を行い、改善についての検討を行いました。（商品の品質改善、販売先の確保、作業時間の検討）

(2) 各事業部売り上げ実績は次のとおりでした。

部署		27年度売上	28年度売上	29年度売上	目標金額	対前年差額	対前年比
乾燥工場	乾燥野菜	5,975,208	12,890,512	27,042,174	17,700,000	14,151,662	209.8%
	生姜洗浄	1,383,260	1,423,760	1,470,760	1,400,000	47,000	103.3%
	生姜転売		1,400,000			-1,400,000	0.0%
	他社請負		538,920			-538,920	0.0%
食品加工	食品加工(パウダー商品)	1,494,622	2,159,200	2,196,011	1,760,000	36,811	101.7%
	いりこ	387,634	415,806	711,705	400,000	295,899	171.2%
喫茶	喫茶	2,846,840	2,944,610	3,015,150	2,810,000	70,540	102.4%
	空調清掃	205,200	205,200	205,200	205,200	0	100.0%
	その他	3,000	28,650			-28,650	0.0%
	合計	12,295,764	22,006,658	34,641,000	24,275,200	12,634,342	157.4%



### (3) 各事業部の取り組み

#### ① 生姜・野菜乾燥工場

29年度は生姜の仕入価格が比較的安価であり、園芸連より生姜を約73t、オクラ約10t、ゴーヤ約6tの仕入を行い、乾燥チップに加工しサニーフーズへ生姜チップ約5t、オクラチップ約1tの販売を行いました。生姜洗浄作業と28年度製造の生姜チップ約1.7t分の売上額約800万円も含めると、約2,800万円の売上を達成する事が出来ました。また、生姜の乾燥チップ製造においては、1日2工程の乾燥を行い、効率よく乾燥生姜チップを製造することで、前年度借りていた一般業者の予冷庫を借りることなく、経費削減となりました。今後は、サニーフーズに好評の生姜とオクラを中心に、更なる乾燥作業効率化に努めると共に、経費削減の意識を持ち、利益確保に努めていきます。

#### ② 食品加工部門(生姜粉等の加工販売・いりこ請負作業)

粉末商品を対象として、高知県食品総合衛生管理認証HACCP(第3ステージ)の取得を目指し、規定や製造マニュアル等の作成や衛生環境の整備を進めていき、平成30年3月26日に取得する事が出来ました。又、いりこの分別作業も、毎週2回の出荷が出来、売上を伸ばす事が出来ました。今後は、HACCP認証施設としてシステムの運用を定着させ、認証マークを商品ラベルに使用していく事で、売上アップに繋げていきたいと思えます。

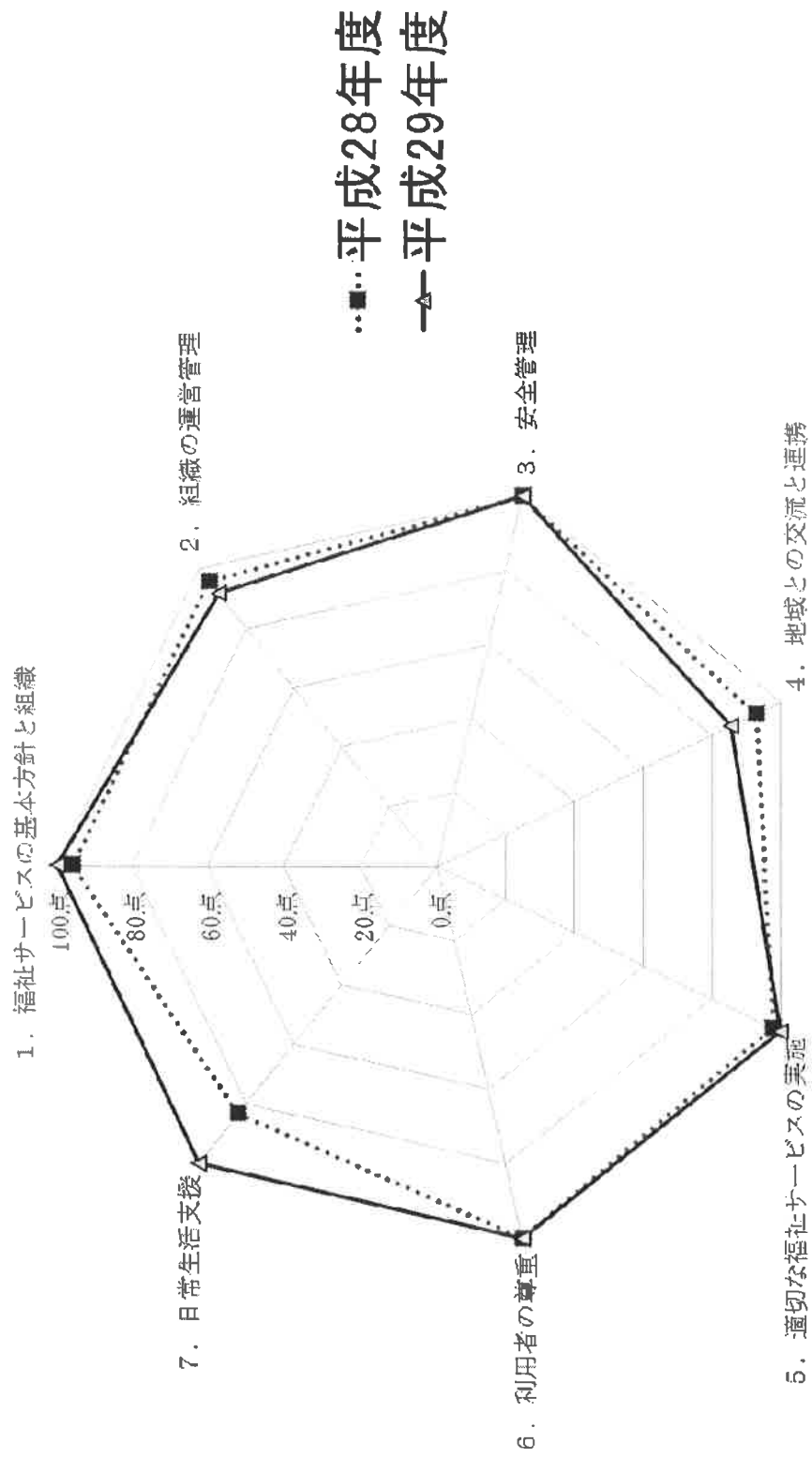
#### ③ 喫茶部門

法人の福利厚生事業である職員のランチ代補助が浸透し、毎月20万円を超える売上が確保できています。また障害者支援施設とさの利用者様向けのミニ売店も、売上増の要因となっています。今年度も地元の農家より玄米を購入することで、利益率の向上に努めました。

#### ④ 請負作業部門(空調清掃)

支援施設とさの空調清掃を年2回、使用量が増える前(5月、10月)に実施しております。空調清掃を行う際は、通風孔周辺の清掃をより丁寧に行いました。

## 評価細目の自己評価結果 (カトレア)



# 障害者共同生活援助事業所 古里の家

## I 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、自立生活を目指す障がい者が地域社会の一員として共同生活を営むため、健康管理をはじめ、安定した日常生活を心豊かに明るく過ごすことが出来るよう、またスローガンである『信頼の継続』が達成できるように下記の目標を設定し達成に努めました。

<目標>

- 1 個別支援計画に基づき、利用者様の自立に向けた日常生活に必要な援助を行い、地域住民の一員として快適な生活が出来るよう支援しました。
- 2 利用者様の満足度を高めることができるように運営体制の充実に努めました。
- 3 利用者様やそのご家族、地域情勢や環境などを把握し、今後の方向性を見極めに努めました。
- 4 利用者様やそのご家族、地域情勢や環境などを把握し、今後の方向性を見極めに努めました。

## II 事業の概要

### 1 施設利用状況（利用定員 5人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
利用契約者数	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	(区分2)	25	10	10	8	30	23	13	12	13	14	11	30	199
	(区分4)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	(非該当)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	23	357
日数合計	59	41	40	39	61	53	44	42	44	45	39	53	560	

① 利用者様が地域において安全で安心して生活が出来るよう、個別支援計画を作成し、利用者様やご家族に理解をいただいたうえで実施しました。

② 利用者様の健康管理

年月	症状と対応	対応者	支援先
3ヶ月1回	定期健診通院	職員	土佐市民病院

- ・ 服薬管理や消毒を実施しました。

### 2 平成29年度活動状況

実施年月日	活動内容	参加者
平成29年6月20日	G H懇談会	利用者様2名、世話人、職員
9月19日	G H懇談会	利用者様2名、世話人、職員
10月21日	涼風祭	利用者様2名
12月21日	G H懇談会	利用者様2名、世話人、職員
平成30年3月22日	G H懇談会・お別れ会	利用者様2名、世話人、職員

① 利用者様一人ひとりの健康状態や嗜好を把握し健康管理に努めた。利用者様の希望も聞き入れ、行事食等の食事を提供するように努めた。

## ② 防災対策

- ・6月、9月、12月、29年3月に火災想定訓練を行った。
- ・消火器や火災報知機などの適正配置、検査の確認を行った。
- ・AED使用訓練への参加

## ③ バックアップ事業所（カトレア）との連携

- ・毎日朝夕（ホーム日誌、食事メニュー、鍵、連絡事項と申し送り等の確認）
- ・生活用品の発注、受取
- ・毎月食費会計報告と精算

## ④ 利用者様や世話人、地域の方からの要望や改善点などを把握するため定期的に懇談会を実施し、要望など対策や支援を行った。

- ・外出時やイベントなどの申し送りの徹底
- ・GH前の道路の安全対策
- ・トイレの水漏れ修理
- ・浄化槽の保守点検
- ・非常持出袋の点検、補充

## 3 利用者様の自己決定自己選択を尊重した支援に努めました。

### ① 利用者様との信頼の構築に努め、利用者様に想いを話してもらえる関係を築けるよう努めました。

## 4 施設運営状況

### ① 職員の配置状況

職種	管理者	サービス 管理責任者	世話人	生活支援員	合計
職員配置数	1	(1)	1	1 (1)	3 (2)

### ② 職員の勤務体系

- 管理者 1名 (カトレア施設長兼務 8:30~17:30)  
生活支援員 1名 (カトレア生活支援員兼務 8:30~17:30)  
世話人 1名 16:00から翌9:00 (火・木)

### ③ 閉鎖に向けた取組

カトレアのバックアップ施設として開設したが、カトレアの利用者確保も進み、稼働率110%で運営できるようになった。又、建物が平成12年に建築された中古住宅を購入しており、老朽化が激しく、雨漏りや建付け、排水設備の修繕が多発し、今後も修繕費の増大が見込まれ、閉鎖の方向で利用者様、ご家族と話し合いを行いました。1名のご利用者様は、地域移行で高知市内のアパートにて一人暮らしを始め、1名の利用者様は自宅にてご家族の支援を受けることとなり、平成30年3月に引っ越しの支援を行いました。今後とも2名の利用者様はカトレアへ通所され、就労訓練と社会適用訓練を行います。

# 障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

## I 事業の総括

- 1 土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、人権尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者様の立場に立った福祉サービスの提供に努めた。
- 2 利用者様が地域社会の一員として自立生活ができるよう支援を行うとともに、利用者様の主体的意欲を尊重し、経済的、文化的活動に参加できるよう支援を実施した。
- 3 地域社会や在宅者との結び付きを重視し、市町村・保健・医療及びその他関連サービスを提供する事業者と連携を保持するなど、隣接する就労継続支援B型事業所ウィール社とともに総合的な運営を行った。

## II 事業の概要

### 1 快適な施設、設備づくりと安全な生活環境づくり

- (1) 施設内は、清潔に努め、常に快適で潤いのある生活環境に努めた。
- (2) 施設の防災設備は、常に良好な状態で維持し、正常に作動するよう、保守点検を行った。
- (3) 非常災害に備え、消防計画に沿った総合的な防災、避難訓練を実施した。

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/24										3/14	2
消火訓練		5/24										3/14	2
通報訓練		5/24						11/22				3/14	3
図上訓練								11/7				3/29	2
防災地震訓練								11/7					1
防災水害訓練								11/14					1

- (4) 必要な修繕は発生の都度対応し、住居環境にふさわしい状態を維持した。
- (5) 施設内の事故防止に心がけると共に、防犯カメラを設置している。
- (6) 管理人は甲種防火管理者講習を受講した。

### 2 自立生活への支援

- (1) 一人ひとりに思いやりと気づかひの出来る、適切な支援を心がけた。
- (2) ウィール社と連携しながら、利用者様の日常の基本的な生活習慣の獲得にむけての援助や残存機能の維持、さらに就労意欲の高揚を図り、生活の安定と職業的自立に向けた取組みを図った。  
また、服薬管理、金銭管理の必要な方には、助言や支援を行った。
- (3) コーポラスこくふはウィール社の利用者様や他施設の利用者様との仲間意識を育む等、互いの労働意欲を高める交流の場としての役割を果たしてきた。

- (4) コーポラスこくふ周辺にスーパー等の店がないため、食品や日常生活用品の買物のために、週に一度最寄りのスーパー等への買物送迎を行った。
- (5) 自動車免許所持者で通勤や生活のために自動車を所有している方には駐車場を用意している。

### 3 施設運営状況

#### (1) コーポラスこくふを利用できる方

満 18 歳以上の障がい者であって、働く意欲のある方を対象者とする。

- ① 企業への就労や作業施設に通所される予定のある方、又は働いている方。
- ② 日常生活動作の自立と身の整理等ができ、地域社会の一員としての生活ができる方。
- ③ 原則として自己の責任において家賃や生活費を賄うことのできる方。
- ④ 伝染病等の疾病がなく共同生活を営むことができる方。

#### (2) コーポラスこくふの利用状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

区分	階層	戸数	居住面積	設備の状況	利用できる方	和・洋の区分	利用状況	家賃の額
単身者向住宅Ⅰ	1階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	トイレ、洗面台 流し台、寝台 冷暖房設備、浴室は 共用(男女別)	車椅子生活者	洋室	4人	月20,000円
	2階	4戸	26.7㎡ (26.25㎡)	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	4人	月20,000円
単身者向住宅Ⅱ	1階	1戸	43.8㎡	トイレ、洗面台 流し台、寝台 浴室、冷暖房設備	車椅子生活者	洋室	—	月30,000円
	2階	1戸	43.5㎡	畳部屋である。 他の設備は同じ	一般生活者	和室	1人	
共用施設	1階	管理人室 談話室 浴室 その他	33.75㎡ 34.50㎡ 52.50㎡ 93.15㎡	2階 小集会室 物置 その他	62.00㎡ 34.00㎡ 66.45㎡	駐車場	10台	すべて利用する (共同利用する) 共益費 2,000円～

#### (3) 利用契約者の状況

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

区分	障害の種類			
	身体	知的	精神	合計
契約者	3人	4人	2人	9人

年齢構成	男	女	計
50～59 歳	2	0	2
60～69 歳	5	2	7
計	7	2	9
平均年齢	61.7 歳	64.5 歳	62.3 歳

(4) コーポラスこくふの職員

管理者 1名 (ウィール社所長兼務)  
 管理人 1名 (17:30 ~ 8:30 勤務)

5 今後の支援方法の検討課題

- (1) コーポラスこくふは、日常生活が自立している方の入居となっているため介護人がいない。入居者の高齢化や機能低下とともに、日常生活活動レベルの維持とそれに向けた支援の対応が課題となる。
- (2) 日祭日の日中は、ウィール社が休日のため職員不在となり、緊急時の対応が課題となる。

## ◎公益を目的とする事業

### I 医療保健事業

本会定款第 38 条に定める医療保健の事業の状況は、高齢者や障害者が入所又は通所している以下の施設で医療や心身の状況に応じ、治療のみならず疾病の予防のための処置、その他リハビリテーションを実施した。

その内容は以下のとおりである。

事業所名	設置場所	配置人員	開設年月日	指定診療所
安芸療護園 診療室	安芸市赤野甲 564 障害者支援施設あき内	常勤医師 1 人 看護師(兼)1 人	昭和 60 年 7 月 29 日	医療法第 1 条の 5
国府寮診療所	南国市左右山 290-2 障害者支援施設こくふ内	嘱託医師 1 人 看護師(兼)1 人	昭和 63 年 6 月 1 日	＃

### II その他の事業（公益を目的とする事業）

- 1 居宅介護支援事業
- 2 小規模作業所ファーモニー
- 3 介護職員初任者研修
- 4 墓地（合祀廟）の経営
- 5 福祉モデル住宅の展示



【MEMO】

